

伊那市文化財保存活用地域計画 資料編

令和 6 年(2024 年) 7 月

伊那市教育委員会

目 次

資料編

1 伊那市の歴史年表	5
2 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)	33
3 伊那市内周知の埋蔵文化財包蔵地一覧	35
4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧	47
5 古い地名調査報告書一覧	53
6 歴史文化資源に関わる主な公開活用事業	56
7 アンケートによる保存・管理状況の把握	71
8 伊那市の民話・伝説・伝承	80

1 伊那市の歴史年表

※太字は全国的なできごと

時代区分	西暦	和暦	内 容
人類史以前			・戸台付近より出土する化石のアンモナイトや三角貝が、約 2 億 5000～6500 万年前の海に生息していた。
旧石器時代	BC5～3 万年頃		・ 現在伊那谷で最も古い石器が使われた。 [この時代の遺跡：飯田市竹佐中原遺跡]
	BC3 万年頃		・市域内で黒曜石のナイフ型、剥片石器などの石器を使う人類が活動する。
	BC2 万年頃		・ このころの日本列島は第四氷河期の末である。 ・乗鞍、御岳、焼岳などの火山灰で厚い新期ローム層が形成される。 ・ ナイフ型石器、尖頭器、搔器、錐、刃器などが使用される。 [この時代の遺跡：宮の前遺跡(御園)]
旧石器時代 最末期から 縄文草創期	BC 1 万 5000 年頃		・ローム層の堆積により、神子柴段丘が形成される。 ・神子柴遺跡(南箕輪村)などで出土する「神子柴型石器」が製作される。
	BC1 万年頃		・ 火山灰の堆積が終わり、気候も温暖化する。 ・投槍に用いる有舌尖頭器が出現する。 [この時代の遺跡：月見松遺跡(小沢)]
縄文草創期 ～縄文早期	BC9000 年頃		・ 土器と弓矢が発明され、狩猟・漁労・採集を生業とする新しい生活様式が生み出される。 [この時代の遺跡：三ツ木遺跡(富県)]
縄文早期	BC7000 年頃		・市域内で押型文や貝殻条痕文のある子母口式土器が使われる。 ・このころから各地に集落が営まれる。
縄文前期	BC5000 年頃		・ 温暖化のピークを迎え、縄文人の生活力が向上する。 ・ 竪穴住居の数軒の集落ができ、土器は丸底から平底に変化する。
縄文中期	BC2500 年頃		・ 縄文文化の爛熟期を迎える。 ・ 集落が大規模化し、土器・石器ともに多様なものが作られる。 ・ 石棒、顔面付釣手形土器、顔面把手付土器などを用いた呪術的信仰も行われる。 [この時代の遺跡：御殿場遺跡(富県)・月見松遺跡(小沢)]
縄文後期	BC2000 年頃		・ 気候の冷涼化に伴い、低地に遺跡が移り、その数も減少する。 ・ 注口土器、磨消縄文土器が作られ、敷石住居が出現する。 ・百駄刈遺跡(西春近)の祭祀遺構が造られる。
縄文晩期	BC1000 年頃		・ 冷涼化は続き、降水量も増す。 ・伊那においても、東北地方や東海地方の文化の影響を受けた抜歯の風習がみられる。 [この時代の遺跡：野口遺跡(手良野口)]

時代区分	西暦	和暦	内 容
弥生前期	BC800 年頃		・稲作農耕文化が北九州に伝わり、湿田で稲作が行われ、大陸より青銅器・鉄器が移入される。 ・気候は次第に温暖になり、弥生時代前期後葉には天竜川沿いに弥生文化が入ってくる。 [この時代の遺跡：荒神遺跡(野底)]
弥生中期	BC100 年頃		・伊那市域でも稲作が行われ、磨製石器も用いられる。 [この時代の遺跡：中村遺跡(中村・下島)、 末広六道原遺跡(美篤)]
弥生後期	AD200 年頃		・伊那市域でも鉄器が使用され、方形周溝墓が築かれる。大規模な集落ができ、環濠集落もできる。 ・このころから、三峰川の段丘などで、沢水を利用した水田耕作が始まる。 [この時代の遺跡：鳥井田遺跡(諏訪形)、中村遺跡(中村・下島)、 金井原遺跡(上山田)]
	239		・邪馬台国の女王卑弥呼が魏に遣いを送る。
古墳時代	300～500		・権力の象徴としての古墳が築造され、埴輪も造られる。 ・土師器が使われ、鉄製農具が普及する。須恵器・甕が普及する。 ・県下に前方後方墳の弘法山古墳(松本市)、前方後円墳の森將軍塚古墳(千曲市)といった大型古墳が造られる。 ・老松場古墳群(東春近中組)が造られる。 ・この頃、阿原古墳(富県)が築造される。 [この時代の遺跡：堂垣外遺跡(笠原)]
	538	宣化 3	・仏教が伝来する(一説に 552 年)。
	550	欽明 11	・この頃、科野の伊那部成立か。 ・この頃、前方後円墳である松島王墓古墳(箕輪町)が造られる。 ・科野国造の金刺・他田氏の祖が科野国を支配する。伊那地方は金刺氏が優勢であった。
	593	推古元	・聖徳太子が摂政となる。
	645	大化元	・乙巳の変により、蘇我氏本家が滅ぼされ、中大兄皇子らによる政治改革が始められる。(大化改新) ・この頃、名廻東古墳がある白沢古墳群が造られる。
	646	大化 2	・東山道に科野国が置かれる。
飛鳥時代	672	(天武元)	・壬申の乱が起こる。科野の兵も動く。
	694	(持統 8)	・藤原宮に遷都する。 ・この頃、藤原宮へ伊那郡の産物が送られる。
	700	文武 4	・この頃、信濃の諸牧が開かれる。
	701	大宝元	・大宝律令を定める。
	702	大宝 2	・古代東山道に代わり、「令制東山道」が開かれる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
奈良時代	710	和銅 3	・平城宮に遷都する。
	712	和銅 5	・『古事記』ができる。 ・科野国が信濃国と改められる。
	720	養老 4	・『日本書紀』ができる。
	721	養老 5	・信濃国を分け、諏方国を置く。伊那地方は諏方国に入る。
	731	天平 3	・諏方国を廃止し、信濃国に合併する。
	738	天平 10	・信濃国伊那郡小村郷から麻布が、中央官庁に献上される。
	759	天平宝字 3	・この頃、『万葉集』ができ、信濃に関係した歌が 18 首みえる。
平安時代	794	延暦 13	・平安京(京都)へ遷都する。 ・この頃、信濃国府が小県から筑摩へ移る。 [この時代の遺跡：原遺跡(山室)]
	801	延暦 20	・坂上田村麻呂、東征の途次、諏訪大明神の加護をうける。
	806	大同元	・各地でこれまで開発されてこなかった土地に、大型の堅穴建物を中心とした集落遺跡が新たに造られる。 [この時代の遺跡：福島遺跡(福島)、勸前遺跡(山寺)]
	815	弘仁 6	・この頃、最澄が東国へ布教に訪れる。
	816	弘仁 7	・慈覚大師により、仲仙寺の前身となる寺が経ヶ岳の麓に開かれる。
	823	弘仁 14	・信濃の御牧 16 牧の記述が『延喜式』に記載され、笠原牧も見える。
	894	寛平 6	・遣唐使派遣を中止する。
	937 頃	承平 7	・『和名類聚抄』に小村や福智、亘(手)良等の郷名が記される。
	1009	寛弘 6	・この頃、依田豊平(検校豊平)が一条天皇から非持に屋敷と田畑を与えられる。
	1068	治暦 4	・浅間山の噴火が 2 か月にわたって続く。
	1108	天仁元年	・浅間山が再び噴火する。
	1156	保元元	・保元の乱が起こる。信濃のほとんどの豪族が源義朝に従い戦う。
	1159	平治元	・平治の乱が起こる。信濃源氏の多くが源義朝に従い戦うが、敗れて信濃各地に隠棲する。
	1167	仁安 2	・平清盛が太政大臣になる。
	1180	治承 4	・源頼朝が黒河内郷と藤沢郷を諏訪上社に寄進する(1184 年とも)。
	1183	寿永 2	・黒河内氏初代の黒河内義純が黒河内に居館(後の神明城)をおく。
	1185	元暦 2	・壇ノ浦の戦いで平氏が滅びる。
鎌倉時代	1186	文治 2	・諏訪上下社領、黒河内と藤沢の年貢が未進となり、源頼朝から滞納分の完済を命じられる。 ・藤沢盛景が黒河内と藤沢での怠慢を頼朝からとがめられ、諏訪社への勤仕をきちんと行うように命じられる。
	1192	建久 3	・源頼朝が征夷大將軍に任じられる。

※太字は全国的なできごと
 ※(北)→北朝時代 (南)→南朝時代

時代区分	西暦	和暦	内 容
鎌倉時代	1193	建久 4	・曾我兄弟が工藤祐経(犬房丸の父)を討つ。
	1199	正治元	・小井亄為綱が信濃守護比企能員より大番役の催促をうける。
	1221	承久 3	・承久の乱がおこる。 ・伊那の諸武士、鎌倉幕府軍に属して戦う。福地十郎俊政が京軍に属して近江で戦う。
	1251	建長 3	・鎌倉幕府が小井亄二吉郷の地頭職を小井亄師能に安堵する。
	1274	文永 11	・元軍と高麗軍が博多湾へ上陸する(文永の役)。
	1281	弘安 4	・元軍と高麗軍が対馬・壱岐へ来襲する(弘安の役)。
	1324	正中元	・長谷の大揚寺が、門氣上人により開創される。
	1331	光厳 3(北)※ 元弘元(南)	・鎌倉幕府が光厳天皇を擁立し(北朝)、南北朝の対立構図となる。
	1332	正慶元(北) 元弘 2(南)	・小笠原貞宗らが、鎌倉幕府の命により京都に向かう。
	1333	正慶 2(北) 元弘 3(南)	・新田義貞の挙兵に信濃の武士が、多く加わる。 ・鎌倉幕府が滅亡する。 ・北条氏が滅び、北条高時の子の時行が諏訪に逃れ、高遠の藤沢辺りに隠れる。
南北朝時代	1335	建武 2	・中先代の乱が起こる。 ・伊那の諸氏、横河城に籠って小笠原貞宗の軍と戦い、敗れる。 ・諏訪頼重らが北条時行を擁して鎌倉を攻めるも敗れ、頼重父子が自害する。 ・信濃各地にいた北条時行の残党を、小笠原貞宗らが破る。
室町時代	1338	暦応元(北) 延元 3(南)	・足利尊氏が室町幕府を開く。
	1340	暦応 3(北) 延元 5(南)	・笠原の阿弥陀堂の薬師如来坐像が造られる。 ・北条時行が伊那郡大徳王寺城で挙兵するが、小笠原貞宗に敗れる。
	1344	康永 3(北) 興国 5(南)	・宗良親王が伊那郡大河原の香坂高宗方に身を寄せる。
	1352	文和元(北) 正平 7(南)	・宗良親王軍が鎌倉を攻めるも敗れて信濃に退く。
	1355	文和 4(北) 正平 10(南)	・この頃、藤沢氏が箕輪に進出し、代わりに諏訪大祝頼継の長子である諏訪信員が藤沢荘の地頭として高遠に入り、高遠氏の祖となる。 以後、7代にわたり高遠を支配する。
	1385	至徳 2(北) 元中 2(南)	・宗良親王が没する。
	1391	明德 2(北) 元中 8(南)	・大徳王寺住職の尊仁が宗良親王像の胎内文書を記す。
	1392	明德 3(北) 元中 9(南)	・南北朝が統一される。
	1394	応永元	・小笠原氏長が溝口下ノ城に入り、溝口氏を名乗る。

時代区分	西暦	和暦	内 容
室町時代	1400	応永 7	・信濃国守護の小笠原長秀が信濃諸武士の反乱に遭い、戦い敗れる(大塔合戦)。藤沢氏、笠原氏、大島氏、小井弓氏、春近の人々など、伊那の諸氏は小笠原軍に属して戦う。
	1412	応永 19	・山室の天福寺が谷宝山法華堂坊主に預けられる。
	1435	永享 7	・この頃、建福寺が諸山に列せられる。
	1440	永享 12	・ 結城氏朝ら関東の武士が、鎌倉公方足利持氏の遺児を奉じて室町幕府と戦う(結城合戦) 。伊那の「藤沢殿」、「甲斐沼殿」、「小井弓殿」が結城軍に属して戦う。
	1446	文安 3	・小笠原氏の家督争いが起こり、小笠原宗康方に黒河内正国、小笠原持長方に溝口秀重らが参戦する。
	1460	寛正元	・幕府が丈紀曇郁を伊那郡建福寺の住持とする。
	1467	応仁元	・ 応仁の乱がおこる。 ・諏訪上社が伊那廻湛の神事を行う。
	1473	文明 5	・羽広の山王権現社が再建される。 ・身延山第 11 世日朝上人が山室を訪れ、遠照寺が天台宗から日蓮宗に改宗する。16 世紀初めまでの間に、釈迦堂が建立される。
	1479	文明 11	・「高遠」の地名が初めて「守屋満實書留」に見える。
	1481	文明 13	・山田城主が諏訪氏に敗れる。
	1482	文明 14	・高遠の諸族と諏訪の諸族が争う。
	1487	長享元	・高遠の諏訪継宗が諏訪郡有賀を攻め、同郡福島も奪う。
	1493	明応 2	・伊那郡松尾の小笠原定基が、鈴岡の政秀父子を誘殺したため、筑摩府中の小笠原長朝らが松尾の小笠原定基を攻める。以後 40 年にわたり小笠原氏は府中と松尾に分かれて争う。
	1495	明応 4	・この頃、高遠の竜勝寺が栄える。
	1501	文亀元	・羽広の藤宝寺(後の仲仙寺)の仁王像が造られ、毘沙門・持国天像が修理される。
	1502	文亀 2	・吉田原豊前守が遠照寺の釈迦堂内に多宝塔を造立する。大工は鉾持住人の池上左衛門大夫政清。
	1511	永正 8	・この頃、高遠の鉾持神社が栄える。
	1528	享禄元	・武田信虎が諏訪に攻め入り、諏訪上社方に敗れる。
	1535	天文 4	・武田信虎が諏訪頼満と和睦する。 ・黒河内朝成が諏訪頼重の旗下に属す。
	1540	天文 9	・諏訪頼重が武田晴信(後の信玄)の妹を妻とする。 ・この頃、黒河内隼人政信が艮城を築く。
	1541	天文 10	・高遠の諏訪頼継が武田信玄に内通する。 ・武田信虎が子の信玄によって追放され、駿河の今川義元を頼る。
	1542	天文 11	・武田晴信が、高遠の諏訪頼継と通じて諏訪頼重を討つ。諏訪氏の本流が減じる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
室町時代	1542	天文 11	・高遠の諏訪頼継が信玄に反旗を翻す。高遠方が敗れ、武田の将が高遠に入り藤沢に放火する。
	1543	天文 12	・種子島に鉄砲が伝来する。
	1545	天文 14	・武田晴信が杖突峠から高遠を攻め、その後箕輪の福与城を攻める。福与城主の藤沢頼親と箕輪の諸氏は、籠城抗戦の後に降伏する。
	1547	天文 16	・武田晴信が高遠城の鋤立てを行う。
	1548	天文 17	・小笠原長時らが、村上氏、仁科氏、藤沢氏らと反武田同盟を結び、諏訪に乱入するも塩尻峠の戦いで敗れる。黒河内朝光が小笠原長時に合力する。
	1549	天文 18	・フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える。 ・武田軍が伊那に乱入する。高遠勢は杖突峠、青柳嶺、小豆坂で激戦を繰り広げたが、保科正俊が武田氏に内通し、敗れる。
	1552	天文 21	・高遠の諏訪頼継が遺臣の知行安堵を条件に甲府で生害し、高遠氏が滅ぶ。
	1553	天文 22	・第一次川中島合戦が起こる。以降 1564 年までに 4 回の合戦が行われる。
	1556	弘治 2	・溝口民部少輔正慶ら 8 人が武田晴信に抵抗し、狐島で処刑される遺骸は黒河内に葬られ、八人塚となる。 ・この頃、武田信玄の将、秋山虎繁が高遠城主となる。 ・黒河内朝英が黒川に陰伏する。
	1560	永禄 3	・桶狭間の戦いが起こる。織田信長が今川義元を破る。
	1561	永禄 4	・川中島の戦いに黒河内八郎が参戦する。
	1562	永禄 5	・武田信玄が四男の勝頼を伊那郡代として高遠城に置き、諏訪氏を名乗らせる。 ・信玄が保科八郎左衛門に伊那郡殿島と藤沢の地を与える。
	1568	永禄 11	・織田信長が足利義昭を奉じて上洛する。
	1570	元亀元	・武田勝頼が甲府に帰り、武田信廉が高遠城主となる。
	1571	元亀 2	・武田信玄が五男の五郎晴清を仁科五郎盛信と改名させ、安曇郡の仁科氏を継がせる。
	1572	元亀 3	・伊那の諸氏が武田氏に従い、遠江三方原に出陣する。
安土桃山時代	1573	天正元	・室町幕府が滅亡する。 ・武田信玄が伊那郡駒場で病死する。 ・炭住が高遠満光寺を再興する。
	1578	天正 6	・上杉謙信が没する。上杉家が分裂し、北信濃の諸武士も分かれて戦う。
	1581	天正 9	・武田信廉が大島城に移り、仁科盛信(信盛ともいう)が高遠城主になる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
安土桃山時代	1582	天正 10	・織田信忠が高遠城攻撃を前に、貝沼原に陣を敷く(一夜の城)。 ・織田軍による高遠城攻めが行われ、高遠城が落城する。仁科五郎盛信は戦死する。 ・武田勝頼が自刃し、武田氏が滅亡する。 ・本能寺の変が起こる。 ・保科正直が徳川家康に従う。正直は高遠城主となり、伊那郡半分の地が与えられる。 ・伊那郡が徳川家康の勢力下に入る。 ・保科正直が藤沢頼親の箕輪城(現在の福与城)を攻め落とす。
	1583	天正 11	・保科正直が建福寺に禁制を発給する。
	1585	天正 13	・小笠原貞慶が家康と絶ち、高遠城の保科氏を攻めて敗れる(鉾持棧道の戦)。
	1586	天正 14	・ 羽柴秀吉が太政大臣となり、豊臣姓を受ける。
	1590	天正 18	・豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻める(小田原攻め)。信州の諸将もこれに加わる。 ・保科正直が下総国多胡に移り、高遠領は飯田城主の毛利秀頼の所領として、城代勝斉によって統治される。 ・毛利秀頼が、入野谷 5 か所を御囲山とする。
	1593	文禄 2	・飯田城主の毛利秀頼が没し、京極高知が伊那郡を支配する。伊那と高遠は城代岩崎左門が統治する。 ・太閤検地が始まる。
	1600	慶長 5	・関ヶ原の戦いが起こる。 ・伊那は徳川家康の蔵入地となり、朝日受永が伊那代官となる。 ・保科正光が 2 万 5 千石所領をあてがわれ、下総国多胡より高遠へ復帰する(高遠藩の成立)。 ・黒河内朝英が保科正直に仕え、黒河内を領する。
	1601	慶長 6	・保科正直が没し、高遠建福寺に葬られる。
	1602	慶長 7	・保科正光が伊那郡小出村を検地する。
	1603	慶長 8	・ 徳川家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開く。
江戸時代	1612	慶長 17	・小笠原秀政が陣屋を木下へ移す。 ・江戸幕府がキリシタンを禁ずる。
	1614	慶長 18	・大坂冬の陣が起こる。保科正光と正貞も従軍する。 ・伊那街道の大改修が行われる。
	1615	元和元	・大坂夏の陣で豊臣氏が滅びる。 ・黒河内外記が保科氏に仕える。
	1617	元和 3	・2 代將軍徳川秀忠の実子である幸松(後の保科正之)が、高遠藩主である保科正光の養子となる。
	1618	元和 4	・保科正光が洗馬郷の 5 千石を加増され、高遠領が 3 万石となる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1619	元和 5	・『赤羽記』ができる。
	1623	元和 9	・ 徳川家光が 3 代将軍となる。
	1626	寛永 3	・ 諸国で大干ばつとなり、草木が枯れる。
	1631	寛永 8	・保科正之が家督を継ぎ、高遠城主になる。
	1633	寛永 10	・保科正之が江戸城外桜田御門内に屋敷を与えられる。
	1635	寛永 12	・ 参勤交代制が始まる。
	1636	寛永 13	・保科正之が最上 20 万石へ転封し、最上より烏居忠春が 3 万 200 石で高遠へ入封する。正之の転封に伴い、上島帯刀、黒河内平兵衛、一ノ瀬勘兵衛等が譜代衆として随行する。
	1637	寛永 14	・烏居忠春が黒河内氏に知行地 30 石・免地 5 反歩を与え、黒河内・浦・溝口の 3 か村の名主役と郷内木改役、城付鉄砲 5 挺分の軍役を命ずる。 ・まむし平採草地をめぐり、高遠領と箕輪領が境界を争う。 ・ 島原の乱がおこる。
	1639	寛永 16	・ ポルトガル船の来航が禁止される(鎖国)。
	1640	寛永 17	・高遠領中沢郷の四郎左衛門が、キリシタンとして捕えられ処刑される。 ・ 幕府が宗門改約を設置し、寺請制度が確立する。
	1641	寛永 18	・ この年から 2 年間、諸国が干ばつ、秋暴風に見舞われ、大飢さんが起こり、餓死者が多数出たほか、米も高値となる。
	1643	寛永 20	・保科正之が最上から会津若松へ転封となり、23 万石の城主となる。 ・ 幕府が田畑永代売買禁止令を出す。 ・衣類について、庄屋は絹布木綿、脇百姓は木綿のみとするよう触状が出る。
	1645	正保 2	・飯田藩箕輪領で、梨木新田(西箕輪)の開発が行われる。
	1648	慶安元	・脇坂氏の箕輪領代官、加集空之助が大泉新田村を見立てる。
	1649	慶安 2	・ 幕府が検地条目を制定する。 ・春日街道の大泉宿などを廃し、伊那街道北殿・大泉合宿ができる。
	1653	承応 2	・脇坂安親が羽広山仲仙寺へ絵馬を奉納する。
	1654	承応 3	・ この頃までに五人組制度ができる。 ・高遠領内の農民に逃散するものが出る。
	1655	明暦元	・佐久の柳沢弥左衛門と市川五郎兵衛の両人が貝沼原開発のため、新井筋の建設に着手する。
	1656	明暦 2	・烏居氏が高遠領内の検地を行う。 ・高遠領入野谷郷戸台川筋 15 か所、三峰川 19 か所が御立山に指定される。 ・藤沢郷北原村に庚申塔が建てられる(上伊那で最も古い庚申塔)。
	1658	万治元	・三峰川で大洪水が起こる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1663	寛文 3	・高遠藩主の鳥居忠春が亡くなり、鳥居忠則が高遠藩主となる。
	1665	寛文 5	・ この頃から信濃各藩で宗門改帳が作られる。 ・高遠領内の絹布の尺を定める。
	1666	寛文 6	・高遠藩が城下の酒屋株と酒造石数を定める。
	1670	寛文 10	・高遠藩主鳥居忠則の弟である忠辰が、幕府の中奥小姓となる。
	1672	寛文 12	・飯田藩主の脇坂安政が播磨国竜野へ転封し、箕輪領は幕府領(天領)となり、飯島陣屋付となる。
	1673	延宝元	・ 幕府が分地制限令を出す。
	1675	延宝 3	・高遠領川下郷野底村の百姓が欠落(逃散)し、屋敷と田畑が売却される。
	1681	天和元	・高遠領内の藤沢郷に御堂垣外宿が整備され、甲州道中並の伝馬賃銭となる。栗田、四日市場宿が創置される。
	1687	貞享 4	・高遠藩役所が箕輪領豪農漆戸家より 110 両を借用する。
	1689	元禄 2	・高遠藩主鳥居忠則が改易となり、城と領地は松本藩主の水野忠道が預かり、所領は一時天領となる。 ・溝口村が藩に「信州高遠領溝口村萬書上帳」を提出する。 ・非持山の上村蓮台地籍に馬頭観音ができる(長谷で最も古い馬頭観音)。
	1690	元禄 3	・高遠領内の村々が総検地について、難渋願いを提出する。 ・高遠領内の村々に検地野帳を改めさせ、検地帳を下付する。 ・幕府が松代藩に命じ、高遠領総検地を行う。新石高が 39,327 石となる。 ・溝口、非持、荊口、山室の 4 か村が木師郷村への加入を拒否される。
	1691	元禄 4	・高遠領入野谷郷黒河内村で村内の鉄砲改めを行う。 ・摂津国富田(現在の大阪府)から内藤清枚が高遠藩主として入封する。石高 3 万 3 千石。 ・清枚が家中法度 28 か条を発布する。 ・検地によって打ち出された 6 千余石は幕府領となる。
	1693	元禄 6	・中馬稼ぎの禁止を求めて伊那 16 か宿の間屋が、中馬業者と松本商人を相手取り訴訟を起こす。
	1694	元禄 7	・前年の中馬訴訟の裁定が出て、中馬稼ぎが従来通り認められる。
	1696	元禄 9	・権兵衛街道が開かれ、翌年より伊那米の木曾への移送が始まる。
	1697	元禄 10	・高遠領の「城下町絵図并家数間数役付帳」が作成される。 ・高遠町方各戸の間口奥行を測り伝馬役、人足役を決める。
	1699	元禄 12	・ 各地で大雨による洪水が発生し、飢きんとなる(元禄の飢きん)。 ・高遠領内で類族キリシタン改めが行われる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1703	元禄 16	・高遠城下に火消制度ができる。 ・宗門改めの結果、高遠藩の領民が 38,100 人余を数える。
	1704	宝永元	・ 抜け参り(無許可での伊勢参り)の風習が信濃一円に広まる。
	1706	宝永 3	・筑摩郡の中馬と伊那郡の中馬の間で紛争が起こり、通し馬・継ぎ馬が自由となる。
	1707	宝永 4	・ 富士山が大噴火をする。 伊那地方にも灰が降る。 ・ 南海・東海大地震が起こる。 高遠城も破損する。
	1709	宝永 6	・ 新井白石が幕政改革を行う。
	1710	宝永 7	・入野谷 4 か村(黒河内、溝口、市野瀬、非持)の惣百姓が、幕府巡見使に「唐傘連判状」を出して、貢税の減免を訴願する。
	1711	正徳元	・高遠藩主内藤清枚が家中に儉約令を出す。
	1712	正徳 2	・伊那の 24 か村が木曽 3 宿の大助郷に指定され、この年から木曽助郷が始まる。 ・幕府が入野谷の濫伐禁止令を出す。 ・溝口宮の窪に長谷で最も古い庚申塔の 1 つが造られる。
	1713	正徳 3	・高遠藩役所に新職制として、水の手役が設置される。
	1714	正徳 4	・江戸城大奥の年寄、絵島が高遠へお預けとなり、非持村火打平の囲み屋敷に入れられる。
	1715	正徳 5	・天竜川、三峰川流域で大洪水が起こる。死者 33 名、流失家屋 64 軒、橋 36 基、田畑 7800 余石の土地を失うほどの未曾有の災害となる(正徳の「未の満水」)。
	1716	享保元	・ 徳川吉宗が 8 代将軍となり、享保の改革が始まる。 ・洪水が起こり、下新田周辺が被災する。
	1718	享保 3	・仲仙寺の楼門が造られる。 ・この年、伊那郡で干ばつと虫害により凶作となる。
	1719	享保 4	・絵島が非持村より高遠城下花畑の囲み屋敷に移される。 ・高遠領内では飢きんとなり、藩役所が扶持米 2,790 石を配布する。
	1722	享保 7	・ 上米の制を定める。 ・この頃新田開発が進む。
	1723	享保 8	・高遠藩が領内百姓の分地分家を禁止する。
	1724	享保 9	・老犬沢論争が起こり、溝口と非持村の境を藩役所で裁許する。 ・この頃伊那郡で甘藷(サツマイモ)の栽培が始まる。
	1725	享保 10	・樽木(くれき)の金納化が始まる。 ・高遠藩が兵制改革を行う。
	1726	享保 11	・天竜川で大洪水が発生し、春近郷表木村の枝郷、鍛冶ヶ島村 30 戸が全戸流失する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1727	享保 12	・山室川橋が大破損し、御囲山より老木 3 本の払い下げを願い出る。
	1730	享保 15	・溝口村常福寺庫裡修復用の材木を川下げする。
	1738	元文 3	・天竜川で大洪水が発生し、民家や人馬に大きな被害が出る。凶作のため、米価が高騰する。
	1739	元文 4	・高遠町で大火となり、170 戸を焼失する。 ・高遠藩が定免制を施行するが、3 分の 1 は検見取となる。
	1740	元文 5	・関盛胤が『伊那温知集』を著す。 ・この頃、各地に庚申塔が建てられる。
	1741	寛保元	・青木昆陽が高遠藩内の古書を採訪する。 ・絵島が花畑の囲屋敷で死去する(享年 61 歳)。遺言により日蓮宗蓮華寺に葬られる。
	1742	寛保 2	・高遠藩主の内藤頼由が家中法度 13 か条を発布する。
	1743	寛保 3	・「高藩探勝」絵巻が完成する。 ・伊那・佐久・小県の幕府領 159 か村が松本藩預かりとなる。
	1744	延享元	・三州の菅沼定次が高遠満光寺の鍾樓門を建てる。
	1745	延享 2	・阪本天山が東高遠荒町の屋敷に生まれる。
	1746	延享 3	・高遠藩が天竜川沿岸に小梁場を設け、定法を布達する。
	1749	寛延 2	・『新著問集』に孝行猿の物語が収められる。
	1750	寛延 3	・高遠城下で大火となり、町の大半を焼失する。
	1754	宝暦 4	・宇津木の薬師堂が有賀吉左衛門により建てられる。 ・非持村中馬が藤沢中馬に加わる。 ・藤沢、入野谷中馬が名古屋問屋に出入りしていた下伊那中馬の仲間となる。
	1756	宝暦 6	・除道の一部、「埵の日影」を改修する。 ・非持村と非持山村の分村について、村定 24 か条を決める。
	1759	宝暦 9	・高遠城下で大火となる。 ・非持村正随寺本堂に用いる木材を川下げする。 ・非持山七面堂が白鳥弥四郎、池上佐源治らによって建築される。
	1763	宝暦 13	・ 全国的に大干ばつとなり凶作となる。 ・熱田神社の本殿が造立される。大工は高見善八、彫刻は関口文次郎、粉色は森田清吉が手掛ける。
	1764	明和元	・幕府が信州全域の中馬に関する裁許書を出す(明和の中馬一件裁許)。
	1766	明和 3	・天竜川渡船について殿島 3 か村が規定を決める。
	1768	明和 5	・中尾村の小松浅右衛門が四国の旅芸人から義太夫を伝授される(中尾歌舞伎の始まり)。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1770	明和 7	・干ばつのため、溝口村が藩に実地検分を訴願する。
	1772	安永元	・天竜川流域で洪水が起こる。 中村伯先が江戸に遊学し、医儒両学を学ぶ。
	1773	安永 2	・高遠藩が「領内備蓄米定書」を出し、備荒制度を整える。翌年には高遠領民 1 万 5 千人余が備蓄米 154 石を積み立てる。
	1776	安永 5	・高遠藩主内藤頼由が隠居し、頼尚が家督を継ぐ。
	1777	安永 6	・高遠藩が農民の江戸での奉公稼ぎを禁じる。 ・この頃藩専売の家内工業が盛んになる。
	1778	安永 7	・阪本天山が周発台を発明し試射する。
	1779	安永 8	・葛上紀流が郷土誌『木の下蔭』を著す。 ・山室川橋の橋木簀子を川下げする。
	1783	天明 3	・ 浅間山が大噴火し、死者が 2 万人に及ぶ。 ・ 飢きんが 4 年間続く(天明の大飢きん)。 ・菅江真澄が伊那路を通り、殿島村等に滞在する。
	1784	天明 4	・高遠藩郡代の阪本天山ら一行が宮田から西駒ヶ岳に登り、「勒銘石」を残す。 ・高遠領内で凶作となる。
	1786	天明 6	・中村伯先が句集『葛の葉表』を著す。 ・高遠領内で凶作となり、岩崎宅右衛門が凶作検分をする。
	1787	天明 7	・ 米価が高騰し、江戸や大坂で打ちこわしが発生する。 ・ 松平定信が老中となり、寛政の改革が始まる。 ・高遠領内では凶作のため、飢渴者に飢扶持を支給する。
	1789	寛政元	・三峰川流域で洪水が発生し、長谷地域の低地の大半が水没する(酉の満水)。
	1791	寛政 3	・高遠藩主内藤長好が没し、頼以が家督を継ぐ。
	1792	寛政 4	・天竜川流域で大洪水が発生し、多くの田畑が流失するなど、甚大な被害が発生する。
	1795	寛政 7	・阪本天山が『火砲説』を著す。
	1796	寛政 8	・除道の大改修が行われる。
	1797	寛政 9	・阪本天山が『国友紀行』を著す。
	1798	寛政 10	・三峰川流域で大洪水が発生し、上殿島村では田畑 4 町 6 反歩余が流失する。 ・中村元恒が京都に遊学し、医学や儒学を学ぶ。
	1800	寛政 12	・阪本天山が高遠を離れ、長崎へ旅立つ。 ・星野葛山が高遠城の歴史書『高遠記集成』を著す。 ・各地で庚申塔が建てられる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1803	享和 3	・阪本天山が長崎で没する。高遠峰山寺に墓が建てられる。
	1804	文化元	・高遠藩士の石川重左衛門が長崎でレザノフから世界地図を得て、模写する。
	1806	文化 3	・この頃、笠原紙の生産が始まる。 ・高遠や伊那の石工が各地で活躍する。
	1809	文化 6	・南小河内(現在の箕輪町)の矢島敏彦が関流の和算を伊那谷に広め、以降伊那周辺でも盛んになる。
	1811	文化 8	・伊能忠敬が測量のため、三河より伊那路を通る。
	1812	文化 9	・藤沢や三義で産出する石灰を諏訪地方へ移出し始める。 ・中村元恒が『伊那志略』を著す。
	1813	文化 10	・狐島村の北沢勝兵衛が江戸に出て曾根直次郎に心学を学ぶ。 ・西春近小出諏訪社の本殿を立川富昌が手掛ける。 ・中村元恒が『路原拾葉』の集成に着手する。
	1814	文化 11	・高遠藩が美濃から陶工の加藤宇兵衛を呼び、勝間河原に窯を築き、高遠焼を始める。 ・鞠ヶ鼻井筋の改修工事に着手する。
	1815	文化 12	・山室の石工北原佐吉が東海道由比宿の桃源寺に七観音の大作を造立する。
	1817	文化 14	・羽広村の林宗賢が『養蚕秘伝集』を著す。
	1820	文政 3	・塩供村の石仏師守屋貞治が、建福寺や桂泉院の石仏を彫刻する。 ・高遠藩主内藤頼以が隠居し、頼寧が家督を継ぐ。
	1821	文政 4	・細田恭文が現在の春近神社に算額を奉納する。 ・荊口村の「刈敷割山符定書之事」がまとめられる。
	1822	文政 5	・高遠藩が財政改革を行い、急才覚金を上納させる。 ・高遠藩が特別奉公として百姓に木綿織、わらじの上納を命じたため、領内で百姓一揆がおこる(興津騒動・洗馬騒動)。
	1824	文政 7	・諏訪郡上古田村の小尾今右衛門と今井村の増沢兵左衛門らが、入野谷郷黒河内村から白崩岳(東駒ヶ岳)に登る。この年以降、伊那側からの信仰登山が盛んになる。 ・中村元恒が高遠藩儒となる。『路原拾葉正編』150 巻をまとめる。 ・天竜川通船に対して、高遠領の村々30 か村が難渋筋を申し出る。
	1827	文政 10	・「分杭書替普請」が行われ、入野谷 16 か村で賄う。
	1828	文政 11	・高遠領内の河川で洪水が起こり、殿島村の渡船が流失する。 ・この頃から中尾歌舞伎が盛んになる。 ・羽広村の林宗賢が『飢餓用心集』を著す。
	1829	文政 12	・心学者の北沢勝兵衛と北原邦太郎が『積善録』を刊行する。 ・高鳥谷神社が立川富昌の手により造営される。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1830	天保元	・天竜川通船が中馬村々の承諾により始まる。 ・南非持に刈敷割山ができる。
	1832	天保 3	・ この年から7年間、全国的な飢きんが続く(天保の大飢きん)。 ・高遠藩の岡村菊叟が城下に産物会所を建てる。 ・藩の奨励策により、笠原と芦沢で紙(笠原紙)の生産が盛んになる。 ・石仏師守屋貞治が没する。
	1833	天保 4	・杉島村の伊東伝兵衛によって鞠ヶ鼻井筋が完成する。
	1834	天保 5	・高遠藩が藩営桑園をつくり、領内に桑苗植付世話役を任命する。 ・高遠城下で2回の大火があり、町の大半が焼失する。
	1836	天保 7	・高遠藩が村々の飢渴者へ、1人5升の御救米と1戸につき200文を下賜する。
	1840	天保 11	・伊那部宿で大火がある。 ・高遠藩内藤家の拝地150年祭が行われる。 ・高遠藩が文武殖産興業政策を実施する。 ・伊東伝兵衛がこの年までに「三峰川筋御新開場」を5か所造る。
	1841	天保 12	・ 老中の水野忠邦が天保の改革を始める。 ・高遠藩が高遠焼の生産を民営とする。
	1842	天保 13	・高遠藩が領内に儉約令を布達する。
	1843	天保 14	・伊那部宿で再び大火がある。 ・高遠藩が財政改革にあたり、9か条を申し渡す。 ・殿島村の北沢正延が「夕陽学舎」を開設し、人々に国学や漢学を教える。
	1845	弘化 2	・中村元起が高遠藩儒となる。 ・宇津木薬師堂に三十三観音が造られる。
	1846	弘化 3	・伊那部宿の須田経哲が江戸に出て蘭学や医学を学ぶ。
	1847	弘化 4	・ 善光寺大地震が起こる。 伊那地方も強く揺れる。 ・三義赤坂から高遠城下まで御用水を引くため、高遠藩が直営で工事を行う(月蔵井筋)。
	1848	嘉永元	・六道原の新田開発が始まる。
	1849	嘉永 2	・六道の堤(溜池)の工事が始まる。 ・美篤末広新田開発のため、高遠藩が六道一番井の開削を始める。 ・中村元恒が高遠藩に財政窮乏の打開策を請願するも却下され、黒河内に流謫される。
	1850	嘉永 3	・高遠藩直営の末広新田開発工事が完了する。 ・中村元恒が和泉原に蟄居中に『黒水一滴』や『八人塚碑記』を著す。
	1851	嘉永 4	須田経哲が伊那部宿で西洋医術を開業する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1853	嘉永 6	・ペリーが軍艦 4 隻を率いて浦賀に来航する。 ・品川沖御台場普請に高遠石工百余人が参加する。 ・高遠藩が洗馬郷から桑苗を購入し、領内で試作する。京都から織工を招き、絹織物業を奨励する。
	1854	安政元	・幕府が日米和親条約に調印する。
	1855	安政 2	・高遠領内より木曽三宿への助郷が人足 7,199 人、馬 1,330 頭にのぼる。
	1857	安政 4	・三峰川が氾濫し、領主が被害地の検分を行う。
	1858	安政 5	・幕府が日米修好通商条約に調印する。 ・オランダ、ロシア、イギリス、フランスと条約調印する(安政五か国条約)。 ・江戸や甲州方面から「コロリ(コレラ)」が伝染し、流行する。 ・俳人の井上井月が伊那に来て住む。 ・川下り郷の三峰川沿いと、春近郷の天竜川沿いで国役普請を行い、人足 10 万 4 千人、金 2,500 両をかけて完成する。 ・除新道、8 か村の普請で完成する。
	1859	安政 6	・分杭の書替普請が行われ、費用の 8 割を市野瀬村と中尾村の 2 村で負担する。
	1860	万延元	・大老の井伊直弼が水戸浪士に暗殺される(桜田門外の変)。 ・高遠藩校(後の進徳館)が開設される。 ・各地で庚申塔が建てられる。
	1861	文久元	・皇女和宮降嫁の行列が中山道を通行する。 ・須田経哲が江戸でクロコホルムを使用した手術を初めて行う。
	1862	文久 2	・他国出稼ぎの石工が最多となり、入野谷郷で 337 人、長谷地域では 72 名にのぼった。 ・高遠領内 73 か村が和宮下向時の助郷人馬賃金をめぐり、3 度訴訟を行う。
	1864	元治元	・第 1 次長州征討が起こる。高遠藩も幕府軍として大坂へ出陣する。 ・武田耕雲斎らの水戸浪士が伊那谷を通行し、伊那郡宿で休む。 ・非持村ほか 8 か村が山室川橋の普請を行う。 ・臼田五稜郭(竜岡城)の築城に溝口村の石工中山兼太郎が加わる。
	1865	慶応元	・第 2 次長州征討が起こる。高遠藩も幕府軍として参加する。 ・溝口村の阿弥陀堂に俳額が掲げられる。 ・中尾歌舞伎が盛んになる。
	1866	慶応 2	・木曽騒動鎮圧のため、松本藩と高遠藩が出動する。 ・高遠藩の領内河川が洪水に見舞われ凶作となり、殿坂に御救小屋が建てられる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1867	慶応 3	- 各地で「ええじゃないか」騒ぎがおこり、神仏のお札が降る。高遠城下では4日間、大泉村では3日間もの騒ぎとなる。 ・大政奉還が行われ、王政復古の大号令が発せられる。
	1868	慶応 4	・戊申戦争が起こる。 ・高遠藩が越後方面へ出兵する。 ・府藩県三治制により、上伊那は高遠藩と伊那県になる。 ・江戸が東京に改められる。 ・飯島陣屋が伊那県庁となり、初代知事に北小路俊昌が任命される。
明治時代	1868	明治元	・明治と改元される。
	1869	明治 2	・高遠藩主・内藤頼直が版籍奉還を行い、藩知事に任命される。 ・二分金騒動が起こる。 ・入野谷郷と中沢郷で農民騒動が起こり、18 か条の歎願を掲げて高遠へ押し寄せる(入野谷騒動)。これに入野谷郷 16 か村の村民 2,000 人が加わる。
	1870	明治 3	・杉島橋が完成する。
	1871	明治 4	・内藤頼直が旧領内村々の神社に武具を寄進する。 ・廃藩置県が行われる。高遠藩が高遠県となり、内藤頼直が県知事となる。 ・筑摩県が設置され、中南信と飛騨が管下に入る。これにより伊那県と高遠県が廃止される。
	1872	明治 5	・筑摩県管内が 199 区に分けられ、上伊那は 29 区となる。 ・全国で戸籍調査が行われる(壬申戸籍)。 ・高遠城が取り壊される。 ・郵便取扱所が高遠、伊那部、松島、御堂垣外に開設され、郵便事業が始まる。 ・学制が発布される。 ・新橋－横浜間に鉄道が開通する。
	1873	明治 6	・太陽暦が採用される。 ・徴兵令を布告される。 ・筑摩県下で大区小区制が施行され、上伊那は 4 つの大区に分けられる。 ・政府が地租改正条例を布告する。
	1874	明治 7	・伊那に人力車が現れる。 ・坂下、荒井などが合併し、伊那村が誕生する。 ・長尾無墨が筑摩県権令と共に県下の教育状況を視察し、『説論要略』を著す。 ・高遠の満光寺で大博覧会が開かれる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1875	明治 8	・小村が合併し、伊那部・美簗・沢岡・富県・東春近・西春近・西箕輪・東高遠・西高遠・長谷・河合の各村が誕生する。 ・伊澤修二が師範学科取調べのため、アメリカに留学する。 ・太政官布告により、高遠城址が高遠公園となる。
	1876	明治 9	・国道、県道、里道の制度が定まる。伊那街道と岡谷街道が2等県道に指定される。 ・筑摩県を廃止し、長野県へ合併される。 ・この頃から高遠城跡に桜が植えられ始める。
	1877	明治 10	・西南戦争おこる。 ・鷹岩井筋が通水する。
	1878	明治 11	・400 年にわたる老犬沢論争が終結し、鹿嶺南斜面の不動岩に村界を刻む。
	1879	明治 12	・県内 10 郡を 16 郡に区分し、郡役所が設置される。上伊那郡役所は伊那村常円寺を仮庁舎として開庁する。
	1881	明治 14	・福島村が沢岡村から分村する。
	1882	明治 15	・日本銀行が開業する。
	1883	明治 16	・上伊那郡下の人力車が 206 台を数える。 ・沢岡村からさらに野口村と中坪村が分村する。 ・河合村が非持・山室・荊口・芝平・勝間・小原・上山田・下山田に分村し、長谷村は溝口・黒河内・中尾・市野瀬・杉島・浦に分村する。
	1884	明治 17	・高遠にキリスト教会でできる。
	1885	明治 18	・伊那電信分局が開設され、電報を取り扱うようになる。 ・連合戸長役場の制度となり、上伊那 57 か町村が 14 連合町村と 6 単独村となる。
	1886	明治 19	・小学校令、中学校令、師範学校令が公布され、翌年施行する。 ・県土木条規により、伊那街道が三州街道となる。 ・伊那警察署が発足する。 ・上伊那蚕業組合が設立される。
	1889	明治 22	・大日本帝国憲法が発布される。 ・市制、町村制が施行される。 ・一郡一校制により郡立上伊那高等小学校が開校し、本校が伊那村、分校が赤穂、中箕輪、高遠に置かれる。 ・上伊那郡役所が伊那村荒井に新築落成する。 ・池上秀畝が荒木寛畝の門に入り、日本画の研究をする。
	1890	明治 23	・第 1 回衆議院議員選挙が行われ、中村弥六が初当選する(以後連続 10 回当選)。 ・教育勅語が発布される。 ・伊澤修二が初代東京音楽学校長となる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1891	明治 24	・郡制が施行される。 ・初の上伊那郡会が開かれる。 ・府県制が施行される。 ・中尾の小松五郎九郎が台本『菅原伝授手習鑑』を写す。
	1892	明治 25	・伊那－高遠間に初めて電信が架設される。
	1893	明治 26	・中央線の伊那谷通過期成同盟会が結成される。 ・三州街道の改修が終わり、馬車の通行が可能になる。 ・この頃、天竜川の通船(船運業)が盛んになる。
	1894	明治 27	・国鉄中央線の本曾谷通過が決定する。 ・日清戦争始まり、翌年講和条約が結ばれる。
	1895	明治 28	・上伊那簡易農学校(現在の上伊那農業高校)が開校する。
	1896	明治 29	・伊那郡下の人力車が 265 台を数える。
	1897	明治 30	・天竜川に橋が架設される。 ・伊那村が町制施行で伊那町となる。
	1898	明治 31	・東春近村の飯島国俊ら養蚕家が、上伊那合資会社を設立し、製糸工場の経営を始める。
	1899	明治 32	・伊那電車軌道敷設計画が認可される。 ・上伊那郡生糸同業組合ができる。 ・両川手、青島堤防の復築工事が完成する。
	1900	明治 33	・この頃、上伊那に自転車が入る。 ・中村弥六がフィリピン独立運動支援のため、布引丸で武器を輸送する途中で船が沈没し、国際問題となる。 ・伊那－高遠間に乗合馬車走る。
	1901	明治 34	・天竜川に架設の伊那大橋が完成する。 ・金融恐慌がおこる。
	1902	明治 35	・中村不折が洋画研究のためフランスに留学する。
	1903	明治 36	・伊那－飯田間の天竜川通船にかかる回漕店の営業認可が下りる。
	1904	明治 37	・日露戦争が始まり、翌年講和条約が結ばれる。 ・郡立上伊那甲種農業学校が県立移管となり、長野県上伊那甲種農業学校と改称される。 ・上伊那郡下では、養蚕収入が米生産額を上回るようになる。 ・この頃、上伊那最初の常設劇場、旭座が開場する。
	1905	明治 38	・有限責任上伊那生糸販売組合が設立される。
	1906	明治 39	・西天竜用水路期成同盟会が設立される。
	1907	明治 40	・伊那電車軌道株式会社が設立される。
	1908	明治 41	・伊那電車軌道の第 1 期工事(辰野－伊那町間)に着手する。 ・糸価低落のため、養蚕業が停滞し、農村不況に陥る。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1910	明治 43	・電話が開通し、伊那、赤穂、平出、松島、西春近に電話局が置かれる。 ・伊那電車軌道の木下－松島間が開通する。
	1911	明治 44	・町立伊那実科女学校(現在の伊那弥生ヶ丘高校)が開校する。 ・南信自動車株式会社が伊那町－飯田間の乗合自動車営業を始める。 ・伊那町図書館が開設する。
	1912	明治 45	・伊那電車軌道の伊那松島－伊那町間が開通する。
大正時代	1912	大正元	・ 明治天皇が崩御する。大正と改元される。
	1913	大正 2	・上伊那最初の発電所である小黒発電所が完成する。 ・中箕輪小学校の生徒らが西駒ヶ岳で遭難する。 ・伊那電車軌道の伊那町－宮田間が開通する。
	1914	大正 3	・有限責任伊那生糸販売組合連合会竜水社が発足する。 ・ 第一次世界大戦が起こる。
	1915	大正 4	・西駒ヶ岳に石室造りの山小屋ができる。
	1916	大正 5	・田山花袋が蓮華寺の絵島の墓に詣でる。
	1917	大正 6	・高遠－伊那町間のバス路線が認可される。
	1918	大正 7	・伊那電気軌道株式会社と飯田電燈株式会社が合併する。 ・ 米騒動が起こる。
	1919	大正 8	・伊那町の大火で 144 戸が焼失したほか、上伊那郡役所、伊那女学校等も焼失する。 ・西天竜耕地整理組合の設立が認可される。 ・伊那電車軌道が社名を伊那電気鉄道と改称する。 ・ 糸価が最高値となり、蚕糸業界は空前の好景気となる。
	1920	大正 9	・長野県伊那中学校(現在の伊那北高校)が開校する。 ・伊那実科女学校を伊那高等女学校と改称する。
	1921	大正 10	・上伊那教育会編『上伊那郡史』が発刊される。
	1922	大正 11	・伊那高等女学校が県立に移管される。 ・西天竜水路幹線導水路工事に着手する。
	1923	大正 12	・建福寺の紙本墨画中観音左右龍虎図が国重要文化財に指定される。 ・伊那電鉄の辰野－飯田間が全線開通する。 ・ 関東大震災が起こる。
	1924	大正 13	・ ラジオ放送が始まる。 ・伊澤多喜男が台湾総督となる。
	1925	大正 14	・ 治安維持法が公布される。
	1926	大正 15	・町立高遠実業補習学校(現在の高遠高校)が開設され、町立高遠青年訓練所も併設となる。 ・上伊那郡役所を廃止する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1926	昭和元	・大正天皇崩御。昭和と改元される。
	1927	昭和 2	・金融恐慌が始まる。 ・西天竜幹線導水路が完成し、翌年から開田工事が行われる。 ・伊那電鉄の辰野－天竜峡間が全線開通する。
	1930	昭和 5	・農村恐慌が起こる。 ・上伊那図書館が開館する。
	1931	昭和 6	・満州事変が勃発する。
	1932	昭和 7	・組合製糸として竜水社傘下の 22 工場が 5 工場に整理統合する。
	1933	昭和 8	・日本が国際連盟を脱退する。 ・市野瀬堤防が完成し、25 町歩の水田ができる。
	1936	昭和 11	・伊那電が三信鉄道と連絡し、豊橋までつながる。 ・高遠城址公園内に高遠閣が完成する。
	1937	昭和 12	・日中戦争が始まる。
	1938	昭和 13	・伊那商業学校の設立が認可される。
	1939	昭和 14	・西天竜用水事業が完成し、1,177 町歩の水田や 196 町歩の畑が開かれ、灌漑水路の延長は 73 里余りになる。 ・浦と黒河内の森林鉄道建設工事に着手する。 ・帝室林野局木曽支局伊那出張所が開設される。
	1940	昭和 15	・伊澤多喜男が東京市長になる。
	1941	昭和 16	・国民学校令が施行し、小学校が国民学校となる。 ・太平洋戦争が始まる。 ・伊澤多喜男が枢密顧問官になる。
	1942	昭和 17	・町立伊那高等家政女学校(現在の伊那弥生ヶ丘高校に戦後統合)が設立される。 ・上伊那の満蒙開拓義勇軍が入植を始める。
	1943	昭和 18	・伊那電鉄、三信鉄道、鳳来寺鉄道が国有となり、飯田線となる。 ・陸軍伊那飛行場の建設が始まる。
	1944	昭和 19	・学徒勤労動員が実施される。 ・高千穂光学工業株式会社(現在のオリンパス株式会社)が、伊那町に工場疎開する。 ・学童集団疎開が始まり、市域でも各所で受け入れる。
	1945	昭和 20	・太平洋戦争が終戦となる。 ・長谷地域の三峰川で洪水が起こり、堤防が決壊する。 ・進駐軍が 10 月から翌年 1 月まで、上伊那図書館に駐留する。
	1946	昭和 21	・農地改革が実施される。 ・伊那北国民学校(現在の伊那北小学校)が伊那国民学校から独立する。 ・長谷地域の三峰川で洪水が起こり、堤防が決壊する。 ・日本国憲法が公布される。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1947	昭和 22	・新学制(6・3 制)が施行し、各町村に中学校が開校し、国民学校は小学校になる。 ・皇室林野局木曽支局伊那出張所が伊那営林署となる。 ・錦町に町立伊那中央病院が開院する(翌年、天竜町に移転)。
	1948	昭和 23	・国鉄バス高遠線が開設される。高遠－伊那里間も開通する。 ・伊那商業学校が閉校し、市域内に伊那北、伊那南(翌年弥生ヶ丘と改称)、上伊那農、伊那東、高遠の新制高等学校が発足する。 ・各町村に農業協同組合が設立される。
	1950	昭和 25	・伊那小の小沢と横山の分教場を統合し、伊那西小学校が開校する。 ・朝鮮戦争が始まる。特需景気が起こる。 ・遠照寺釈迦堂と堂内の多宝小塔が国重要文化財に指定される。
	1951	昭和 26	・サンフランシスコ講和条約が締結される。 ・中央アルプスが県立公園に指定される。 ・長谷地域の大犬沢トンネルが貫通する。
	1952	昭和 27	・小松五左衛門(鶴太夫)により、中尾歌舞伎が復活する。
	1953	昭和 28	・NHK がテレビ本放送を開始する。
	1954	昭和 29	・伊那町、西箕輪、手良、美篤、富県、東春近が合併し、伊那市が誕生する(人口 46,349 人、面積 172.12k m²)。 ・西箕輪中曽根集落が分市し、中箕輪町へ合併する。
	1956	昭和 31	・二軒家集落が箕輪町から編入する。 ・黒河内の森林鉄道が廃止される。 ・美和ダム本体工事が着工する。 ・高遠町、長藤村、三義村が合併して新高遠町となる。
	1958	昭和 33	・西箕輪小学校与地分校が閉校する。 ・藤澤村が高遠町に合併する。 ・春近発電所が開設される。 ・神子柴遺跡の発掘調査が行われる。 ・高遠ダムが完成する。
	1959	昭和 34	・美和村と伊那里村が合併して長谷村が発足する。 ・六道原に 230ha が開田する。 ・高遠・長藤・三義・藤澤中学校が統合し、町立高遠中学校となる。 ・伊勢湾台風が襲来し、各地で被害が発生する。 ・美和ダムが完成する。
	1960	昭和 35	・高遠の常盤と諸町で大火が起こる。 ・進徳館が県宝、高遠公園内のコヒガンザクラ樹林が県天然記念物に指定される。 ・伊那の中央橋が完成する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1961	昭和 36	・高遠中学校の新校舎が開校する。 ・長谷の中尾橋と千代橋、奥戸橋が完成する。 ・浦集落からの移転が始まる。 ・梅雨前線豪雨により三六災害が発生する。 ・県営西天竜発電所が開所する。
	1962	昭和 37	・伊那市立東部中学校が開校する。 ・西箕輪の前平のサワラが県天然記念物に指定される。 ・黒河内に三峰川電力第一発電所が完成する。
	1963	昭和 38	・長谷の三峰川橋が完成する。 ・山寺の白山社八幡社合殿やきもち踊りの習俗が県選択無形民俗文化財になる。 ・伊那市・西春近村組合立春富中学校が開校する。 ・伊那里中学校と美和中学校が統合し、長谷中学校が開校する。
	1964	昭和 39	・南アルプスが国立公園に指定される。 ・河南村が高遠町へ合併し、河南中学校も高遠中学校に統合される。 ・高遠城跡が県史跡に指定される。 ・東京オリンピックが開催される。
	1965	昭和 40	・西春近村を伊那市に合併する(人口 51,932 人、面積 208.75km²)。 ・西春近の白沢のクワが県天然記念物に指定される。
	1966	昭和 41	・富県の御殿場遺跡で発掘調査が行われ、顔面付釣手形土器が出土する。 ・学校法人信州学園伊那女子高等学校(現在の伊那西高等学校)が開校する。 ・仙丈ヶ岳に避難小屋が完成する。
	1967	昭和 42	・絵島囲み屋敷の復元建物が完成する。 ・上伊那郷土館が完成する。 ・中央道通過地の遺跡分布調査が行われ、16 遺跡を確認する。
	1968	昭和 43	・小沢の月見松遺跡で発掘調査が行われ、顔面把手付大深鉢が出土する。 ・笠原の堂垣外遺跡で発掘調査が行われ、古墳時代前期住居址が見つかる。ヤマト政権の伊那進出が裏付けられる。 ・南アルプス林道戸台大橋が完成する。
	1969	昭和 44	・西箕輪小学校北分校が閉校する。 ・富県の阿原古墳で発掘調査が行われる。 ・非持井一貫水路が完成する。 ・美和一貫水路が完成する。
	1970	昭和 45	・桂泉院梵鐘が県宝に指定される。 ・高遠町が三宅村と友好町村盟約を締結する。 ・長谷村が過疎地域対策緊急措置法の地域指定を受ける。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1971	昭和 46	・高遠町が過疎地域対策緊急措置法の地域指定をうける。 ・富県の御殿場遺跡が県史跡に指定される。
	1972	昭和 47	・札幌冬季オリンピックが開催される。 ・国道 153 号伊那バイパスが全線開通する。 ・中央道建設に伴い市内 16 遺跡で発掘調査が行われる。 ・8 つの農協が合併し、伊那農業協同組合が設立する。
	1973	昭和 48	・鹿嶺牧場が閉鎖される。 ・高遠城跡が国の史跡に指定される。
	1974	昭和 49	・上伊那農業高等学校が南箕輪村に移転する。 ・保養センター「仙流荘」が完成する。
	1975	昭和 50	・県伊那合同庁舎が完成する。 ・高遠町で町制施行 100 年記念式典が行われる。 ・中央道自動車道西宮線中津川－駒ヶ根間が開通する。
	1976	昭和 51	・保養センター「羽広荘」が完成する。 ・美和小学校と伊那里小学校が統合し、長谷小学校が開校する。 ・伊那市考古資料館が開館する。 ・中央自動車道西宮線駒ヶ根－伊北インター間が開通する。 ・分杭峠に「従是北高遠領」の碑が復元される。
	1978	昭和 53	・高校駅伝伊那大会が始まる。 ・中央アルプス西駒山荘を新築する。 ・過疎地域集落整備により、芝平 37 戸が上山田地区へ移転する。
	1979	昭和 54	・長藤小学校と藤澤小学校が統合し、高遠北小学校が開校する。 ・南アルプス林道が完成する。 ・『高遠町誌下巻(自然・現代・民俗)』が刊行される。 (『上巻歴史編』は昭和 58 年、『人物編』は昭和 61 年に刊行。)
	1980	昭和 55	・南アルプス林道が開通する。
	1981	昭和 56	・小豆坂トンネルが全面開通する。 ・伊那インターアクセス道路が完成する。 ・『伊那市史(自然編)』が刊行される。 (『現代編』は昭和 57 年、『歴史編』は昭和 59 年に刊行。)
	1982	昭和 57	・台風 10 号と 18 号が襲来し、長谷地域では戸台川の氾濫、仙流荘一部流失、三峰川橋の崩壊など、甚大な被害が発生する。 ・中央自動車道西宮線全線、343.9km が開通する。
	1983	昭和 58	・台風 10 号の豪雨により広域で災害が発生する。 ・伊那市総合運動場(現伊那市陸上競技場)が完成する。 ・過疎地域集落整備により、荊口 18 戸が上山田地区へ移転する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1984	昭和 59	・伊那市で市政施行 30 周年記念式典が行われる。 ・国道 361 号(経ヶ岳線)が開通する。 ・中央自動車道高速バス伊那－新宿間が運行開始する。 ・長谷村が静岡県福田町(現在の磐田市)と友好町村盟約を締結する。 ・高遠小学校と河南小学校が統合し、新高遠小学校が開校する。 ・高遠高等学校が東高遠から小原瀬戸に移転する。
	1985	昭和 60	・旧伊那女子高等学校跡地に伊那西高等学校が開校する。 ・戸草ダムについて建設省との協定書に調印する。 ・新水神橋が完成する。
	1986	昭和 61	・伊那インター工業団地 40ha の造成が完了する。 ・高遠町が新宿区との友好提携に調印する。 ・高遠町文化センターが完成し、高遠町図書館が開館する。 ・高遠町で町村合併 30 周年記念式典が行われる。 ・小松武志や西村清典らが中尾歌舞伎を再々復活する。
	1987	昭和 62	・国鉄が分割民営化する。飯田線は東海旅客鉄道(J R 東海)の管轄になる。 ・第 1 回伊澤修二先生記念音楽祭を開催する。 ・商家池上家民俗資料館が開館する。
	1988	昭和 63	・神子柴遺跡出土品が国重要文化財に指定される。 ・長谷の大犬沢橋が完成する。 ・県伊那文化会館が完成する。
平成時代	1989	平成元	・昭和天皇が崩御する。元号が平成に改元される。 ・新たな三峰川総合開発事業がスタートする。 ・御殿場遺跡出土の顔面付釣手型土器が国重要文化財に指定される。 ・国道 256 号小原工区が竣工し、白山トンネルが開通する。
	1990	平成 2	・高遠城址公園が日本さくらの名所 100 選に認定される。 ・伊那西部中部広域農道が全線開通する。
	1991	平成 3	・湾岸戦争が起こる。 ・バブルが崩壊する。 ・ソ連が崩壊する。 ・村道鹿嶺線の道路整備が完了する。 ・高遠町で町村合併 35 周年記念式典が行われる。 ・非持に絵島囲み屋敷跡公園が完成する。
	1992	平成 4	・道の駅南アルプスむらがオープンする。 ・信州高遠美術館が開館する。 ・南アルプスサミットが開催される。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
平成時代	1993	平成 5	・東春近田原で大規模山林火災が発生する。 ・伊那市役所が下新田に移転し、新庁舎が開庁する。 ・伊那市庁舎、伊那浄水管理センター、環状南線「平成大橋」の3事業竣工式が行われる。 ・長谷の熱田神社本殿が国重要文化財に指定される。 ・『長谷村誌第一巻民俗編人物編』が刊行される(『二巻自然編現代社会編』は平成6年、『三巻歴史編』は平成9年に刊行)。
	1994	平成 6	・白山橋が開通する。 ・高遠温泉さくらの湯がオープンする。 ・伊那市立図書館(現在の伊那市立伊那図書館)が開館する。 ・伊那市が愛知県知立市と友好都市を締結する。 ・伊那市が中国北京市通県(現在の通州区)と友好都市を締結する。
	1995	平成 7	・阪神淡路大震災が起こる。 ・高遠さくらホテルがオープンする。
	1996	平成 8	・(都)環状南線(ナイスロード)が開通する。 ・高遠町で町村合併40周年記念式典が行われる。 ・高遠町立歴史博物館が開館する。 ・長谷村伝統文化等保存伝習施設(中尾座)が完成する。
	1997	平成 9	・まほら伊那羽広温泉みはらしの湯が営業開始する。 ・長谷村伝統文化等保存伝習施設(中尾座)が開館する。
	1998	平成 10	・長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催される ・南アルプス生涯学習センター「入野谷」が完成する。 ・小黒川大橋が完成する。
	1999	平成 11	・はびろ農業公園「みはらしファーム」がグランドオープンする。 ・上伊那広域連合が発足する。
	2000	平成 12	・高遠大橋が開通する。 ・花の丘ループ橋が完成する。 ・高遠町が会津若松市と親善交流を締結する。
	2001	平成 13	・市民体育館、県伊那勤労者福祉センターが開館する。
	2002	平成 14	・高遠閣が登録有形文化財になる。
	2003	平成 15	・市道原田井1号線が完成し、小黒川大橋－新中央病院間が直結開通する。 ・上伊那図書館が閉館する。 ・伊那中央病院が、伊那市営から伊那中央行政組合立の病院として小四郎久保へ移転開院する。 ・旧馬島家住宅が県宝に指定される。 ・伊那市駅前第2－A地区市街地再開発ビル「いなっせ」・生涯学習センターが竣工、開館する。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
平成時代	2003	平成 15	・国道 361 号権兵衛トンネルが貫通する。 ・民俗資料館高遠なつかし館が開館する。
	2004	平成 16	・高遠町が福島県猪苗代町と親善交流を締結する。 ・伊那市、高遠町、長谷村の合併協議会が設立される。 ・伊那市で市制施行 50 周年記念式典が行われる。 ・台風 23 号により、市内各地で被害が発生する。
	2005	平成 17	・伊那市・高遠町・長谷村合併協定書調印式が行われる。 ・仲仙寺の木造金剛力士立像(阿形像及び吽形像)が県宝に指定される。
	2006	平成 18	・伊那木曽連絡道路権兵衛トンネルが開通する。 ・高遠町で閉町記念式典、長谷村で閉村記念式典が行われる。 ・伊那市、高遠町、長谷村の合併により、新伊那市が誕生する。 (人口 73,824 人、面積 667.81k m ²) ・新市発足に伴う伊那市長選挙、伊那市議会議員一般選挙が行われる。 ・高遠城が日本 100 名城に認定される。 ・伊那市が新宿区と友好提携を締結する。 ・集中豪雨により、市内各地で災害が発生する。
	2007	平成 19	・市の歌、花、木、鳥が決定する。
	2008	平成 20	・(都)環状北線が開通し、伊那インターアクセスと国道 153 号がつながる。 ・南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークが日本ジオパークに認定される。
	2010	平成 22	・国道 152 号高遠バイパスが開通する。 ・伊那市が会津若松市と親善交流を締結する。 ・伊那市創造館が開館する。
	2011	平成 23	・ 東日本大震災が発生する。
	2013	平成 25	・南アルプス長谷ビジターセンターが開所する。
	2014	平成 26	・南アルプス地域がユネスコエコパークに登録される。
	2015	平成 27	・「日本で最も美しい村」連合に高遠町地域自治区が新規加盟する。
	2016	平成 28	・西駒山荘石室が登録有形文化財になる。 ・伊那市民憲章が制定される。
	2017	平成 29	・小黒川スマートインターチェンジが開通する。 ・老松場古墳群の第 1 次発掘調査が行われ、1 号墳が前方後円墳であることが確認される。

時代区分	西暦	和暦	内 容
平成時代	2018	平成 30	・進徳の森と中村弥六の関連資料群が林業遺産に登録される。 ・一時中断していた中尾歌舞伎の再開公演が行われる。 ・信州伊那中尾歌舞伎後援会が発足する。 ・市内出土の土器 10 点を含む、信州の特色ある縄文土器が県宝に指定される。 ・環屋(旧中村家住宅)がオープンする。
令和時代	2019	令和元	・新天皇の即位により、元号が令和に改元される。 ・高遠保育園が西高遠から小原に移転し、新園舎が完成する。 ・台風 19 号豪雨が県内に大きな爪痕を残す。 ・フィンランド北カルカヤ県と伊那市が、林業や森林などの交流に関する覚書を締結する。
	2020	令和 2	・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界規模で感染拡大する。国内での流行を受け、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、全国的にイベントやスポーツ大会の中止、学校の休校措置、施設の休館措置などが相次ぐ。 ・東京オリンピック、東京パラリンピックの 1 年延期が決定する。 ・新型コロナウイルス感染症流行の影響により、市内各学校が一斉休校となり、市内の主な観光施設、体育施設、文化施設も一斉休館となる。 - 各種イベントが中止となり、高遠城址公園の閉鎖に伴い、さくらまつりも中止となる。 ・レジ袋の有料化が始まる。 ・勸前遺跡の第 1 次発掘調査が行われ、大型の竪穴建物址を含む建物群が発見される。
	2021	令和 3	・市道環状南線が開通する。 ・伊那市福祉まちづくりセンター「ふれあい〜な」が開所する。 ・新型コロナワクチン接種が始まる。 ・東ティモール民主共和国オリンピック選手団が伊那市内で事前合宿を行う。 ・東京オリンピック、東京パラリンピックが開催される。 ・老松場古墳群第 4 次調査が行われ、南信地域最古の前方後円墳であることが分かる。 ・伊那市と会津若松市が親善交流を宣言した。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
令和時代	2022	令和 4	・ロシアのウクライナ軍事進攻や円安の影響を受けて、生活必需品の値上げが相次ぐ。 ・新山保育園の新園舎が完成する。 ・西春近支所・西春近公民館が完成する。 ・高遠町観光案内所が開所する。 ・長谷総合支所の建て替え工事が始まる。 ・伊那市と東京都三宅村が親善交流を宣言した。 ・勸前遺跡の第 2 次発掘調査が行われ、大型掘立柱建物址が発見される。

【参考文献】 本年表は、『伊那市ふるさと百科』掲載の年表を元に、下記を参考として一部加筆・修正したものです。

朝尾直弘ほか編『新版 日本史辞典』（角川書店／1996 年）

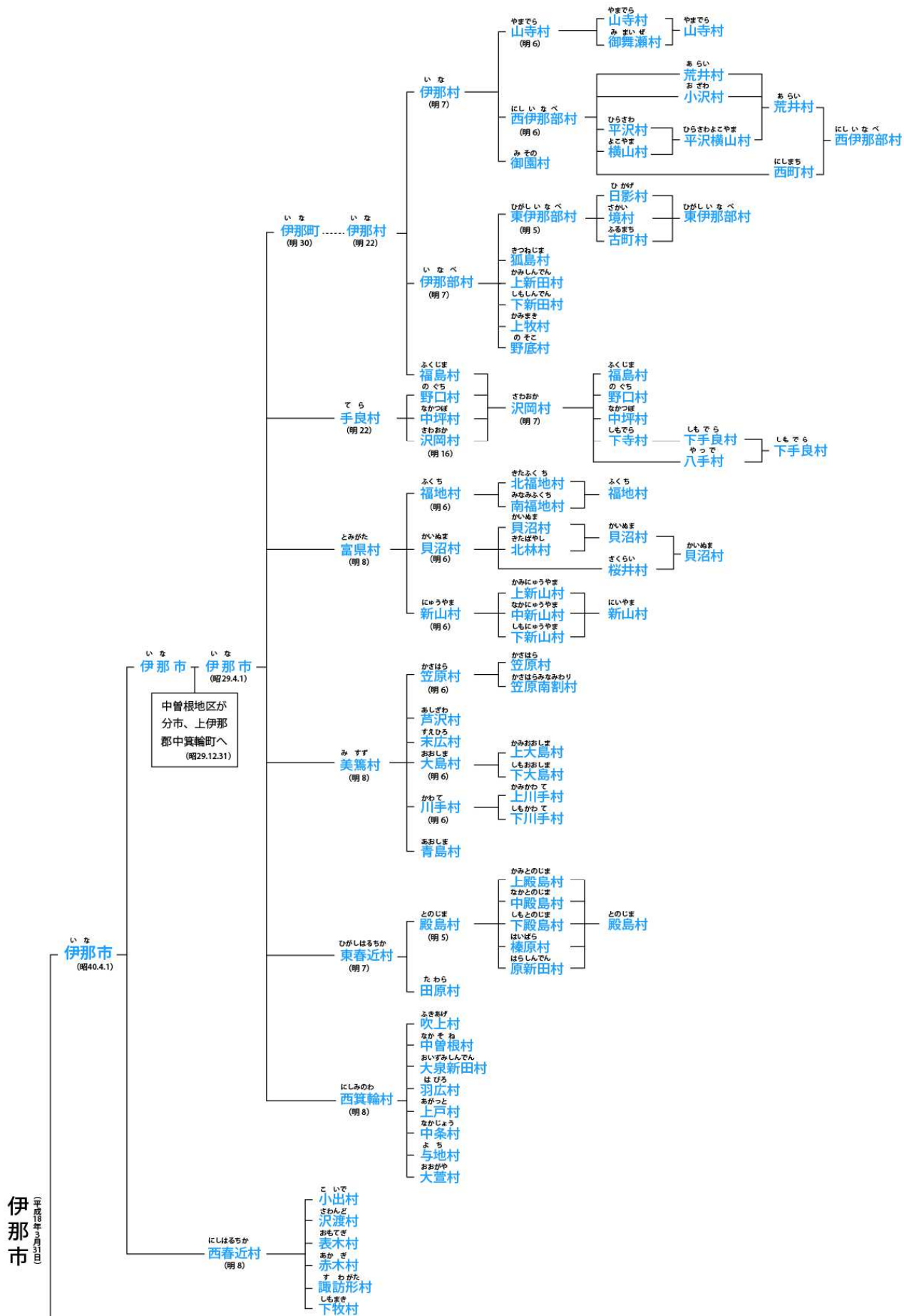
伊那市史編纂委員会『伊那市史現代編』（伊那市史刊行会／1982 年）

竹入弘元監修『ふるさと再発見 伊那市の歴史』（一草舎出版／2005 年）

春日博人ほか『伊那市ふるさと百科－あすの暮らしを育む文化事典－』（新葉社／2007 年）

長谷川正次『高遠四百年－高遠藩時代史－』（しんこう社／平成 14 年）

2 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)



※次ページに続く

※地名の読み方については、諸説あります。

※前ページに続く

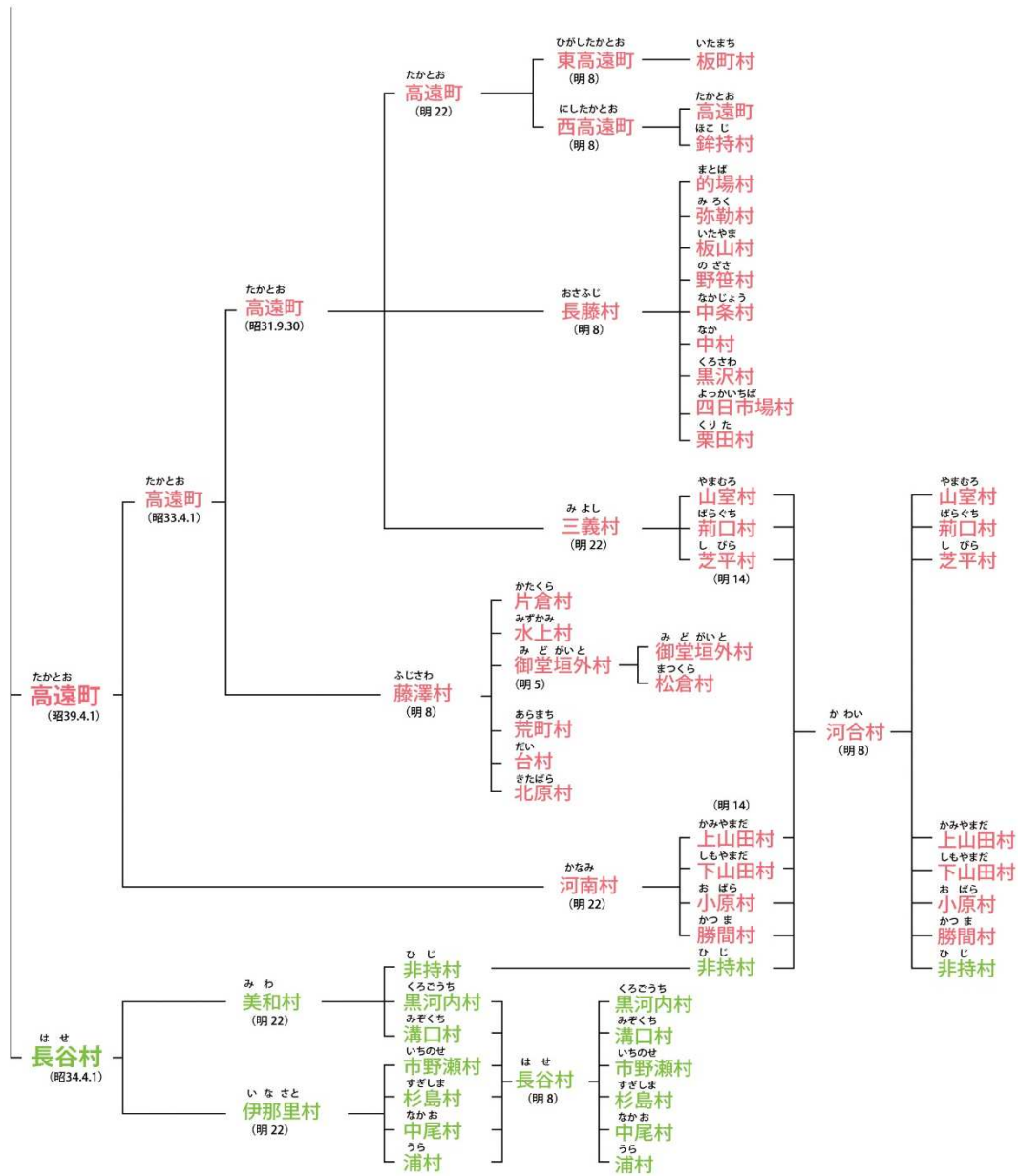


図. 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)

※地名の読み方については、諸説あります。

【参考文献】

伊那市『伊那市ふるさと百科 -あすの暮らしを育む文化事典-』（株式会社 新葉社／平成 19 年）

長野県『長野縣町村誌南信篇 -復刻版-』（株式会社 名著出版／昭和 48 年）

3 伊那市内周知の埋蔵文化財包蔵地一覧

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
1	桜畑	サクラハタ	西箕輪 吹上										集落跡	○	○	47
2	中道南	ナカミチナミ	西箕輪 吹上										散布地			
3	塚畑 I	ツカハタイチ	西箕輪 大泉新田										集落跡	○	○	15
4	久保田	クボタ	西箕輪 大泉新田										集落跡			
5	高根	タカネ	西箕輪 大泉新田										集落跡	○		211
6	北割	キタワリ	西箕輪 羽広										集落跡	○	○	24,207
7	田代	タシロ	西箕輪 羽広										集落跡			
8	経ヶ岳山麓	キョウガクサノロク	西箕輪 羽広										散布地	○		210
9	古屋敷	フルヤシキ	西箕輪 羽広										集落跡	○	○	16,207
10	蔵鹿山麓	ゾウロクサンロク	西箕輪 羽広										散布地			
11	金鑄場	カネイバ	西箕輪 羽広										集落跡	○	○	27,36,77, 78,209,211
12	財木	ザイモク	西箕輪 羽広										集落跡	○	○	27
13	西箕輪小学校北	ニシミノワシウガッコウキタ	西箕輪 大萱										集落跡	○		203
14	大萱西	オオカヤニシ	西箕輪 大萱										集落跡	○	○	7
15	伊那養護学校	イナヨウゴガッコウ	西箕輪 大萱										散布地	○		202,205, 209
16	在家	ザイケ	西箕輪 大萱										集落跡	○		210,1002
17	熊野神社	クマノジンジャ	西箕輪 大萱										集落跡			
18	富士塚	フジツカ	西箕輪 大萱										集落跡			
19	中条殿屋敷	ナカジョウトノヤシキ	西箕輪 中条・上戸										集落跡			
20	堂洞	ドウホラ	西箕輪 中条										集落跡			
21	上の原	ウエノハラ	西箕輪 中条										集落跡			
22	小花岡	コハナオカ	西箕輪 中条										集落跡	○	○	42
23	与地山寺	ヨチヤマデラ	西箕輪 与地										集落跡			
24	与地原	ヨチハラ	西箕輪 与地										集落跡	○	○	24,25
25	上戸	アガット	西箕輪 上戸										集落跡			
26	天庄 I	テンショウイチ	西箕輪 中条										集落跡			
27	天庄 II	テンショウニ	西箕輪 中条										集落跡	○	○	42
28	溝畑	ミヅハタ	西箕輪 中条										集落跡			
29	下の原	シモノハラ	西箕輪 中条										集落跡			
30	富士垣外	フジガイ	西箕輪 中条										集落跡			
31	宮垣外	ミヤガイ	西箕輪 上戸										集落跡	○	○	42
32	堀の内	ホリノウチ	西箕輪 中条										集落跡	○	○	42
33	中の原	ナカノハラ	西箕輪 中条										集落跡	○	○	16
34	牧ヶ原	マキガハラ	伊那(竜西) 御園										散布地	○		209
35	大清水	オオシミズ	伊那(竜西) 御園										散布地			
36	清水洞	シミズボラ	伊那(竜西) 御園										散布地			
37	宮の前	ミヤノマエ	伊那(竜西) 御園										集落跡			
38	御園東部	ミノノヘ	伊那(竜西) 御園										集落跡			
39	御園南部	ミノノヘ	伊那(竜西) 御園										集落跡			
40	石塚	イシヅカ	伊那(竜西) 山寺										集落跡	○	○	81,84
41	今泉	イネズミ	伊那(竜西) 山寺										集落跡	○	○	19,92
42	勘前	カンゼン	伊那(竜西) 山寺										集落跡			

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
43	鳥居原	トリイハラ	伊那(竜西) 山寺										集落跡	○	○	
44	高尾	タカオ	伊那(竜西) 山寺										集落跡	○	○	89
45	月見松	ツキミマツ	伊那(竜西) 下小沢										集落跡	○	○	4,8,18, 1004
46	月見松経塚	ツキミマツキョウヅカ	伊那(竜西) 下小沢										その他の遺跡(経塚)	○	○	8
47	小沢神社	オサワジンジャ	伊那(竜西) 小沢										散布地			
48	北方	キタカタ	伊那(竜西) 横山										集落跡			
49	矢塚畑	ヤヅカハタ	伊那(竜西) 横山										集落跡			
50	八人塚	ハチニンヅカ	伊那(竜西) 平沢										集落跡	○	○	34
51	関畑	セキハタ	伊那(竜西) 横山										集落跡			
52	おぐし沢	オグシザワ	伊那(竜西) 横山										集落跡	○	○	26
53	丸山清水 I	マルヤマシズミイ	伊那(竜西) 平沢										集落跡	○	○	31
54	穴沢	アナザワ	伊那(竜西) 平沢										集落跡			
55	天狗上	テングウエ	伊那(竜西) 西町大坊天狗										集落跡			
56	天狗下	テングシタ	伊那(竜西) 西町大坊天狗										集落跡			
57	小沢原	オサワハラ	伊那(竜西) 小沢										集落跡	○	○	52
58	ますみヶ丘上	マスカガオカウエ	伊那(竜西) ますみヶ丘										集落跡			
59	船窪	フナクボ	伊那(竜西) ますみヶ丘船窪										集落跡	○	○	48
60	鼠平 I	ネズミダライチ	伊那(竜西) 西町大坊										散布地			
61	鼠平 II	ネズミダライニ	伊那(竜西) 西町大坊										散布地			
62	上手原	ウデハラ	伊那(竜西) 西町大坊										集落跡			
63	城畑	ジョウハタ	伊那(竜西) 西町大坊										集落跡	○	○	48
64	城楽	ジョウラク	伊那(竜西) 西町小黑原										集落跡	○	○	83,86, 1004
65	ますみヶ丘	マスカガオカ	伊那(竜西) ますみヶ丘										散布地	○	○	1004
66	赤坂	アカサカ	伊那(竜西) 西町小黑原										散布地	○	○	70,208, 1004
67	富士塚	フジヅカ	伊那(竜西) 荒井										その他の遺跡 (信仰壇)	○	○	80
68	上ノ山	ウエノヤマ	伊那(竜西) 西町伊那部										集落跡	○	○	67,72
69	伊勢並	イセナラビ	伊那(竜西) 西町小黑原										集落跡	○	○	66,68,70
70	狐塚北古墳	キツネヅカキタコフン	伊那(竜西) 西町小黑原										古墳		○	
71	狐塚南古墳	キツネヅカミナミコフン	伊那(竜西) 西町小黑原										古墳	○		○
72	山の神	ヤマノカミ	伊那(竜西) 西町										散布地	○	○	14,76
73	小黑南原	オグロミナハラ	伊那(竜西) 西町										散布地	○	○	66,74
74	ウグイス原団地	ウグイスハラダンチ	伊那(竜西) 西町										散布地			
75	山本田代	ヤマモトシロ	西春近 山本										集落跡	○	○	1004
76	城平上	ジョウヒラウエ	西春近 山本										散布地	○	○	1003
77	城平	ジョウヒラ	西春近 城										集落跡	○	○	48,1003
78	宮林	ミヤバヤシ	西春近 城										散布地	○	○	48
79	山の根	ヤマノネ	西春近 城										集落跡	○	○	48,1003
80	八人塚古墳	ハチニンヅカコフン	伊那(竜西) 西町小黑原										古墳	○	2号消滅	
81	北条	キタジョウ	西春近 山本										集落跡	○	○	10,12
82	山本	ヤマモト	西春近 山本										集落跡			
83	常輪寺下	ジョウリンジシタ	西春近 山本										集落跡	○	○	10,12
84	上村	カムラ	西春近 上村										集落跡			
85	上島下	カミジマシタ	西春近 上島										集落跡			

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
86	上島	カシマ	西春近 上島										集落跡	○	○	9
87	東方B	ヒガシガタビ	西春近 東方										集落跡			
88	東方A	ヒガシガタエ	西春近 東方										集落跡	○	○	12
89	村岡北	ムラオカキタ	西春近 村岡										集落跡	○	○	12,207
90	大境	オオサカイ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	51,1003
91	百駄刈	ヒヤクダナガリ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	1003
92	中原	ナカハラ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	51
93	細ヶ谷A	ホソカヤエ	西春近 宮の原										散布地	○	○	44
94	西垣外	ニシカイ	西春近 細ヶ谷										散布地			
95	細ヶ谷B	ホソカヤビ	西春近 細ヶ谷										集落跡	○	○	51,1003
96	山寺垣外	ヤマデラガイ	西春近 白沢										集落跡	○	○	1003
97	白沢原	シラサワハラ	西春近 白沢										集落跡	○	○	1003
98	名廻	ナメグリ	西春近 白沢										集落跡	○	○	54,1003
99	名廻西古墳	ナメグリニシコフ	西春近 白沢										古墳			
100	名廻東古墳	ナメグリヒガシコフ	西春近 白沢										古墳	○		記録保存 199,1003
101	名廻南	ナメグリミナミ	西春近 白沢										集落跡	○	○	91,1003
102	鎮護塚東古墳	チンゴツカヒガシコフ	西春近 白沢										古墳	○	○	
103	鎮護塚西古墳	チンゴツカニシコフ	西春近 白沢										古墳	○	○	
104	宮の原 I	ミヤノハライチ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	
105	小出城	コイデジョウ	西春近 城										城館跡	○	○	13
106	村岡南	ムラオカミナミ	西春近 村岡										集落跡	○	○	12,204
107	浜射場	ハマイバ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	13,17
108	中村	ナカムラ	西春近 中村・下島										集落跡	○	○	33
109	中村東	ナカムラヒガシ	西春近 中村・下島										集落跡			
110	薬師堂	ヤクシドウ	西春近 下島										集落跡		○	
111	カンバ垣外	カンバガイ	西春近 南小出										集落跡	○	○	39
112	丸山	マルヤマ	西春近 南小出										集落跡	○	○	40
113	南原	ミナミハラ	西春近 南小出										集落跡	○		11,44
114	唐木原	トウキハラ	西春近 唐木										集落跡	○	○	
115	唐木古墳	トウキコフ	西春近 唐木										古墳			
116	兎塚 I	コウカイチ	西春近 白沢										集落跡	○	○	28,38, 1003
117	北丘B	キタオカビ	東春近 木裏原北丘										集落跡	○	○	54,1003
118	北丘A	キタオカエ	東春近 木裏原北丘										集落跡			
119	南丘B	ミナミオカビ	西春近 南丘										集落跡	○	○	1003
120	南丘A	ミナミオカエ	西春近 南丘										集落跡	○	○	1003
121	北丘C	キタオカシ	東春近 木裏原										集落跡	○		202
122	南丘C	ミナミオカシ	西春近 南丘										集落跡	○	○	45,210
123	眼子田原	マナコダハラ	西春近 沢渡										集落跡	○	○	22,23
124	山の神	ヤマノカミ	西春近 沢渡										集落跡			
125	上の塚	ウエノツカ	西春近 沢渡										その他の遺跡 (塚)			
126	沢渡南原	サワンドミナミハラ	西春近 沢渡										散布地			
127	下小出平	シモコイデタイ	西春近 下小出										集落跡			
128	天伯	テンバク	西春近 柳沢										集落跡			

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
129	下小出原	シモコイデハラ	西春近 柳沢										集落跡			
130	天伯原	テンバクハラ	西春近 下小出										集落跡			
131	東田	ヒガシダ	西春近 柳沢										集落跡	○	○	37
132	南原	ミナミハラ	西春近 柳沢										集落跡			
133	井の久保	イノクボ	西春近 表木										集落跡	○	○	46
134	表木原	オモテキハラ	西春近 表木										集落跡	○	○	46
135	山の下	ヤマノタ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	43,54
136	高遠道	タカトミチ	西春近 表木										集落跡	○	○	46
137	西春近南小学校	ニシハルチカミナシヨウガクコウ	西春近 表木										集落跡	○	○	
138	鳥井田	トリイダ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	49
139	菖蒲沢	ショウブザワ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	17,43, 1003
140	富士塚古墳	フジヅカコフン	西春近 諏訪形										古墳	○		記録保存 1003
141	富士山下	フジヤマノタ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	1003
142	広垣外Ⅰ	ヒロカイトイチ	西春近 諏訪形										集落跡			
143	広垣外Ⅱ	ヒロカイトニ	西春近 諏訪形										集落跡			
144	宮入口	ミヤイリグチ	西春近 諏訪形										集落跡	○		208
145	和手	ワデ	西春近 諏訪形荒井										集落跡	○	○	1003
146	上手南	ウデミナミ	西春近 諏訪形										集落跡			
147	城の腰	ジョウノコシ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	49
148	安岡城跡	ヤスオカジョウセキ	西春近 諏訪形										集落跡 城館跡	○	○	49
149	横吹	ヨコフキ	西春近 諏訪形										集落跡	○	○	49
150	寺村	テラムラ	西春近 表木										集落跡			204
151	下牧経塚	シモマキキョウヅカ	西春近 下牧										その他の遺跡 (経塚)	○	○	
152	下牧	シモマキ	西春近 下牧										集落跡			
153	南原	ミナミハラ	伊那(竜東) 福島										集落跡	○	○	
154	原	ハラ	伊那(竜東) 福島										集落跡	○	○	88
155	大上平	オウエダヒラ	伊那(竜東) 福島										集落跡			
156	池火平	イケヒダヒラ	伊那(竜東) 福島										集落跡			
157	福島古墳群	フクジマコフンクン	伊那(竜東) 福島										古墳		5号消滅	
158	北原	キタハラ	伊那(竜東) 福島										集落跡			
159	中原	ナカハラ	伊那(竜東) 福島										集落跡	○	○	88
160	島崎	シマザキ	手良 ハツ手										集落跡	○	○	55,64
161	堤林	ツツミハヤシ	手良 ハツ手										集落跡	○	○	55
162	山の田	ヤマノタ	手良 ハツ手										集落跡	○	○	61
163	辻西幅	ツジニシハバ	手良 下手良										集落跡	○	○	71,75,90
164	垣外	カイト	手良 下手良										集落跡			
165	角城	カクジョウ	手良 下手良										集落跡			
166	南垣外	ミナミカイト	手良 下手良										集落跡			
167	松太郎窪	マツタロウクボ	手良 下手良										集落跡	○	○	82
168	下手良中原	シメタラナカハラ	手良 下手良										集落跡	○	○	82,208, 210
169	大原	オオハラ	手良 下手良										集落跡	○	○	82
170	小萩原	コハギハラ	手良 中坪										集落跡			
171	地神原	ヂジンハラ	手良 中坪										集落跡	○		202

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
172	二重平	ニジュウタイ	手良 中坪										集落跡			
173	古八幡	コハチマン	手良 野口										集落跡			
174	鍛冶垣外	カンガイ	手良 野口										集落跡	○	○	63
175	下寺中原	シモテラナカハラ	手良 野口										集落跡			
176	石見堂	イシミドウ	手良 野口										集落跡			
177	堂垣外	ドウガイ	手良 野口										集落跡	○	○	58
178	野口 I	ノグチイチ	手良 野口										集落跡	○	○	
179	野口畑	ノグチハタ	手良 野口										集落跡			
180	矢塚古墳	ヤヅカコフン	手良 野口										古墳	○	○	
181	大上	オオウエ	手良 野口										集落跡			
182	鳥の宮	トリミヤ	手良 野口										集落跡			
183	沢山	サワヤマ	手良 野口										集落跡			
184	ヨキトギ	ヨキトギ	手良 野口沢山										集落跡			
185	蟹沢桜林	カニサワサクラバヤシ	手良 野口沢山										集落跡	○	○	57
186	ワランベ	ワランベ	手良 野口沢山										集落跡	○	○	57
187	入林	イリバヤシ	手良 野口蟹沢										集落跡	○	○	57
188	狐垣外	キツネガイ	手良 野口蟹沢										集落跡			
189	辻垣外	ツジガイ	手良 野口沢山										集落跡			
190	竜の沢	リュウノサワ	手良 中坪										集落跡	○		59
191	大百済毛小百済毛	オオクダラゲコクダラゲ	手良 中坪										集落跡			
192	鳴神	ナルガミ	手良 野口										集落跡	○	○	59
193	浜弓場	ハマイバ	手良 中坪										集落跡	○	○	6
194	近洞	チカホラ	手良 野口										集落跡			
195	金山	カナヤマ	手良 野口沢山										集落跡			
196	山伏塚古墳	ヤマブシツカコフン	手良 野口沢山										古墳	○	○	59
197	向田	ムコウタ	手良 野口沢山										集落跡	○	○	59
198	丸山	マルヤマ	手良 中坪										集落跡	○	○	
199	上村	カムラ	手良 中坪										集落跡	○	○	41,211
200	砂場	スナバ	手良 中坪										集落跡	○	○	29,30
201	清水洞	シミスホラ	手良 中坪										集落跡			
202	宮の平	ミヤノタイ	手良 中坪										集落跡	○		200,206
203	六道原	ロクドウハラ	手良 中坪										集落跡			
204	柿ノ木	カキノキ	手良 中坪										集落跡			
205	郷の坪	ゴウノツボ	手良 中坪										集落跡			
206	神手原	カミテハラ	美篤 笠原										集落跡			
207	日向畑	ヒナタハタ	美篤 笠原										集落跡			
208	笠原堂垣外	カサハラドウガイ	美篤 笠原										集落跡	○	○	
209	堤下	ツミシタ	美篤 笠原										集落跡			
210	七日市場	ナカイチバ	美篤 笠原										集落跡			
211	古屋敷	フルヤシキ	美篤 笠原										集落跡			
212	林越	ハヤシゴシ	美篤 笠原										集落跡			
213	コウジラ畑	コウジラハタ	美篤 芦沢										集落跡			
214	東畑	ヒガシハタ	美篤 芦沢										集落跡			

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
215	東垣外	ヒカシカイト	美篤 芦沢										集落跡	○		210
216	サンガ垣外	サンガカイト	美篤 芦沢										集落跡			
217	天神山古墳	テンジンヤマコフン	美篤 笠原										古墳	○	○	
218	菅窪	スカクホ	美篤 南割										集落跡			
219	沢の田	サワノタ	美篤 南割										集落跡			
220	笠窪	カサクホ	美篤 笠原										集落跡			
221	富士塚	フジヅカ	美篤 笠原										集落跡	○	○	
222	上の段	ウエノダン	美篤 上大島										集落跡			
223	末広六道原 ※296と同	スエヒロロクドウハラ	伊那(竜東) 前原										集落跡	○	○	35
224	中県	ナカカタ	美篤 中県										集落跡			
225	中県羽場	ナカカタハバ	美篤 中県										集落跡			
226	下県羽場	シモカタハバ	美篤 下県										集落跡			
227	上川手羽場	カミカワテハバ	美篤 上川手										集落跡			
228	荒神	アラガミ	伊那(竜東) 野底										集落跡			
229	野底古墳群	ノソコフンクン	伊那(竜東) 野底										古墳			
230	上牧古墳群	カミマキフンクン	伊那(竜東) 上牧										古墳			
231	長者屋敷	チョウジヤシキ	伊那(竜東) 上牧										集落跡			
232	芝垣外	シバガイト	伊那(竜東) 上牧										集落跡	○	○	
233	上の原	ウエノハラ	伊那(竜東) 上牧										集落跡			
234	大原	オオハラ	伊那(竜東) 上の原										集落跡			87
235	大宮原	オオミヤハラ	伊那(竜東) 日影										集落跡			
236	伊那東部中	イナトウブチュウ	伊那(竜東) 日影										集落跡			
237	古町古墳群	フルマチフンクン	伊那(竜東) 中央										古墳			
238	上垣外	カミカイト	伊那(竜東) 中央										集落跡			
239	爪ヶ崎	ツメガサキ	伊那(竜東) 中央										集落跡			
240	下原	シタハラ	東春近 共栄										集落跡	○	○	20
241	中原 I	ナカハライチ	東春近 原新田										集落跡	○		210
242	上原	ウエハラ	東春近 殿島原										集落跡	○	○	65
243	老松場古墳群	ロウショウバコフンクン	東春近 中組										古墳	○		212
244	宮場間様古墳群	ミヤバマサマコフンクン	東春近 中殿島										古墳	○	○	53.62
245	本城古墳群	ホンジョウコフンクン	東春近 中殿島										古墳			
246	火沢古墳群	ヒサワコフンクン	東春近 中殿島										古墳			
247	洞古墳群	ホラコフンクン	東春近 下殿島										古墳			
248	古寺古墳群	フルテラコフンクン	東春近 下殿島										古墳			
249	城南古墳群	ジョウナンコフンクン	東春近 田原										古墳			
250	社宮司古墳	シャグウジコフン	東春近 田原										古墳			
251	宮ノ上古墳群	ミヤノウエコフンクン	東春近 田原										古墳			
252	男塚古墳	オトコヅカコフン	東春近 田原										古墳			
253	瀬戸古墳群	セトコフンクン	東春近 田原										古墳			
254	八人塚	ハチニンヅカ	富県 南福地										集落跡			
255	小御堂	コミドウ	富県 南福地										集落跡	○	○	20.21
256	阿原古墳群	アワラコフンクン	富県 南福地										古墳	○		全基 記録保存 5
257	高岱	コウタイ	富県 南福地										集落跡	○	○	

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
258	駒合古墳	コマセコフン	富県 北福地										古墳			
259	駒ヶ原	コマガハラ	富県 南福地										集落跡			
260	蚕玉古墳	コダマコフン	富県 北福地										古墳			
261	羽根原	ハネハラ	富県 北福地										集落跡	○		201
262	羽根田	ハネダ	富県 北福地										集落跡			
263	御殿場	ゴテンバ	富県 北福地										集落跡	○	○	1
264	まこもが池	マコモガイケ	富県 貝沼										集落跡	○	○	85
265	宮の花	ミヤノハナ	富県 貝沼										集落跡			
266	上垣外	カミガイト	富県 桜井										集落跡			
267	大塚古墳	オオツカコフン	富県 桜井										古墳			
268	北林	キタバヤシ	富県 北新										集落跡			
269	今泉	イマイスミ	富県 北新										集落跡			
270	奈良尾	ナラオ	富県 北新										集落跡	○	○	60
271	舟ヶ洞	フナガホラ	富県 北新										集落跡	○	○	
272	芝王	シホウ	富県 北新										集落跡	○	○	50
273	中平	ナカタイラ	富県 上新山										集落跡			
274	宮原	ミヤハラ	富県 上新山										集落跡	○	○	60
275	合の原	アイノハラ	富県 上新山										集落跡			
276	小松	コマツ	富県 上新山										集落跡			
277	和手	ワデ	富県 上新山										集落跡			
278	丸山清水Ⅱ	マルヤマシズニ	伊那(竜西) 平沢										集落跡	○	○	
279	宮の原Ⅱ	ミヤノハラニ	西春近 宮の原										集落跡	○	○	32
280	南村	ミナミムラ	西春近 柳沢										集落跡	○	○	37,56
281	児塚Ⅱ	コヅカニ	西春近 白沢										集落跡	○		○
282	南小出南原	ミナミコイデミナミハラ	西春近 南小出										集落跡	○		○
283	根木谷中畑	ネギヤナカハタ	富県 北福地										集落跡	○	○	20
284	野口Ⅱ	ノグチニ	手良 野口										集落跡			
285	木裏原	キウラハラ	東春近 木裏原										集落跡			
286	根岸	ネギシ	伊那(竜東) 中央										集落跡	○	○	0
287	三ツ木	ミツギ	富県 南福地										集落跡	○		○
288	上平	ウエタイラ	伊那(竜東) 福島										集落跡			
289	池火	イケヒ	伊那(竜東) 福島										集落跡			
290	福島	フクシマ	伊那(竜東) 福島										集落跡	○		3,69,208
291	弥生ヶ丘	ヤヨイガオカ	伊那(竜西) 西町伊那部										集落跡	○	○	
292	塚畑Ⅱ	ツカハタニ	西箕輪 大泉新田										集落跡	○	○	15
293	舟窪西	フナクボニシ	伊那(竜西) ますみヶ丘										集落跡	○	○	69,73
294	六ツ塚古墳	ムツツカコフン	手良 ハツ手										古墳		1,2,4,5,6 号消滅	
295	伊那部宿	イナベジユク	伊那(竜西) 西町伊那部										その他の遺跡 (宿場町)			
296	末広六道原	スエヒロクワハラ	伊那(竜東) 前原										集落跡	○	○	35
297	下牧古城	シマキコジョウ	西春近 下牧										城館跡			
298	町屋の城	マチヤノジョウ	西春近 諏訪形										城館跡	○	○	
299	表木城	オモキジョウ	西春近 表木										城館跡		○	
300	物見ヤ城	モノミヤジョウ	西春近 柳沢										城館跡 (狼煙台)			

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代									種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代					
301	井の久保城	イノホシジョウ	西春近 表木										城館跡		○		
302	恩徳寺城	オトクジジョウ	西春近 下小出										城館跡				
303	沢渡城	サワンドジョウ	西春近 沢渡										城館跡				
304	細窪城	ホソクボジョウ	西春近 下島										城館跡	○		○	
305	丸山城	マルヤマジョウ	西春近 南小出										城館跡	○	○		
306	薬師堂城	ヤクシドウジョウ	西春近 下島										城館跡		○		
307	内城	ウチジョウ	西春近 南小出										城館跡	○	○		
308	フブキ垣外城	フブキガイジョウ	西春近 下島										城館跡	○	○		
309	荒城	アラジョウ	西春近 村岡										城館跡	○	○		
310	村岡城	ムラオカジョウ	西春近 村岡										城館跡	○	○		
311	田城	デンジョウ	西春近 山本										城館跡				
312	城平の城	ジョウヘイノジョウ	西春近 山本										城館跡	○	○		
313	上島城	カミジマジョウ	西春近 上島										城館跡				
314	小黒城	オグロジョウ	伊那(竜西) 西町小黒										城館跡				
315	春日城	カスカジョウ	伊那(竜西) 西町伊那部										城館跡	○	○		111
316	義信の城	ヨシノブノジョウ	伊那(竜西) 荒井内の萱										城館跡 (狼煙台)				
317	鳩吹城	ハトフキジョウ	伊那(竜西) 横山										城館跡				
318	狐林城	コリンジョウ	伊那(竜西) 山寺高尾町										城館跡				
319	御園古城	ミノコジョウ	伊那(竜西) 山寺前橋町										城館跡			○	
320	小沢古城	オサワコジョウ	伊那(竜西) 下小沢										城館跡	○	○		
321	中条城	ナカジョウジョウ	西箕輪 中条										城館跡	○	○		
322	殿屋敷	トノヤシキ	西箕輪 上戸・中条										城館跡		○		
323	黒ん城	クロンジョウ	西箕輪 羽広										城館跡 (狼煙台)				
324	古町古城	フルマチコジョウ	伊那(竜東) 中央										城館跡				
325	城林の城	ジョウバヤシノジョウ	伊那(竜東) 上牧										城館跡				
326	乾の城	イヌイノジョウ	伊那(竜東) 野底										城館跡				
327	野口館城	ノグチヤカタジョウ	手良 野口										城館跡				
328	城山	ジョウヤマ	手良 中坪										城館跡	○	○		
329	野口城	ノグチジョウ	手良 野口										城館跡				
330	丸山館城	マルヤマヤカタジョウ	手良 中坪										城館跡	○	○		
331	六ツ塚城	ムツツカジョウ	伊那(竜東) 福島										城館跡				
332	登内の城	トノウチノジョウ	手良 ハツ手										城館跡				
333	内城	ウチジョウ	手良 下手良										城館跡				
334	浅間社城	センゲンシャジョウ	手良 下手良										城館跡 (狼煙台)				
335	畑氏館	ハタシヤカタ	美篤 笠原										城館跡				
336	洞口城	ホラグチジョウ	美篤 上川手										城館跡		○		
337	馬場の古城	ハンバノコジョウ	美篤 笠原										城館跡		○		
338	守屋山城	モリヤサンジョウ	美篤 笠原										城館跡 (砦)				
339	天神山城	テンジンヤマジョウ	美篤 笠原										城館跡 (砦)				
340	蟻塚城	アリヅカジョウ	美篤 笠原										城館跡	○			202.210
341	春日城	カスカジョウ	美篤 上大島										城館跡		○		
342	古城	フルジョウ	富県 上新山										城館跡				
343	北城	キタジョウ	富県 上新山										城館跡		○		

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
344	一夜の城	イチヤノジョウ	富県 桜井・貝沼										城館跡	○	○	210,213
345	黒河内城	クロコウチジョウ	富県 桜井										城館跡			
346	叶尾城	カナオジョウ	富県 桜井										城館跡			
347	池田城	イケダジョウ	富県 桜井										城館跡			
348	古城	フルジョウ	富県 貝沼										城館跡			
349	荒城	アラジョウ	富県 貝沼										城館跡			
350	埋橋の城	ウスハシノジョウ	富県 貝沼										城館跡		○	
351	中島城	ナカジマジョウ	富県 貝沼										城館跡			
352	上の城	ウエノジョウ	富県 貝沼										城館跡		○	
353	羽場城	ハバジョウ	富県 北福地										城館跡		○	
354	内城	ウチジョウ	富県 北福地										城館跡			
355	竹松城	タケマツジョウ	富県 南福地										城館跡			
356	橋場城	ハシバジョウ	富県 南福地										城館跡		○	
357	牛ヶ城	ウシガジョウ	富県 南福地										城館跡 (狼煙台)			
358	物見ヤ城	モノミヤジョウ	富県 貝沼										城館跡 (狼煙台)			
359	保谷沢の城	ホヤサワノジョウ	東春近 田原										城館跡	○		204
360	殿島城	トノジマジョウ	東春近 中殿島										城館跡	○	○	62
361	お寺の山	オテラヤマ	東春近 中組										城館跡	○	○	
362	富岡	トミオカ	美篤 笠原										集落跡 城館跡	○	○	79
363	赤井沢	アカイザワ	高遠町 藤澤 片倉										散布地			
364	立石	タテイシ	高遠町 藤澤 片倉										散布地			
365	古屋敷	フルヤシキ	高遠町 藤澤 片倉										散布地		○	
366	臼沢口	ウスザワグチ	高遠町 藤澤 片倉										散布地			
367	下の間	シモノマ	高遠町 藤澤 片倉										散布地			
368	白藤	シロフジ	高遠町 藤澤 松倉										散布地			
369	御堂垣外宮前	ミトガイトミヤマエ	高遠町 藤澤 御堂垣外										散布地			
370	宮下	ミヤシタ	高遠町 藤澤 荒町										散布地			
371	神明上	シノメカミ	高遠町 藤澤 北原										散布地			
372	権殿屋敷	ゴントノヤシキ	高遠町 藤澤 北原										散布地			
373	和手垣外	ワテガイト	高遠町 藤澤 台										散布地			
374	坊垣外	ホウケイト	高遠町 藤澤 北原										散布地			
375	八幡屋敷跡	ハチマンヤシキアト	高遠町 長藤 中条										散布地	○		101
376	宮の原	ミヤノハラ	高遠町 長藤 塩供・中条										集落跡	○	○	94
377	峠	トウゲ	高遠町 長藤 板山										散布地			
378	釈迦堂	シャカドウ	高遠町 長藤 板山										散布地	○	○	93
379	西沢垣外	ニシザワガイト	高遠町 長藤 弥勒										散布地			
380	上手垣外	カミテガイト	高遠町 長藤 弥勒										散布地			
381	久保	クボ	高遠町 山室 久保										散布地			
382	原	ハラ	高遠町 山室 原										散布地	○	○	102
383	川辺	カワベ	高遠町 山室 川辺										散布地			
384	桂泉畑	ケイセンハタ	高遠町 東高遠 桂泉畑										散布地			
385	花畑	ハナハタ	高遠町 東高遠 花畑										散布地			
386	高遠城跡	タウトジョウセキ	高遠町 東高遠										散布地 城館跡	○		95

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
387	原勝間	ハラガツマ	高遠町 勝間 原勝間										集落跡	○	○	97
388	西勝間	ニシガツマ	高遠町 勝間 西勝間										散布地	○	○	
389	堀	ホリ	高遠町 勝間 西勝間										集落跡	○	○	96,103, 202
390	後沢	ウシロザワ	高遠町 小原 後沢										散布地	○	○	99
391	山田城	ヤマダジョウ	高遠町 下山田										散布地			
392	上垣外	カミガイト	高遠町 下山田										散布地		○	
393	北垣外	キタガイト	高遠町 下山田										散布地		○	
394	竹垣外	タケガイト	高遠町 下山田										散布地		○	
395	八幡原	ハチマンバラ	高遠町 下山田										散布地		○	
396	金井原	カナイハラ	高遠町 上山田 金井原西										散布地	○	○	98
397	越道	コエトウ	高遠町 上山田 越道										散布地	○		210
398	下ノ原	シモハラ	高遠町 上山田 金井原										散布地	○	○	
399	若宮	ワカミヤ	高遠町 上山田 引持・若宮										散布地		○	
400	引持	ヒキジ	高遠町 上山田 引持										散布地			
401	三角平	サンカクダイラ	高遠町 藤澤 松倉 (所在地不明)													
402	荒神沢	アラカミザワ	長谷 非持										散布地			
403	狐塚	キツネヅカ	長谷 非持										散布地			
404	一本木	イツボンキ	長谷 非持										集落跡	○		110
405	中原	ナカハラ	長谷 非持										散布地			
406	下ノ中原	シモノナカハラ	長谷 非持										集落跡	○		110
407	中非持	ナカヒジ	長谷 非持										散布地	○		106
408	垣外田	ケイタダ	長谷 非持										散布地	○		106
409	神明塚	シメミヅカ	長谷 非持										散布地	○		106
410	神田	ジンデン	長谷 非持										散布地			
411	観音寺畑	カンノンジハタ	長谷 非持										散布地			
412	久保	クボ	長谷 非持										散布地			
413	南原	ミナミハラ	長谷 非持										集落跡	○		109
414	西原	ニシハラ	長谷 溝口										散布地			
415	石仏	イシボトケ	長谷 溝口										集落跡	○		108
416	南郷	ナンゴウ	長谷 溝口										集落跡	○		107
417	泉原	イズミハラ	長谷 黒河内										集落跡 城館跡	○		105
418	和泉原	イズミハラ	長谷 黒河内										散布地			
419	的場	マトバ	長谷 中尾										散布地			
420	対座	タイザ	長谷 中尾										散布地			
421	市野瀬	イチノセ	長谷 市野瀬										散布地			
422	熊ノ森	クマノモリ	長谷 市野瀬										散布地			
423	入笠山南	ニュウカサヤマミナミ	長谷 黒河内										散布地			
424	阪本天山屋敷井戸跡	サカモトテンザンヤシキド・アト	高遠町 東高遠 殿坂										その他の遺跡 (城下町)			
425	若宮武家屋敷	ワカミヤブケヤシキ	高遠町 東高遠 若宮										散布地・ その他の遺跡 (城下町)	○		100,112
426	伊那北高校裏	イナキタウコウウラ	伊那(竜西) 山寺										集落跡			
427	東台	アズマダイ	伊那(竜東) 中央										集落跡			
428	伊那飛行場	イナヒコウジョウ	伊那(竜東) 上の原										その他の遺跡 (戦争遺跡)			
429	中原Ⅱ	ナカハラニ	東春近 共栄										散布地			

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代								種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代				
430	原新田	ハラシデン	東春近 原新田										散布地			
431	市坂上	イチザカウエ	東春近 中組										散布地			
432	老松場	ロウショウバ	東春近 中組										散布地			
433	宮狭間	ミヤハサマ	東春近 中殿島										散布地			
434	御射山	ミサヤマ	東春近 中殿島										散布地			
435	本城	ホンジョウ	東春近 中殿島										散布地			
436	本城東	ホンジョウヒガシ	東春近 中殿島										散布地			
437	火沢	ヒサワ	東春近 中殿島										散布地			
438	殿島館	トノジマヤカタ	東春近 中殿島										城館跡			
439	洞上	ホラウエ	東春近 殿島原										散布地			
440	三塚	ミツヅカ	東春近 殿島原										散布地			
441	古寺	フルテラ	東春近 下殿島										散布地			
442	下殿島駒ヶ原	シモトノジマコマガハラ	東春近 下殿島										散布地			
443	一本松	イツボンマツ	東春近 下殿島										散布地			
444	寺坂	テラサカ	東春近 田原										散布地			
445	駒形	コマカタ	東春近 田原										散布地			
446	駒原	コマハラ	東春近 田原										散布地			
447	天伯	テンバク	東春近 田原										散布地			
448	宮ノ上	ミヤノウエ	東春近 田原										散布地			
449	寺ノ上	テラノウエ	東春近 田原										散布地			
450	石仏	イシボトケ	東春近 田原										散布地			
451	大坂	オオザカ	東春近 田原										散布地			
452	社宮司	シャグウジ	東春近 田原										散布地			
453	臼窪	ウスクボ	東春近 田原										散布地			
454	男塚	オトコヅカ	東春近 田原										散布地			
455	山越	ヤマコシ	東春近 田原										散布地			
456	山ノ神	ヤマノカミ	東春近 田原										散布地			
457	城	ジョウ	東春近 田原										散布地			
458	中原	ナカハラ	東春近 田原										散布地			
459	狸ノ入	タノイリ	東春近 田原										散布地			
460	入垣外	イリカイ	東春近 田原										散布地			
461	保谷沢北	ホヤサワキタ	東春近 田原										散布地			
462	瀬戸	セト	東春近 田原										散布地			
463	瀬戸山	セトヤマ	東春近 田原										散布地			
464	神林	カンバヤシ	東春近 田原										散布地			
465	倉ヶ入	クラガイリ	東春近 田原										散布地			
466	蔵ヶ入	クラガイリ	東春近 田原										散布地			
467	宮の花八幡神社付近	ミヤノハナハチマンジンジャフキン	富県 桜井・貝沼										集落跡			
468	御岳山砦	オンタケヤマトリヂ	富県 南福地										城館跡			
469	片倉	カタクラ	高遠町 藤澤 片倉										散布地			
470	高遠城下町	タウトジョウカマチ	高遠町 西高遠										その他の遺跡 (城下町)			
471	高遠城下町(多町・相生町)	タウトジョウカマチ(タマチ・アイオイチョウ)	高遠町 西高遠										その他の遺跡 (城下町)			
472	殿坂武家屋敷	ドンサカブケヤシキ	高遠町 東高遠 殿坂										その他の遺跡 (城下町)			

遺跡 番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代									種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中	近世	近代					
473	高遠武家屋敷	タトオブケヤシ	高遠町 東高遠										その他の遺跡 (城下町)				
474	藤沢城	フジサワジョウ	高遠町 藤澤 御堂垣外										城館跡				
475	保科の古屋敷	ホシナフルヤシ	高遠町 藤澤 御堂垣外										城館跡				
476	台の城山	ダイノジョウヤマ	高遠町 藤澤 台城山										城館跡				
477	栗木田城	クリキタジョウ	高遠町 長藤 栗田城										城館跡				
478	中条の城	ナカジョウノジョウ	高遠町 長藤 中条ジョウザワ										城館跡				
479	唐沢采女館	カラサワウネメヤカタ	高遠町 山室那木沢										城館跡				
480	山室城	ヤマムロジョウ	高遠町 山室那木沢										城館跡				
481	原氏館	ハラシヤカタ	高遠町 山室新井										城館跡				
482	平維盛館	タイラノコレミヤカタ	高遠町 山室宮沢										城館跡				
483	的場の城山	マトハノジョウヤマ	高遠町 長藤 的場城山										城館跡				
484	丸山城	マルヤマジョウ	高遠町 小原										城館跡				
485	山田古城	ヤマタフルジョウ	高遠町 下山田										城館跡				
486	山田与市城	ヤマタヨイチジョウ	高遠町 下山田										城館跡				
487	山田小池城	ヤマタコイケジョウ	高遠町 下山田										城館跡				
488	非持城	ヒシジョウ	長谷 非持										城館跡				
489	上島帯刀館	カミジマタテウキヤカタ	長谷 非持										城館跡				
490	溝口上ノ城	ミゾグチカミノジョウ	長谷 溝口										城館跡				
491	溝口下ノ城	ミゾグチシモノジョウ	長谷 溝口										城館跡				
492	長城	ウツラジョウ	長谷 黒河内										城館跡				
493	神明城	シンメイジョウ	長谷 黒河内										城館跡				
494	熊野城	クマノジョウ	長谷 市野瀬										城館跡				
495	清水弾正館	シミスダンジョウヤカタ	長谷 市野瀬 杉島										城館跡				
496	座籠城	ザンゴジョウ	伊那(竜西) 横山										城館跡				

4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

整理 番号	報告書名	発行者	発行 年月	調査対象 遺跡番号
0	根岸遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書	伊那市教育委員会	S41.2	286
1	長野県伊那市御殿場遺跡緊急発掘調査概報 『伊那路』第 11 巻 1 号別刷	伊那市教育委員会	S42.1	263
93	釋迦堂遺跡発掘調査報告書	高遠町教育委員会	S42.2	378
2	三ツ木遺跡調査概報	伊那市教育委員会	S42.3	287
3	1 長野県伊那市福島遺跡発掘調査略報	国土舘大学考古学 研究室	S42.8	290
3	2 長野県伊那市福島遺跡緊急発掘調査概報	伊那市教育委員会 国土舘大学考古学 研究室	S42.12	290
3	伊那・福島遺跡－歴史時代・集落跡の調査－ 伊那市福島遺跡緊急発掘調査報告	伊那市教育委員会	S43.12	290
4	月見松遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会	S44.3	45
199	名廻東古墳(児塚)(緊急発掘調査概報)	伊那市教育委員会	S45.3	100
5	伊那市富県阿原古墳発掘報告	伊那市教育委員会	S47.3	256
6	浜弓場遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S48.3	193
7	大萱遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S48.3	14
9	上島遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S49.3	86
10	北条遺跡・常輪寺下遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S49.3	81,83
12	東方A・村岡北・村岡南・常輪寺下・北条遺跡 －緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S50.3	88,89,106, 83,81
13	小出城(城南)・浜射場遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S50.3	105,107
14	山の神遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市水道局	S50.8	72
8	月見松遺跡緊急発掘調査報告 『伊那路』昭和 50 年9月号(通刊 224 号)抜刷	伊那市教育委員会	S50.9	45,46
15	塚畑遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事業所	S51.3	3,292
16	中の原・古屋敷緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S51.3	33,9
19	今泉遺跡緊急発掘調査概報概報 『伊那路』昭和 52 年1月号(通刊 240 号)抜刷	伊那市教育委員会	S52.1	41
17	浜射場・菖蒲沢遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那農業協同組合	S52.3	107,139
18	月見松遺跡第Ⅲ次緊急発掘調査概報	伊那市教育委員会	S52.3	45
20	小御堂・根木谷中畑・上原遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	255,283,240

整理番号		報告書名	発行者	発行年月	調査対象遺跡番号
21		小御堂遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	255
22		眼子田原遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	123
23		眼子田原B遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	123
24		与地原・北割遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	24,6
25		与地原B遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S52.3	24
27		財木遺跡・金鑄場遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S52.3	12,11
27	1	財木遺跡	伊那市教育委員会	S52.3	12
94		高遠宮の原遺跡発掘調査報告書	高遠町教育委員会	S52.12	376
26		おぐし沢遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S53.3	52
28		児塚遺跡緊急発掘調査概報	伊那市教育委員会	S53.3	116
29		砂場遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 長野県土地改良事業 団体連合会	S53.3	200
30		砂場B遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S53.3	200
31		丸山清水遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S53.3	53
31	1	丸山清水B遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会	S53.3	53
32		宮の原遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S53.3	279
32	1	宮の原B遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S53.3	279
33		中村遺跡緊急発掘調査報告	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S53.3	108
35		末広六道原遺跡－分布調査概報－	末広六道原遺跡調査団 長野県企業局	S53.3	296
11		南小出南原遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 タカノ株式会社	S53.7	113
34		八人塚遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S54.3	50
35	1	末広六道原遺跡－緊急発掘調査概報－	伊那市教育委員会 長野県企業局	S54.3	296
36		金鑄場遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S54.3	11
37		南村遺跡・東田遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S54.3	280,131
38		児塚遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S54.3	116
39		カンバ垣外遺跡緊急発掘調査報告	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S54.3	111

整理 番号		報告書名	発行者	発行 年月	調査対象 遺跡番号
41		上村遺跡緊急発掘調査概報	伊那市教育委員会	S54	199
40		丸山城跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S55.3	112
42		宮垣外・天庄Ⅱ・堀の内・小花岡遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S55.3	31,27,32,22
42	1	堀の内遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S55.3	32
43		菖蒲沢遺跡・山の下遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S55.3	139,135
44		南小出南原・細ヶ谷A遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S55.3	113,93
45		南丘C遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市建設部土木課	S55.12	122
46		高遠道・井の久保・表木原遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S56.3	136,133,134
46	1	井の久保遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会	S56.3	133
47		桜畑遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S56.3	1
96		勝間一堀遺跡 町営圃場整備事業用地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	S57.3	389
48		船窪・城畑・城平・宮林・山の根遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S58.3	59,63,77, 78,79
49		烏井田・横吹・城の腰・安岡城遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S58.3	138,149, 147,148
50		芝王遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S59.3	272
51		大境・中原・細ヶ谷 B 遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S59.3	90,92,95
52		小沢原遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S60.2	57
53		宮場間様1号墳－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 伊那建設事務所	S60.2	244
54		名廻遺跡・北丘B・柳沢・山の下遺跡－緊急発掘調査報告－	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S60.2	98,117,135
55		堤林・島崎遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 南信土地改良事務所	S61.3	161,160
56		南村遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 関東農政局伊那西部 農業水利事務所	S61.3	280
57		蟹沢桜林・入林・ワランベ遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市手良土地改良 事務所	S61.3	185,187,186
58		堂垣外遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 上伊那地方事務所	S62.3	177

整理 番号		報告書名	発行者	発行 年月	調査対象 遺跡番号
59		山伏塚古墳・向田・鳴神・竜の沢遺跡－緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 上伊那地方事務所	S62.3	196,197, 192,190
95	1	高遠城跡二ノ丸門発掘調査報告書	高遠町教育委員会	S62.8	386
62		殿島城跡・宮場間様十三塚遺跡－緊急発掘調査報告－	殿島城跡遺跡発掘調査団 長野県住宅供給公社 伊那市教育委員会	S62.12	360,244
60		奈良尾・宮の原遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 上伊那地方事務所	S63.3	270,274
61		山の田遺跡緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 上伊那地方事務所	S63.3	162
63		鍛冶垣外遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H1.3	174
64		島崎遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H2.3	160
97		原勝間遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H2.3	387
65		下原遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	伊那市土地開発公社 伊那市教育委員会	H3.3	242
66		小黒南原・伊勢並遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H4.3	73,69
95	2	史跡高遠城跡二ノ丸Ⅱ埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H4.3	386
67		上ノ山遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	長野県伊那弥生ヶ丘高等 学校、伊那市教育委員会	H5.3	68
68		伊勢並遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H5.3	69
98		金井原遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H5.3	396
68	1	伊勢並遺跡発掘調査(第4次)概報	伊那市教育委員会	H5.11	69
69		ますみヶ丘(舟窪西遺跡)・福島地籍－埋蔵文化財分布調査 報告書－	伊那市教育委員会	H6.3	293,290
70		伊勢並遺跡・赤坂遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H7.3	69,66
71		辻西幅遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	伊那建設事務所 伊那市教育委員会	H7.3	163
72		上ノ山遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	長野県伊那弥生ヶ丘高等 学校、伊那市教育委員会	H7.3	68
73		舟窪西遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H8.3	293
95	3	史跡高遠城跡二ノ丸Ⅲ埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告 書	高遠町教育委員会	H8.3	386
99		後沢遺跡Ⅱ埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H8.3	390
100		高遠城番小屋遺跡・武家屋敷遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査 報告書	高遠町教育委員会 伊那建設事務所	H8.3	386,425
74		小黒南原遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H9.3	73
75		辻西幅遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書(第Ⅱ 次)－	伊那建設事務所 伊那市教育委員会	H9.3	163
76		山の神遺跡－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	伊那市経済部耕地林務課 伊那市教育委員会	H10.3	72

整理 番号	報告書名	発行者	発行 年月	調査対象 遺跡番号
77	金鑄場遺跡(第Ⅰ次～第Ⅳ次調査)－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市総務部企画課 伊那市経済部農政課	H10.3	11
101	八幡屋敷遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H10.3	375
78	金鑄場遺跡(第Ⅴ次～第Ⅵ次調査)－埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市総務部企画課 伊那市経済部農政課	H11.3	11
79	富岡遺跡第Ⅰ次(平成9年度)・第Ⅱ次(平成10年度) 埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査概報	伊那市教育委員会	H11.3	362
102	原遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会 上伊那地方事務所 伊那建設事務所	H11.3	382
81	石塚遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急試・発掘調査報告書	伊那市教育委員会、伊那 中央行政組合病院建設課、 伊那市土地開発公社	H12.1	40
80	富士塚遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市経済部耕地 林務課	H12.2	67
105	泉原遺跡 中山間地域総合整備事業黒河内地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H12.3	418
107	南郷遺跡 県営圃場整備事業担い手育成型非持地区工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H12.3	416
108	石仏遺跡 中山間地域総合整備事業溝口地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H12.3	415
83	城楽遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市建設部建設課	H13.2	64
82	下手良中原・大原・松太郎窪遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H13.3	168,169,167
109	南原遺跡 中山間地域総合整備事業溝口地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H13.3	413
110	下ノ中原遺跡・一本木遺跡 県営圃場整備事業担い手育成型非持地区工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H13.3	406,404
84	石塚遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市建設部建設課	H14.3	40
85	まこもが池遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	伊那市教育委員会 伊那市土地開発公社	H14.3	264
86	城楽遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急試掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市建設部建設課	H14.3	64
95	4 史跡高遠城跡大手門石垣埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H14.3	386
103	堀遺跡Ⅱ埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	社会福祉法人高遠さくら福祉会、高遠町教育委員会	H14.3	389
106	中非持三遺跡 県営圃場整備事業中非持地区工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘報告書	上伊那地方事務所 長谷村教育委員会	H14.3	407,408,409
89	高尾遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急試掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市建設部建設課	H15.2	44
87	大原遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市土地開発公社 伊那市福祉事務所	H15.3	169
88	中原・原遺跡－埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書－	上伊那地方事務所 伊那市教育委員会	H15.3	159,154

整理番号		報告書名	発行者	発行年月	調査対象遺跡番号
90		辻西幅遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書(第Ⅲ次)	伊那市教育委員会 伊那市水道部下水道課	H16.1	163
91		名廻南遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書	伊那建設事務所 伊那市教育委員会	H16.1	101
92		今泉遺跡埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書	伊那市教育委員会 伊那市建設部建設課	H16.3	41
95	6	史跡高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか埋蔵文化財発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H16.3	386
95	5	史跡高遠城跡二ノ丸・南曲輪埋蔵文化財発掘調査報告書	高遠町教育委員会	H18.3	386
112		国補道路改築事業 一般国道 152 号 伊那市高遠バイパス関連 県宝旧馬島家住宅跡庭園整備関連 埋蔵文化財発掘調査報告書 伊那市内 若宮武家屋敷遺跡	伊那建設事務所 伊那市教育委員会 長野県埋蔵文化財センター	H20.3	425
200		調査概要報告書(概報)宮の平遺跡(手良中坪)	伊那市教育委員会	H21	202
201		羽根原遺跡 一般道路改良工事(市道羽根1号線) 埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告書 第1集	伊那市建設部建設課 伊那市教育委員会	H22.3	261
202		市内遺跡発掘調査報告書ー平成 21 年度長野県伊那市内遺跡試掘調査報告書ー 伊那市埋蔵文化財報告書 第2集	伊那市教育委員会	S22.3	121,389,340, 171,15
203		西箕輪小学校北遺跡第1次・第2次発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第3集	伊那市教育委員会	H23.3	13
204		平成 22 年度市内遺跡試掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第4集	伊那市教育委員会	H23.3	150,359,106
205		伊那養護学校北遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第5集	伊那市教育委員会	H23.3	15
206		宮の平遺跡第1次～第3次調査発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第6集	伊那市教育委員会	H24.3	202
207		平成 23 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第7集	伊那市教育委員会	H24.3	89,6,9
208		平成 24 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第8集	伊那市教育委員会	H25.3	144,66, 168,290
209		平成 25 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第9集	伊那市教育委員会	H26.3	34,15,11
210		平成 26 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第 10 集	伊那市教育委員会	H27.3	215,122,241, 16,344,397, 340,168,8
211		平成 27 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第 11 集	伊那市教育委員会	H29.3	5,199,11
212		長野県伊那市 老松場古墳群ー第1～4次調査の概要報告ー	伊那市教育委員会、 関西大学文学部考古学研究室	R4.7	243
213		一夜城 伊那市埋蔵文化財報告 第 12 集	伊那市教育委員会	R5.3	344
214		平成 28～30 年度市内遺跡発掘調査報告書 伊那市埋蔵文化財報告 第 13 集	伊那市教育委員会	R6.3	6,315,365,386, 344,58,375,243, 15,73

5 古い地名調査報告書一覧

地区		調査グループ	報告書名	発行年
竜西	御園	御園	御園の由来	平成 28 年
	山寺	山寺	伊那市山寺 地区名・字名・小河川・屋号 調査報告	平成 28 年
	荒井	荒井	平成二十七年度荒井区地名調査報告書 荒井区の地名	平成 27 年
	西町	西町	伊那市西町区地名調査報告書	平成 28 年
	小沢	小沢	小沢の地名 小沢地区地名調査報告書	平成 27 年
	平沢	平沢	平沢区の小字名 平沢地区の地形と歴史	平成 27 年
	横山	横山	横山の地名・歴史を尋ねて	平成 28 年
	全域		伊那竜西歴史・地名ものがたり	平成 31 年
竜東	日影	日影	地名調査報告書 日影地区	平成 28 年
	境	境	境の地名 元禄～現在（含む変遷）	平成 28 年
	狐島	狐島	狐島の地名	平成 28 年
	狐島	狐島	蓮台場整備と八勇士石碑建立事業報告書	平成 28 年
	上新田	上新田	上新田の地名	平成 27 年
	上牧	上牧	上牧の古い地名 地名から郷土の歴史を学ぶ	平成 27 年
	野底	野底	野底地域内に残る 古地名と由来 そして伝承余話	平成 24 年
	福島	福島	福島の古い地名 福島地名調査報告書	平成 27 年
	全域		伊那竜東歴史・地名ものがたり	平成 31 年
富県	上新山	上新山	富県上新山区地名調査報告書	平成 27 年
	北新	北新	北新区地名調査報告書	平成 27 年
	桜井	桜井	桜井の地名と歴史 昔の小字名と現在までの歴史	平成 28 年
	貝沼	貝沼	貝沼 西原 温故知新	平成 26 年
	北福地	北福地	北福地の地名 土地の記憶を訪ねて	平成 27 年
	南福地	南福地	南福地ものがたり ～平成 26 年度調査～	平成 27 年
	全域		富県歴史・地名ものがたり	平成 31 年
美簗	芦沢	芦沢	伊那市美簗 芦沢の地名といわれ	平成 27 年
	笠原	笠原	笠原地名調査報告書 中間報告会資料	平成 26 年
	南割	南割	南割の歴史と地名	平成 26 年
	末広	末広	末広地名調査報告書	平成 26 年
	上原	上原	上原地名調査報告書	平成 26 年
	下県	下県	『下県区誌』続編 古い地名編 美簗下県古い地名調査報告書	平成 27 年
	上川手	上川手	上川手の古い地名 上川手地名調査報告書	平成 27 年
	下川手	下川手	下川手地名調査報告 ー先人たちの労苦を未来につなぐー	令和 3 年
	青島	青島	青島地名調査報告書	平成 27 年
	横町	横町	横町区地名調査報告書	平成 26 年
	全域		美簗歴史・地名ものがたり	平成 31 年

地区		調査グループ	報告書名	発行年
手良	中坪	中坪	手良中坪区地名調査	平成 27 年
	野口	野口	野口区地名調査報告書	平成 26 年
	下手良	下手良	下手良の地名	平成 26 年
	八ツ手	八ツ手	八ツ手の地名	平成 26 年
	全域		手良歴史・地名ものがたり	平成 31 年
東春近	車屋	車屋	車屋区 地名調査報告書	平成 28 年
	中組	中組	東春近中組地名調査報告書	平成 25 年
	渡場	渡場	地名「渡場」の由来	平成 25 年
	木裏原	木裏原	語り継ぎたい木裏原の由来・地名の由来	平成 25 年
	中殿島	中殿島	伊那市 東春近 中殿島地名調査報告書	平成 25 年
	下殿島	下殿島	東春近「下殿島グループ」地名調査報告書	平成 25 年
	田原	田原	大字 田原 字 古地名	平成 25 年
	原新田	原新田	伊那市 東春近 原新田地名調査報告書	平成 25 年
	榛原	榛原	東春近榛原地区の地名調査結果報告	平成 25 年
	暁野	暁野	伊那市 東春近 暁野区地名調査報告書	平成 25 年
	全域		東春近歴史・地名ものがたり	平成 31 年
西箕輪	大泉新田	大泉新田	大泉新田地名調査報告書(我が郷土を知ろう！学ぼう！)	平成 25 年
	吹上	吹上	吹上地名調査報告書	平成 25 年
	羽広	羽広	羽広の地名調査報告書 ー検地帳(江戸時代)～土地台帳(明治時代)を中心にー	平成 26 年
	上戸	上戸	上戸地名調査報告書 ー上戸のことを知ろう・残していこうー	平成 25 年
	中条	中条	西箕輪中条地名調査報告書	平成 26 年
	与地	与地	伊那市 西箕輪 与地地区 地名調査報告書	平成 25 年
	大萱	大萱	大萱地区の「地名」「字名」調査報告	平成 25 年
	全域		西箕輪歴史・地名ものがたり	平成 31 年
西春近	小出一	小出一	古い地名と昔の小出 ー小出一区地名調査報告書ー	平成 27 年
	小出二	山本	山本の地名と菖蒲澤	平成 26 年
		小屋敷	小屋敷地名調査	平成 27 年
	小出三	小出三	小出三区の古い地名	平成 28 年
	小出島	小出島	小出島区 地名調査報告書	平成 26 年
	沢渡	沢渡	地名は先人が生きた証言者 長野県伊那市西春近 沢渡の地名調査	平成 27 年
	表木	表木	西春近表木地名調査報告書	平成 26 年
	諏訪形	諏訪形	西春近・諏訪形 地名調査報告書	平成 26 年
	赤木	赤木	古い地名と昔の赤木 西春近赤木地名調査報告書	平成 26 年
	下牧	下牧	下牧の地名 ー地名から歴史をさぐるー 下牧区地名調査 報告書	平成 27 年
	全域		西春近歴史・地名ものがたり	平成 31 年

地区		調査グループ	報告書名	発行年
高遠町	高遠	西高遠・東高遠	高遠地区の地名由来	平成 28 年
		東高遠	東高遠の地名 ー高遠地区の地名の由来ー	平成 28 年
	長藤	長藤	長藤区設立記念誌 おさふじの地名と歴史	平成 28 年
	藤澤	片倉	片倉の地名 地名調査報告書	平成 30 年
		御堂垣外・松倉	高遠町藤沢御堂垣外・松倉 地名調査報告書	平成 28 年
		水上	水上の古い地名調査	平成 28 年
		荒町	荒町の地名	平成 29 年
		北原	北原の地名と歴史	平成 28 年
		台殿	台殿区の地名調査	平成 29 年
		勝間	高遠町勝間 地名調査報告書	平成 28 年
	河南	小原	小原の地名	平成 27 年
		引持	引持今昔ものがたり(引持の歴史)	平成 28 年
		下山田	歴史の重み 下山田に今も残る地名を尋ねて	平成 28 年
		越道	古の地名から知る越道	平成 28 年
		金井	続 金井のあゆみ 地名編	平成 28 年
	全域		高遠歴史・地名ものがたり	平成 31 年
長谷	非持	非持	非持区の地名を訪ねて	平成 27 年
	溝口	溝口	長谷地区 溝口調査グループ 中間報告書	平成 27 年
	中尾	中尾	中尾地区・地名調査	平成 27 年
	杉島	杉島	長谷杉島区の地名	平成 28 年
	全域		長谷歴史・地名ものがたり	平成 31 年
全域			伊那市村名と小字名の変遷	平成 28 年
全域			伊那市の民話・伝承	平成 31 年

6 歴史文化資源に関わる主な公開活用事業

(1) 公開活用事業（平成 29 年度(2017 年度)から令和 4 年度(2022 年度)の状況）

表 伊那市創造館

平成 29 年度(2017 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
特別展 「中村不折の挿絵と商業美術」 ～中村不折生誕 150 年記念展～	平成 28 年 10 月まで開催した企画展示に新たな視点を加えての特別展。	伊那市創造館	～平成 29.5.8
第 19 回企画展 「地味にスゴイ!? 伊那市最近発掘状況」	最近の伊那市の発掘調査と、過去の遺跡の再整理事業の成果など、初公開の資料を展示。	伊那市創造館	平成 29.3.29 ～7.3
特別展 「前方後円墳の発見か!? 老松場古墳群第一次調査速報展」	関西大学文学部考古研究室と伊那市教育委員会が 3 か年計画で行っている発掘調査の 1 年目の調査結果を展示。	伊那市創造館	平成 29.10.7 ～11.13
上伊那教育会所蔵作品展 伊那谷の生んだ芸術家たち(4)	上伊那教育会が所蔵する膨大な資料の中から、伊那谷にゆかりのある芸術家の作品の中から「工芸」をテーマに展示。	上伊那教育会	平成 29.11.1 ～12.3
第 20 回企画展 「大昆虫食博と、信州のさまざまな蝶」	イナゴ・蜂の子・ざざ虫・さなぎ、伊那谷に今も伝わる昆虫食の秘密を探る展示。市内在住の方から寄贈された蝶の標本の展示。	伊那市創造館	平成 29.12.2 ～平成 30.5.7
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2017	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	平成 29.5 月 ～10 月
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
伊那市創造館自主制作映画祭 2017 大阪・伊那・東京激突☆ 映像リニア B ルート	創造館自主制作映画祭。伊那谷をモチーフとして取り上げた公募作品、全国の上映会で話題を呼んだ招待作品の上映。	伊那市創造館	平成 29.10.28
大昆虫食博関連イベント	中條隆氏の蝶の話。 「昆虫食を語ろう！」シンポジウム	伊那市創造館	平成 30.3.17, 3.21

平成 30 年度(2018 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
特別展 「神子柴遺跡 60 周年記念」	日本で最も美しいと称される、国指定重要文化財「神子柴遺跡の石器」発掘 60 周年を記念した展示。	伊那市創造館	平成 30.5.2 ～6.25
すばらしい伊那の大地と自然展 ー地質研究家寺平宏先生功績展ー	寺平宏先生が撮影した素晴らしい写真や化石などを紹介展示。	伊那市創造館	平成 30.7.4 ～8.31
上伊那教育会所蔵作品展 伊那谷の生んだ芸術家たち(5)	上伊那教育会が所蔵する膨大な資料の中から、伊那谷にゆかりのある芸術家の作品の中から「野鳥が描かれている日本画」をテーマに展示。	上伊那教育会	平成 30.11.17 ～12.2
宮島写真展 「石仏師守屋貞治-慈悲の旅路-」	飯田市出身の写真家が 40 年間の写真活動の集大成として撮影した守屋貞治の石仏写真を展示。	伊那市創造館	平成 30.12.8 ～平成 31.1.14
天神山古墳出土品初公開記念 特別展 「伊那市の古墳研究最前線」	明治 32 年美鷲天神山古墳出土品が市に寄贈されての初公開、老松場 1 号墳発掘調査の成果など古墳研究最前線の展示。	伊那市創造館	平成 31.2.6 ～令和元 5.13
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2018	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	平成 30.5 月 ～10 月
化石！土器！石器！ レプリカマグネット作り	アンモナイトや国重要文化財に指定されている顔面付釣手形土器や神子柴遺跡の石器などのレプリカを作る。	伊那市創造館	平成 30.7.24 ～9.30
冬の体験教室 「干支・縄文の土鈴作り」 「ジビエ家庭料理教室」	土鈴作りとジビエを使った料理教室。	伊那市創造館	平成 30.11.23, 12.1

講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
神子柴遺跡発掘 60 周年 記念シンポジウム 「神子柴系石器群その存在と影響」	神子柴遺跡発掘 60 周年を記念し、神子柴遺跡や神子柴系石器群について最新の研究成果を交えた基調報告、記念講演会、パネルディスカッション。	伊那市創造館	平成 30.9.29 ～9.30
伊那市創造館自主制作映画祭 2018 大阪・伊那・東京激突☆ 映像リニア B ルート the4th!!	創造館自主制作映画祭。伊那谷をモチーフとして取り上げた公募作品、全国の上映会で話題を呼んだ招待作品の上映。	伊那市創造館	平成 30.10.20
平澤真希オルガン・ピアノコンサート 「明治 150 年・伊那に始まる日本 音楽物語」	創造館に残る歴史的なオルガンを使ったコンサート。	伊那市創造館	平成 30.11.17 ～11.18
美味しい昆虫シンポジウム	上伊那の地域資源であり、伝統的な食文化としての昆虫食を紹介し、未来を考えるシンポジウムと試食会。	伊那市創造館	平成 31.2.17

平成 31 年度・令和元年度(2019 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
上伊那教育会所蔵作品展 伊那谷の生んだ芸術家たち(6)	上伊那教育会が所蔵する膨大な資料の中から、伊那谷にゆかりのある芸術家の洋画作品を中心に展示。	上伊那教育会	令和元.11.16 ～12.1
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2019	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	令和元年 6 月 ～10 月
化石！土器！石器！ レプリカマグネット作り	化石や土器、石器の色とりどりのレプリカマグネットを作る体験教室。	伊那市創造館	令和元.7.3 ～9.16
老松場古墳群 発掘体験教室	遺跡の発掘調査を体験。	伊那市創造館	令和元.8.24, 8.31
第 23 回企画展 「蕎麦は正義」	「信州そば発祥の地」伊那における蕎麦の歴史と、高遠そば誕生の秘密、全国の歴史的かつ特徴的な蕎麦を紹介する展示。	伊那市創造館	令和 2.2.19 ～8.31
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
郷土研究講習会	「阪本天山と内藤家」について、郷土史研究家・矢澤章一氏による講演。	伊那市創造館	令和元.7.6
老松場古墳群調査関連講演会	発掘調査の成果と当時の社会を考える講演会。 「イナとヤマトの往還・情報戦略～現東山道から七道駅路への発展～」ほか	伊那市創造館	令和元.8.25
老松場古墳群調査成果現地説明会	第 3 次調査結果の成果を現地で説明。	伊那市創造館	令和元.9.7
伊那市創造館自主制作映画祭 2019 大阪・伊那・東京激突☆映 像リニア B ルート the5th!!	創造館自主制作映画祭。伊那谷をモチーフとして取り上げた公募作品、全国の上映会で話題を呼んだ招待作品の上映。	伊那市創造館	令和元.10.19

令和 2 年度(2020 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
開館 10 周年記念展	10 年間を振り返る特別展。	伊那市創造館	令和 2.5.22 ～7.27
特別展 井月をめぐる旅	2011 年に信濃毎日新聞紙上で月一回の連載として掲載された、井月をめぐる紀行文と木版画の展示。	伊那市創造館	令和 2.9.3 ～11.30
第 24 回企画展 「インドシルクー手しごとと伊那谷の 未来ー」	伊那谷の豊かな水、蚕の飼育や桑野栽培に適する気候で上質な蚕糸を生み出し、培われた技術がインド国内の絹糸生産の向上に貢献しているという染織品がまとまった形で見られる展示。	伊那市創造館	令和 2.10.23 ～11.23
禁煙友愛会 65 年の歩み展	令和 2 年 3 月に会の解散を迎えた禁煙友愛会 65 年の活動を振り返る展示。	伊那市創造館	令和 3.2.20 ～5.31
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2020	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	令和 2 年 7 月 ～10 月
伊那紬のはたおり体験	ふんわり柔らかい紬糸を織り込んで、シルクのランチョンマットを作るはたおり体験。	伊那市創造館	令和 2.10.31, 11.1

講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
記念特別イベント「リアル謎解きゲーム 上伊那図書館に隠された財宝を探せ！」	創造館全館をめぐり謎を解いて、財宝を探すゲーム。	伊那市創造館	令和 2.6.24 ～8.31
伊那市創造館自主制作映画祭 2020 大阪・伊那・東京激突☆ 映像リニア B ルート the6th!!	創造館自主制作映画祭。伊那谷をモチーフとして取り上げた公募作品、全国の上映会で話題を呼んだ招待作品の上映。	伊那市創造館	令和 2.10.17
原垣外(勸前)遺跡 発掘現地説明会	発掘調査により、縄文から奈良・平安時代の住居跡などが見つかった伊那市山寺の原垣外遺跡(現在の勸前遺跡)の、現地説明会。	伊那市創造館	令和 2.10.3、10.4

令和 3 年度(2021 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
収蔵作品展 ～現代郷土作家を中心に～	現代郷土作家の大作を中心とした展示。	伊那市創造館	令和 3.5.15 ～6.16
令和 3 年長谷公民館夏期特別企画展示「縄文土器から弥生土器～土器でくらしの違いを知ろう～」	夏休み特別企画として長野県立歴史館と共催で、縄文時代と弥生時代についての展示会。	長谷公民館・伊那市創造館	令和 3.7.3 ～8.31
特別展 伊那市有線放送 50 周年 地球と共に半世紀	「伊那市有線放送 50 周年」を記念して、歴史的な機材や過去の音源を展示し、その歴史と役割を振り返る。	伊那市創造館	令和 3.8.28 ～11.3
上伊那教育会蔵作品展 伊那谷の生んだ芸術家たち(7)	上伊那教育会を中心に収集された 2 万点に及ぶ貴重な収蔵資料の中で、毎回テーマを決めて所蔵作品を中心とした展示。	上伊那教育会・伊那市創造館	令和 3.11.13 ～11.28
第 27 回企画展 「高遠藩の軍制改革と伊澤修二」	来たるべき時代のリーダーとして育ち始めた若き日の伊澤修二の姿の、諸資料やパネル展示。	伊那市創造館	令和 4.1.22 ～5.9
ライチョウ関連企画・特別展 「雷鳥～四季を纏う神の鳥～【INA select】」	八十二文化財団共催。ライチョウの魅力的な瞬間を、大型パネル約 20 点と、動画で鑑賞する写真展。	伊那市創造館	令和 4.1.28 ～2.27
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2021	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	令和 3 年 6 月 ～10 月
せせらぎキャンドルを作ろう！	地球のかけらの小石たち。そのなりたちを楽しく学び、集めたあと、透明なジェルを使って川底のようなキャンドルを作る。	伊那市創造館	令和 3.7.22,7.23,8.4,8.5
冬の体験講座 縄文の音を聞こう！干支・縄文の土 鈴づくり	来年の干支、寅の形をした鈴と、縄文時代の鈴を粘土で作る。	伊那市創造館	令和 3.11.20
小中学生向け環境講座 「写真で見る“伊那市の鳥”ライチョウの生態」	八十二文化財団共催。ライチョウの生態をわかりやすく解説。	伊那市創造館	令和 4.2.19
教養講座 「ライチョウ共に生きる」	八十二文化財団共催。「ライチョウから学ぶ自然保護」ほか	伊那市創造館	令和 4.2.19
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
16 mmフィルム映学会	かつての学校映学会を再現する 16 mmフィルム上映会。	伊那市創造館	令和 3.4.24
伊那市創造館自主制作映画祭 2021	伊那の物品や人や景色を取り込んだ公募作品「伊那谷ムービー」、各地上映会で話題を呼んだ招待作品全 18 作品。	伊那市創造館	令和 3.10.16

令和 4 年度(2022 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
藤井瑞石 書×ジオパーク展	ジオパークの見どころを表現した書作品が、その場所の写真・解説とともに展示。	伊那市創造館	令和 4.4.15 ～6.13
第 28 回企画展 「大昆虫食博」RETURNS!	イナゴ・蜂の子・ざざ虫・さなぎ、伊那谷に今も伝わる昆虫食をめぐる明るい未来を探る。	伊那市創造館	令和 4.8.13 ～12.26
特別展 「一茶の生涯と句碑」	八十二文化財団共催。各地に残る小林一茶の句碑やいくつかの真筆を紹介し、その生涯をたどる。	伊那市創造館	令和 4.8.25 ～9.28

展示	内容	主催・会場等	開催日
上伊那教育会蔵作品展 伊那谷の生んだ芸術家たち(8)	上伊那教育会を中心に収集された 2 万点に及ぶ貴重な収蔵資料の中で、毎回テーマを決めて所蔵作品を中心とした展示。	上伊那教育会・伊那市創造館	令和 4.11.12 ～11.27
第 29 回企画展 「中尾歌舞伎」	歴史、支えてきた人々、様々な道具・華やかな衣装など、中尾歌舞伎の魅力を存分に語る展示。	伊那市創造館	令和 4.3.25 ～6.26
特別展示 「信州伊那谷 昆虫食博 おかわり！」	この地域の昆虫食の歴史や、最新の昆虫食にまつわるニュースなど、文化庁認定「食文化ミュージアム／食の体験・情報発信施設」としての展示。	伊那市創造館	令和 5.2～
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
地球の学校 2022	ふるさとの自然を題材に、ダイナミックな地球の成り立ちを学んで・感じて・体験する講座。	伊那市創造館	令和 4 年 6 月 ～10 月
せせらぎキャンドルを作ろう！	地球のかけらの小石たち。そのなりたちを楽しく学び、集めたあと、透明なジェルを使って川底のようなキャンドルを作る。	伊那市創造館	令和 4.7.30,7.31, 8.4,8.5
冬の体験教室 縄文の音を聞こう！干支・縄文の土鈴づくり	来年の干支、卯の形をした鈴と、縄文時代の鈴を粘土で作る。	伊那市創造館	令和 4.11.19
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
16 mmフィルム映写会 「聖職の碑」	かつての学校映画会を再現する 16 mmフィルム上映会。	伊那市創造館	令和 4.6.26
公文国際学園中等部 3 年による 「日本文化体験」研究発表会 日本の郷土料理としての昆虫食	日本の郷土料理としての昆虫食を知り、広めるということを目指して活動し、滞在最終日に学んだことをもとに発表する。	伊那市創造館	令和 4.9.30
伊那市創造館自主制作映画祭 2022	伊那の物品や人や景色を取り込んだ公募作品「伊那谷ムビー」、各地上映会で話題を呼んだ招待作品全 17 作品。	伊那市創造館	令和 4.10.22
「神子柴系石器群の生成とその性格をめぐる研究」総括シンポジウム	サピエンス渡来初期にあたる旧石器時代の信州における最新の調査研究事例の発表と、三つのルートの考古学・人類学的な検証を行う。	伊那市創造館・伊那市生涯学習センター	令和 4.10.22,10.23

表 伊那市立高遠町歴史博物館

平成 29 年度(2017 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 54 回特別展 「伊那・高遠と新宿をむすぶ内藤家」	新宿区との友好提携 10 周年を記念し、内藤新宿で知られる藩主内藤家にかかわる絵巻物などの品々を展示。	高遠町歴史博物館	平成 29.3.24 ～6.18
第 55 回特別展 「出征兵士と家族の肖像写真展」	市民から寄せられた出征兵士と家族の写真を展示、映示しながら、戦時に生きた人々の気持ちに思いを寄せる企画展。	高遠町歴史博物館	平成 29.7.29 ～8.20
第 56 回特別展 「20 年の歩みに学ぶ」	高遠町歴史博物館の 20 余年の歩みをもとに、これからの館のあり方を地域の皆さんと共に考える展示。	高遠町歴史博物館	平成 29.9.22 ～12.10
第 57 回特別展 「上伊那郡市小中学生社会科新聞展」	上伊那郡市の小中学生が制作した社会科新聞を一同に展示。	高遠町歴史博物館	平成 29.10.21 ～11.5
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
第 5 回歴博講座 2017 春Ⅱ	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「明治維新と内藤家」ほか	高遠町歴史博物館	平成 29.5.15
第 6 回歴博講座 2017 夏	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「一夜の城跡の発掘から」ほか	高遠町歴史博物館	平成 29.8.11
第 4 回中学生講座 「地域の実物史料から日本の歴史の流れをとらえよう」	地域に残る資料をに触れたりしながら、日本の歴史を学ぶ講座。	高遠町歴史博物館	平成 29.8.2
第 7 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「守屋貞治の石仏を求めて」ほか	高遠町歴史博物館	平成 29.9.30
第 8 回歴博講座 2018 春	地域に残る写真などの史料を次の世代に残すためのデジタル化の取り組み成果を発表。 「高遠・長谷地区の道路・交通のうつりかわり」ほか	高遠町歴史博物館	平成 30.3.10

平成 30 年度(2018 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 58 回特別展 明治 150 年「維新の激動と伊那・高遠の人々」	今年が明治 150 年の節目に当たり、維新期の高遠藩の様子や伊那、高遠の人々の当地に残る資料を展示。	高遠町歴史博物館	平成 30.3.8 ～6.17
第 59 回特別展 「出征兵士と家族の肖像展」	市民から寄せられた出征兵士と家族の写真を展示、映示しながら、戦時に生きた人々の気持ちに思いを寄せる企画展。	高遠町歴史博物館	平成 30.7.28 ～8.19
第 60 回特別展 「高遠に残る武具」	刀剣、鉄砲、甲冑をはじめ、高遠藩ゆかりの武具などを展示。	高遠町歴史博物館	平成 30.10.1 ～12.9
第 61 回特別展 「上伊那郡市小中学生社会科新聞展」	上伊那郡市の小中学生が制作した社会科新聞を一同に展示。	高遠町歴史博物館	平成 30.10.2 ～11.4
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
歴博古文書講座	古文書を読み解きながら、地域の歴史を学ぶ講座。	高遠町歴史博物館	平成 30.3 月 ～平成 31.3 月
第 9 回歴博講座 2018 春Ⅱ	特別展「維新の激動と伊那・高遠の人々」の関連企画。 「－映像でみる－進徳館・高遠の学・学校の変遷」ほか	高遠町歴史博物館	平成 30.5.20
第 5 回中学生講座	地域に残る資料の実物に触れながら、日本の歴史の流れを学ぶ。	高遠町歴史博物館	平成 30.8.8 ～8.10
第 10 回歴博講座 2018 夏	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。 「上伊那誌自然編の改訂に関わって」ほか	高遠町歴史博物館	平成 30.8.11
第 11 回歴博講座 2019 春	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。 「高遠町政最後の記録－旧高遠町役場に残された記録写真から－」ほか	高遠町歴史博物館	平成 31.2.23
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
第 60 回特別展開関連講演会	飯田敏久氏(公益財団法人日本美術刀剣保存協会事務局長・刀剣博物館学芸員)による刀剣に関する講演。	高遠町歴史博物館	平成 30.11.10
歴博わくわく教室	缶バッチづくりや本物の火縄銃を持って記念撮影。	高遠町歴史博物館	平成 30.11.3 ～11.4

平成 31 年度・令和元年度(2019 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 62 回特別展 「花とともに生きる」	花にかかわる資料を通して、人の暮らしと花との関わりを紹介する展示。	高遠町歴史博物館	平成 31.3.9 ～令和元.6.18
第 63 回特別展 「出征兵士と家族の肖像展」	市民の写真提供、当館保存の生活用具などの物品、開戦から敗戦までの新聞などの展示。	高遠町歴史博物館	令和元.7.27 ～8.18
第 64 回特別展 「文よく武を制す－高遠進徳館から 信州の教育に連なる群像－」	高遠藩校進徳館ゆかりの人々を通して、今日の信州の教育の源流をたどる展示。	高遠町歴史博物館	令和元.9.14 ～12.8
第 65 回特別展 「上伊那郡市小中学生社会科新聞展」	上伊那地区の小中学校で子ども達が社会科学習の一環で作成した社会科新聞を展示。	高遠町歴史博物館	令和元.10.19 ～11.4
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
歴博古文書講座	古文書を読み解きながら、地域の歴史を学ぶ講座。	高遠町歴史博物館	令和元.6 月 ～令和 2.2 月
第 12 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「埋もれた伊那の画家再発見」ほか	高遠町歴史博物館	令和元.5.18
第 6 回中学生講座 「トリプルトラベルで地域の歴史・生活・ 自然を楽しく学ぶ」	実物の資料を通して、地域の歴史、昭和の生活、ダムを学ぶ体験講座。	高遠町歴史博物館	令和元.8.9 ～8.11
第 13 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「ジオパークってなに？から南アルプスジオの特徴まで」ほか	高遠町歴史博物館	令和元.8.24
第 14 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「高遠進徳館の創設と発展に関わった人々」ほか	高遠町歴史博物館	令和元.11.17
各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
第 2 回歴博わくわく教室	オリジナル缶バッチづくりや本物の火縄銃を持って記念撮影。	高遠町歴史博物館	令和元.11.2 ～11.4
まちなかミュージアム	郵便局、金融機関などの施設になつかしい昔の写真を巡回展示。	高遠町歴史博物館	令和 2.2 月 ～3 月

令和 2 年度(2020 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 66 回特別展 「ふるさとごはんの 300 年」	江戸時代の殿様御膳から現代の給食まで、ふるさとの食材と献立の展示。	高遠町歴史博物館	令和 2.3.7 ～6.21
第 67 回特別展 「出征兵士と家族の肖像展」	寄せられた多くの写真や資料を通して戦争の事実とその意味を問い、伝える展示。	高遠町歴史博物館	令和 2.7.18 ～8.23
第 68 回特別展 「高遠と文学～時代を越えて広がり伝わる言の葉」	高遠で詠み歌い、高遠を題材としたさまざまな文学、文芸作品がこの地に広がり伝えられてきた姿を伝える展示。	高遠町歴史博物館	令和 2.9.12 ～12.6
第 69 回特別展 「上伊那郡市小中学生新聞展」	上伊那郡市の学校で作成された子ども達の力作の新聞の展示。	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 2.10.17 ～11.8
第 70 回特別展 「服飾文化を支えるシゴト」	伊那の服飾文化に着目し、着物、着物をリメイクした製品、髪飾などやの装飾品や、服飾に関わる職業の歴史資料などの展示。	高遠町歴史博物館	令和 3.3.6 ～6.20
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
歴博わくわく教室	ほんものの大型縄文土器や刀剣・銃などの歴史資料に触ったり、バックヤードを見学するなどの体験教室。	高遠町歴史博物館	令和 2.8.1,11.7～ 8,令和 3.1.30
第 16 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「私の太平洋戦争 特攻隊を送り出した赤トンボ整備士」ほか	高遠町歴史博物館 ・高遠町総合福祉センター・やすそ	令和 2.8.8
第 17 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「小学唱歌と童謡」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 2.11.23
第 18 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「和食と日本文化」ほか	高遠町歴史博物館 ・高遠町総合福祉センター・やすそ	令和 3.2.20
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
まちなかミュージアム	郵便局、金融機関などの施設になつかしい昔の写真を巡回展示。	高遠町歴史博物館	令和 2.4 月 ～令和 3.3 月
第 1 回歴博カフェ 「伊那の近代交通の夜明け～中馬から伊那電気鉄道へ～」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。松澤英太郎氏(前南箕輪村文化財専門委員)講師。	高遠町歴史博物館 ・Books&Café ニシザフいなっせ店	令和 2.6.13
第 2 回歴博カフェ 「伊那市の古い地名調査はふるさと再発見だった」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。竹松亨氏(元信濃教育会事務局長・元赤穂中学校校長)講師。	高遠町歴史博物館 ・Books&Café ニシザフいなっせ店	令和 2.12.13
第 3 回歴博カフェ 「こんなに面白い樹木の生活」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。馬場多久男氏(元信州大学助教授)講師。	高遠町歴史博物館 ・ノースフィールド本社シヨールーム	令和 3.3.14

令和 3 年度(2021 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 71 回特別展 「出征兵士と家族の肖像展」	歴博に寄せられた多くの写真や資料を通して戦争の事実とその意味を問い伝える。	高遠町歴史博物館	令和 3.7.17 ～8.22
第 72 回特別展 「高遠今むかし-故矢澤章一氏の資料を緋く-」	祖父の代から伝わる歴史資料を数多く歴博に寄託している故矢澤章一氏の選りすぐりの史料の展示。	高遠町歴史博物館	令和 3.9.11 ～令和 4.2.20
第 73 回特別展 「上伊那郡市小中学生新聞展」	上伊那郡市の学校で作成された子ども達の力作の展示。	高遠町歴史博物館	令和 3.10.16 ～11.7
第 74 回特別展 「高遠が誇るお寺の文化財」	高遠城下の寺院に保管されている伊那の歴史上大変重要な資料や貴重な美術品を、指定文化財を中心に展示。	高遠町歴史博物館	令和 4.2.26 ～6.19
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
第 70 回特別展開連 第 19 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「絹織物と養蚕技術の発展」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 3.5.29
第 20 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「信念の反戦平和主義者 伊藤友治郎翁」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 3.8.7
歴博わくわく教室	ほんものの大型縄文土器や刀剣・銃などの歴史資料に触ったり、バックヤードを見学するなどの体験教室。	高遠町歴史博物館	令和 3.8.1,11.6～ 7,令和 4.1.22
第 21 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「矢澤章一さんの思い出」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 3.11.23

講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
守屋貞治の延命地藏菩薩お披露目会	中川村新井家当主により歴博に寄託された守屋貞治の石仏の公開に先立ってのお披露目会。	高遠町歴史博物館	令和 3.5.15
まちなかミュージアム	郵便局、金融機関などの施設になつかしい昔の写真を巡回展示。	高遠町歴史博物館	令和 3.6 月～10 月
第 4 回歴博カフェ 「阪本天山 その学と人」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。北原紀孝氏(元伊那市立高遠町歴史博物館館長・高遠郷土研究会会長)講師。	高遠町歴史博物館 ・レストランコング	令和 3.6.18
第 5 回歴博カフェ 「箕輪領 1 万石と高遠藩」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。柴秀毅氏(箕輪町教育委員会(郷土博物館))講師。	高遠町歴史博物館 ・菓匠 Shimizu2 階	令和 3.9.24
第 6 回歴博カフェ 「江戸期古文書に見る笠原の歴史と地名－新堤構造の経過－」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。桜井裕記氏(郷土史研究家)講師。	高遠町歴史博物館 ・憩いの空間 梨麻	令和 3.12.10

令和 4 年度(2022 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
第 75 回特別展 「出征兵士と家族の肖像」	歴博に寄せられた多くの写真や資料を通して戦争の事実とその意味を問い、伝える。	高遠町歴史博物館	令和 4.7.16 ～8.21
第 76 回特別展 「高遠の先人たちのこころ－預けられた資料から」	寄託期間更新手続きが済み、貴重な寄託資料を改めて見つめなおし、長く伝えられ、遺されてきたという事実の裏に高遠の先人たちのどのような「こころ」を見ることができるかを探る。	高遠町歴史博物館	令和 4.9.10 ～12.11
第 77 回特別展 「上伊那郡市小中学生新聞展」	上伊那郡市の学校で作成された子ども達の力作の展示。	高遠町歴史博物館	令和 4.10.22 ～11.13
第 78 回特別展 「伊那のお寺と仏教文化」	高遠の古刹、名刹に伝えられてきた貴重なお宝の紹介。	高遠町歴史博物館	令和 5.2.25 ～6.18
講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
第 74 回特別展開連 第 22 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「歩いて巡る～高遠の名刹の文化財拝観」ほか	高遠町歴史博物館	令和 4.5.27
第 23 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「高遠の寺の縁起・由来」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 4.7.31
歴博わくわく教室	ほんものの大型縄文土器や刀剣・銃などの歴史資料に触ったり、バックヤードを見学するなどの体験教室。	高遠町歴史博物館	令和 4.11.5 ～11.6, 令和 5.1.22
第 24 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「ドローンの歴史とその可能性」ほか	高遠町歴史博物館 ・地域間交流施設	令和 4.10.15
第 25 回歴博講座	地域の歴史や自然、人々の暮らしなどにかかわる調査・研究発表会。「心ひとつに」ほか	高遠町歴史博物館 ・高遠町総合福祉センターやますそ	令和 5.3.4
講演会、各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
守屋貞治作 延命地藏菩薩 展示 1 周年記念式典	中川村新井家墓地よりお迎えした守屋貞治の延命地藏菩薩の展示 1 周年の記念式典。	高遠町歴史博物館	令和 4.5.15
第 7 回歴博カフェ 「石仏と民間信仰に見る祈りのこころ」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。宮原達明氏(元高等学校長)講師。	高遠町歴史博物館 ・レストラン森のカフェ	令和 4.6.10
NHK ラジオ第一放送 D J 日本史 公開生放送	松村邦洋さんの楽しいトーク。	高遠町歴史博物館 ・高遠町総合福祉センターやますそ	令和 4.9.11
第 8 回歴博カフェ 「足もとの出来事を伝えていくこと」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。笠原千俊氏(伊那市教育委員会教育長)講師。	高遠町歴史博物館 ・Books&Café ニシザ フイなっせ店	令和 4.9.25
まちなかミュージアム	郵便局、金融機関などの施設になつかしい昔の写真を巡回展示。	高遠町歴史博物館	令和 4.11 月 ～12 月
第 9 回歴博カフェ 「西箕輪大泉新田の古い地名」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。唐沢千文氏(元西箕輪公民館長)講師。	高遠町歴史博物館 ・もみの木カフェ	令和 4.12.9
第 10 回歴博カフェ 「真空管ラジオというロマンの歴史」	地域の皆さんに身近な場所を会場に、お茶を飲みながら、講師を囲んで歴史談義をする会。有賀克明(伊那市立高遠町歴史博物館館長)講師。	高遠町歴史博物館 ・かてんぱばガーデン モンテリナ	令和 5.2.12

表 伊那市民俗資料館（高遠なつかし館・旧馬島家住宅・旧池上家）

平成 29 年度(2017 年度)～令和 4 年度(2022 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
ひな人形展	享保雛など江戸時代のおひなさまから、明治、大正、昭和、平成、各時代のひな人形を展示。	伊那市民俗資料館 旧馬島家住宅	毎年 2 月～4 月
五月人形展	五月人形や幟などを展示。	伊那市民俗資料館 旧馬島家住宅	毎年 4 月～6 月

平成 29 年度(2017 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
ひなまつりお茶会	旧馬島家住宅でひなまつりに合わせたお茶会と着物着付けを実施。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	平成 30. 3. 10

平成 30 年度(2018 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
もみじ祭り秋のお茶会	旧馬島家住宅で高遠城址のもみじまつりに合わせ、お茶会と着物着付けを開催。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	平成 30.10.28
ひなまつりお茶会	旧馬島家住宅でひなまつりに合わせたお茶会と着物着付けを実施。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	平成 31. 3. 10

平成 31 年度・令和元年度・(2019 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
もみじ祭り秋のお茶会	旧馬島家住宅で高遠城址のもみじまつりに合わせ、二胡や琴の演奏を聴きながらのお茶会と着物着付けを開催。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和元.10.27

令和 2 年度(2020 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
もみじ祭り秋のお茶会	旧馬島家住宅で高遠城址のもみじまつりに合わせ、お茶会と着物着付けを開催。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 2.10.25
しめ縄作り講習会	お正月にそなえてしめ縄づくり講習会を開催。	伊那市民俗資料館	令和 2.12.13

令和 3 年度(2021 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
民俗学者 向山雅重の世界「昭和の生活の知恵に学ぶ 1 日」	伊那谷出身の民俗学者向山雅重が撮影した、おもに昭和時代のなつかしい映像を見ながら当時の食と生活を振り返る。	伊那市民俗資料館	令和 3.8.29
もみじ祭り秋のお茶会	旧馬島家住宅で高遠城址のもみじまつりに合わせ、お茶会と着物着付けを開催。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 3.10.24
しめ縄教室	日本伝統文化の一つ「しめ縄」を習う。	伊那市民俗資料館	令和 3.12.11
わら細工教室	日本の縁起物のわら細工、亀や馬を作る。	伊那市民俗資料館	令和 4.1.16
民俗学者 向山雅重の世界「正月行事と食」	民俗学者向山雅重の写真資料を通して、年末年始の行事と食を振り返る。ぶりの粕汁の実食。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 4.1.30
お雛祭り 春のお茶会	旧馬島家住宅でひなまつりに合わせたお茶会と着物着付けを実施。「ひな人形の歴史」福澤浩之(伊那市立高遠町歴史博物館学芸員)講師。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 4.3.6

令和 4 年度(2022 年度)

各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
民俗学者 向山雅重の世界「信州・伊那谷 初夏の農風景」	伊那谷出身の民俗学者向山雅重が撮影した、おもに昭和時代のなつかしい映像を見ながら当時の食と生活を振り返る。	伊那市民俗資料館	令和 4.6.26
もみじ祭り秋のお茶会	旧馬島家住宅で高遠城址のもみじまつりに合わせ、お茶会と着物着付けを開催。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 4.10.23
しめ縄作り講習会	お正月にそなえてしめ縄づくり講習会を開催。	伊那市民俗資料館	令和 4.12.11
民俗学者 向山雅重の世界「正月行事と食」	民俗学者向山雅重の写真資料を通して、年末年始の行事と食を振り返る。ぶりの粕汁の実食。	伊那市民俗資料館 高遠をこよなく愛する会	令和 4.12.18
ワラ細工教室	日本の縁起物のわら細工、豊年俵や馬を作る。	伊那市民俗資料館	令和 4.1.16

表 信州高遠美術館

平成 29 年度(2017 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
陶の仕事展 ー原田コレクションの作家たちー	原田コレクションから陶芸作品を中心に展示。	信州高遠美術館	平成 29.12.16 ～平成 30.4.2

平成 30 年度(2018 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
収蔵作品展「郷土ゆかりの作家展」	収蔵作品の中から郷土にゆかりのある作家の作品を展示。	信州高遠美術館	平成 30.5.26～ 6.25, 7.21～9.2
収蔵作品展 Living ー自然へのまなざしー	収蔵作品を展示。	信州高遠美術館	平成 30.5.26～ 6.25, 7.21～9.2
自然と創造ー花鳥風月ー	収蔵作品を展示。	信州高遠美術館	平成 30.10.27 ～12.2
竹内徹とゆかりの作家展 木内克・福沢一郎二人展	郷土作家として一水会などを中心に活躍した竹内徹氏の画業を振り返る追悼展。原田コレクションの中から木内克と福沢一郎の作品を中心に展示。	信州高遠美術館	平成 30.12.8 ～平成 31.2.17
信濃美術館所蔵名品展 ー信州ゆかりの作家群像ー	信濃美術館の所蔵品の中から、明治、大正、昭和期に活躍した郷土ゆかりの作家の作品を展示。	信州高遠美術館	平成 31.2.23 ～3.31

平成 31 年度・令和元年度(2019 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
原田コレクションとゆかりの作家展 ー人物表現ー郷土作家この逸品展	原田コレクションとゆかりの作家 17 人の様々な人物表現を感じる展示。中村不折、池上秀畝、江崎孝坪などの郷土の作家の作品を展示。	信州高遠美術館	令和元.11.16 ～令和 2.3.1

令和 2 年度(2020 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
原田コレクションと 11 人の作家たち	高遠出身の画家・コレクター原田政雄氏の収集した、日本の近代作家の作品と、郷土やゆかりの深い作家の作品 40 点を展示。	信州高遠美術館	令和 2.5.23 ～8.30
郷土作家ー不折・秀穀・孝坪の初出品作ー	中村不折・細合秀穀・江崎孝坪を含め、池上秀畝・小坂芝田・登内微笑するなど 16 点を展示。	信州高遠美術館	令和 2.5.23 ～8.30

令和 3 年度(2021 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
収蔵作品展 ～現代郷土作家を中心に～	現代郷土作家の大作を中心とした展示。	信州高遠美術館	令和 3.5.15 ～6.16
収蔵作品秀作展	原田コレクションの作家と郷土作家作品の中から、秀作を厳選して展示。	信州高遠美術館	令和 3.5.15 ～8.29
生誕 130 年記念山岸主計展	伊那市出身の木版画家・山岸主計の生誕 130 年を記念して、多色刷りの本版画と油彩画を中心に展示。	信州高遠美術館	令和 3.7.10 ～8.29
書画同源ー伊那の三筆ー	「伊那の三筆」とも言われる中村不折、池上秀畝、小坂芝田の「書画同源」を実践した、優れた書画作品を展示。	信州高遠美術館	令和 3.12.4 ～令和 4.2.27
原田コレクション 収蔵作品展	信州高遠美術館設立のきっかけとなった原田正雄氏の収集した作品の展覧。	信州高遠美術館	令和 3.12.4 ～令和 4.2.27

令和 4 年度(2022 年度)

展示	内容	主催・会場等	開催日
平櫛田中生誕 150 年・木内克生誕 130 年記念展	「原田コレクション」の平櫛と木内の秀作のほか、関係作家の作品も併せて展示。	信州高遠美術館	令和 4.9.23 ～11.20
新収蔵作品展	令和 3 年から 4 年にかけて、寄贈や寄託により新たに収蔵した作品 24 点を関連作品とともに展示。	信州高遠美術館	令和 4.12.10 ～令和 5.2.26
池上秀畝生誕 150 年記念プレ展示 「作家たちが見た四季ー池上秀畝と郷土作家ー」	令和 6 年に生誕 150 年を迎える高遠出身の日本画家・池上秀畝を中心に、伊那谷ゆかりの作家たちの四季を描いた作品の展示。	信州高遠美術館	令和 4.12.10 ～令和 5.2.26

表 長谷公民館展示室（郷土資料室・戸台の化石資料室）

展示	内容	主催・会場等	開催日
竹澤長衛翁愛用の村田銃 取得記念一般展示	竹澤長衛が愛用していた鉄砲である村田銃が 60 年ぶりに伊那市長谷に戻り、一般展示を行う。	長谷公民館	平成 30.2 月～

表 伊那市立図書館（伊那図書館・高遠町図書館）

講座・教室	内容	主催・会場等	開催日
古文書講座	高遠町図書館で所蔵する古文書を通して、江戸時代や明治時代の社会を知る講座。	高遠町図書館	通年
アプリ「高遠ぶらり」	古地図を見ながら高遠の史跡めぐりや町めぐりができるアプリ	高遠ぶらり制作委員会	公開中
伊那谷自然環境ライブラリーフォーラム 「伊那谷に広がる自然文化とそれを支える暮らし」	伊那谷に広がる自然文化とそれを支える暮らしをテーマにした事例発表や意見交換。 「旧石器時代から里山時代の人と植物の関連史」「峠の道」ほか	伊那図書館	平成 29.11.26

表 伊那部宿旧井澤家住宅

展示	内容	主催・会場等	開催日
桃節句雛飾りと繭玉づくり	7 段飾りやつるし雛、押絵雛など、様々なひな人形を展示。	伊那部宿を考える会	毎年 2 月～3 月
端午の節句飾り	五月人形や鎧兜などを展示。	伊那部宿を考える会	毎年 4 月～5 月
各種イベント等	内容	主催・会場等	開催日
高遠焼展示・即売会	高遠焼白山窯の作品展示販売会。	伊那部宿を考える会	毎年 9 月
中秋の名月おからこづくり	もち米で作ったおからこや地元で採れたカボチャ・ネギ、里芋などを縁側に並べ月に供えた後、おからこ汁にして味わう。	伊那部宿を考える会	毎年 9 月下旬

(2) 公民館、生涯学習施設等における歴史文化資源に関わる主な活動

表 公民館

平成 29 年度(2017 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
い〜な旬塾	伊那地方に伝わる郷土料理や漬物などの調理方法を達人たちから学び、一緒に作る。	伊那公民館
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
野草講座	上伊那地域の山々を歩いて、郷土の自然を体験しながら野草について学ぶ。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングペースで巡る。	伊那公民館
野草講座	野山に出かけ、山野草について学ぶ。	富県公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
野草教室	季節の草花を高原に求め、楽しく学習する。	美郷公民館
古文書解読学習講座	古文書を読みながら、歴史背景も合わせて学習する。	美郷公民館
四つ葉の集い	懐かしい映画の鑑賞、ハイキング、歴史館見学等。	手良公民館
野草教室	野にある草花について学習し、知識を深める。	手良公民館
手良地区ハイキング	地区内や里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
親子自然教室	バードウォッチング、植物昆虫観察、地層について知識を深める。	手良公民館
東春近ハイキング	地域の歴史や自然に触れながら、健康増進を兼ねて、元気に楽しくウォーキングをする。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館
ふるさと講座	西箕輪の歴史、自然などを学ぶ。	西箕輪公民館
西箕輪ハイキング	みはらしファームから仲仙寺、経ヶ岳植物園まで、ふるさとの自然と歴史を学びながら体力づくりをする。	西箕輪公民館
郷土史講座 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
第 39 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
南アルプス(中央構造線エリア) ジオパーク講座 「ジオパークを巡り楽しむツアー」	野外学習を楽しみ、自然の恩恵に浴する。 守屋山縦走や北沢峠トレッキング、高遠城址踏査など。	高遠町公民館
「高遠の美しさを訪ね求める」講座	過去と未来につながる高遠の美しさを訪ねながら、人々の営みが作り上げた美しさの形成過程に学ぶ。	高遠町公民館
美術館・歴史博物館を訪ねて	伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館の特別企画展の鑑賞と解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトなどの化石を探す。	長谷公民館
歩け歩け運動	地元の普段歩かない所を歩き、自然や歴史の素晴らしさを再発見する。	長谷公民館

平成 30 年度(2018 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
野草講座	上伊那の山々を歩いて、郷土の自然を体験しながら野草について学ぶ。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングペースで巡る。	伊那公民館
野草講座	野山に出かけ、山野草について学ぶ。	富県公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
野草教室	美郷の史跡を巡り、故郷の歴史を学ぶ。	美郷公民館
野草教室	野山に出向いて草花を観察しながら学ぶ。	手良公民館
四つ葉の集い	郷土の歴史や自然文化、地域の産業の研修など教養を幅広く身に付け親交を深める。	手良公民館
手良の歴史講座	手良の歴史について学習したり、古文書を学んだりする。	手良公民館
手良地区ハイキング	地区内や里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
東春近ハイキング	地域の歴史や自然に触れながら、健康増進を兼ねて、元気に楽しくウォーキングをする。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館
ふるさと講座	西箕輪の歴史、自然などを学ぶ。	西箕輪公民館
歴史学習会 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
まち歩き さと歩き	健康づくりと地域学習を兼ね、西春近をはじめ、色々なところをウォーキングする(よいとこ巡りを含む)。	西春近公民館
区民登山	西春近の里山である物見や城へ登る。	西春近公民館

講座等名称	内容	主催・会場等
第 40 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
南アルプス(中央構造線エリア) ジオパーク講座 「ジオパークを巡り楽しむツアー」	野外学習を楽しみ、自然の恩恵に浴す。守屋山登山や南アルプス仙水峠トレッキングなど。	高遠町公民館
「高遠町・美しい村」講座	守屋貞治の一番弟子、渋谷藤兵衛の石造物巡り。	高遠町公民館
美術館・歴史博物館を訪ねて	伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館の特別企画展の鑑賞と解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトなどの化石を探す。	長谷公民館
歩け歩け運動	地元の普段歩かない所を歩き、自然や歴史の素晴らしさを再発見する。	長谷公民館

平成 31 年度・令和元年度(2019 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングベースで巡る。	伊那公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
みすゞ史跡探訪の会	美鶯の史跡を巡り、故郷の歴史を学ぶ。	美鶯公民館
親子自然体験教室	スガレ追いや戸台の化石発掘などを通して、自然に親しみ、親子の時間を作る。	手良公民館
四つ葉の集い	郷土の歴史や自然文化、地域の産業の研修など教養を幅広く身に付け親交を深める。	手良公民館
手良の歴史講座	手良の歴史について学習したり、古文書を学んだりする。	手良公民館
手良地区ハイキング	地元の里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
東春近ハイキング	地域の歴史や自然に触れながら、健康増進を兼ねて、元気に楽しくウォーキングをする。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館
ふるさと講座	西箕輪の歴史、自然などを学ぶ。	西箕輪公民館
歴史学習会 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
区民登山	西春近の里山である権現山と物見や城へ登る。	西春近公民館
まち歩き さと歩き	健康づくりと地域学習を兼ね、西春近をはじめ、色々なところをウォーキングする(よいとこ巡りを含む)。	西春近公民館
第 41 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
「最も美しい村・ジオパーク」講座	各地の美しい村を訪ねたり、現職石匠の実演を見たりし、高遠の美しさを再認識する。中央構造線エリアのジオパークを巡り、野外学習を楽しむ。	高遠町公民館
美術館・歴史博物館を訪ねて	伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館の特別企画展の鑑賞と解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトの化石を探す。	長谷公民館
歩け歩け運動	地元の普段歩かない所を歩き、自然や歴史の素晴らしさを再発見する。	長谷公民館

令和 2 年度(2020 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングベースで巡る。	伊那公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
親子自然体験教室	スガレ追いや戸台の化石発掘などを通して、自然に親しみ、親子の時間を作る。	手良公民館
四つ葉の集い	郷土の歴史や自然文化、地域の産業の研修など教養を幅広く身に付け親交を深める。	手良公民館
手良の歴史講座	手良の歴史について学習したり、古文書を学んだりする。	手良公民館
手良地区ハイキング	地元の里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
女性教室	成人女性が対象。視察研修やトレッキングなどの野外自然活動や、ものづくりなどの実技講習などを行う。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
権現山トレッキング	権現山の頂上から東春近を一望。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館

講座等名称	内容	主催・会場等
ふるさと講座	西箕輪の歴史、自然などを学ぶ。	西箕輪公民館
登山教室	伊那市の山に登る。	西箕輪公民館
歴史学習会 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
区民登山	西春近の里山の権現山と物見や城へ登る。	西春近公民館
まち歩き さと歩き	健康づくりと地域学習を兼ね、西春近をはじめ、色々なところをウォーキングする(よいとこ巡りを含む)。	西春近公民館
第 42 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
「最も美しい村・ジオパーク」講座	各地の美しい村を訪ねたり、現職石匠の実演を見たりし、高遠の美しさを再認識する。中央構造線エリアのジオパークを巡り、野外学習を楽しむ。	高遠町公民館
美術館・歴史博物館を訪ねて	伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館の特別企画展の鑑賞と解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトの化石を探す。	長谷公民館
おさんぽ倶楽部	伊那谷の名所を歩く。	長谷公民館

令和 3 年度(2021 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングベースで巡る。	伊那公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
親子自然体験教室	スガレ追いや戸台の化石発掘などを通して、自然に親しみ、親子の時間を作る。	手良公民館
四つ葉の集い	郷土の歴史や自然文化、地域の産業の研修など教養を幅広く身に付け親交を深める。	手良公民館
手良の歴史講座	手良の歴史について学習したり、古文書を学んだりする。	手良公民館
手良地区ハイキング	地元の里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
東春近ハイキング	地域の歴史や自然に触れながら、健康増進を兼ねて、元気に楽しくウォーキングをする。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館
ふるさと講座	西箕輪の歴史、自然などを学ぶ。	西箕輪公民館
登山教室	伊那市の山に登る。	西箕輪公民館
歴史学習会 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
区民登山	西春近の里山、権現山と物見や城へ登る。	西春近公民館
まち歩き さと歩き	健康づくりと地域学習を兼ね、西春近をはじめ、色々なところをウォーキングする(よいとこ巡りを含む)。	西春近公民館
第 43 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
「最も美しい村・ジオパーク」講座	各地の美しい村を訪ねたり、現職石匠の実演を見たりし、高遠の美しさを再認識する。中央構造線エリアのジオパークを巡り、野外学習を楽しむ。	高遠町公民館
高遠おいさんずクラブ	男性を対象としたなんでも講座。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
「美術館・歴史博物館・民俗資料館」特別展講座	信州高遠美術館・伊那市立高遠町歴史博物館・伊那市民俗資料館の特別企画展の鑑賞と、学芸員等による解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
高遠石工の石仏をめぐる講座	高遠町内の石仏を巡りながら楽しみ、「歴史と文化の街」高遠を再発見する。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトの化石を探す。	長谷公民館
歩け歩け運動	地元の普段歩かない所を歩き、自然や歴史の素晴らしさを再発見する。	長谷公民館
蕎麦を極める！	「年の瀬の蕎麦は自分でうつ」を目標に蕎麦うち精進する。	長谷公民館

令和 4 年度(2022 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
伊那おやじの会	中高年の男性が集い、料理や地域・史跡巡り等を通して、生きがいと仲間づくりをめざす。	伊那公民館
元旦ジョギング	伊那地区 7 つの神社をジョギングベースで巡る。	伊那公民館
古文書を読む	古文書解読の初心者講座。歴史をひもときながら学習する。	富県公民館
親子自然体験教室	スガレ追いや戸台の化石発掘などを通して、自然に親しみ、親子の時間を作る。	手良公民館
四つ葉の集い	郷土の歴史や自然文化、地域の産業の研修など教養を幅広く身に付け親交を深める。	手良公民館

講座等名称	内容	主催・会場等
手良の歴史講座	手良の歴史について学習したり、古文書を学んだりする。	手良公民館
手良地区ハイキング	地元の里山を散策し、地区の歴史・文化を学びながら交流を図る。	手良公民館
東春近ハイキング	地域の歴史や自然に触れながら、健康増進を兼ねて、元気に楽しくウォーキングをする。	東春近公民館
森の音楽祭 in 春近郷	殿島城址公園で行う野外音楽祭。	東春近公民館
自然観察会	四季ごとの観察会や自然科学の体験を行う。	西箕輪公民館
歴史講座	西箕輪の歴史を学ぶ。	西箕輪公民館
歴史学習会 西春近をふり返る	西春近の近世から近代までを振り返って、地域の歴史を学ぶ講座。	西春近公民館
区民登山	西春近の里山、権現山と物見や城へ登る。	西春近公民館
第 44 回桜大学	地域の歴史などを含め、様々なテーマで年 4 回の講演会を行う。	高遠町公民館
上伊那の名勝・名所を訪ねる講座	上伊那の鑑賞価値のある場所を、講師の案内で名勝や名所を回る。	高遠町公民館
ジオパーク講座	中央構造線エリアのジオパークを巡り、野外学習を楽しむ。	高遠町公民館
高遠そば・そば打ち講座	初心者から経験者まで、高遠産のそば粉で本格的なそば打ちを行う。	高遠町公民館
「美術館・歴史博物館・民俗資料館」特別展講座	信州高遠美術館・伊那市立高遠町歴史博物館・伊那市民俗資料館の特別企画展の鑑賞と、学芸員等による解説を通して歴史・文化・芸術に親しむ。	高遠町公民館
高遠石工の石仏をめぐる講座	高遠町内の石仏を巡りながら楽しみ、「歴史と文化の街」高遠を再発見する。	高遠町公民館
進徳館夏の学校	偉人が学んだ進徳館で論語の素読や体験活動をして、心に残る夏休みの思い出をつくる。	高遠町公民館
入野谷講座	自然・歴史・文化、様々な分野の気になるところをテーマに学習を深める。	長谷公民館
戸台の化石学習会	河原の石ころ観察で色んな岩石を学び、発掘体験でアンモナイトの化石を探す。	長谷公民館
歩き歩き運動	地元の普段歩かない所を歩き、自然や歴史の素晴らしさを再発見する。	長谷公民館

表 伊那市生涯学習センター

平成 29 年度(2017 年度)～令和 4 年度(2022 年度)

講座等名称	内容	主催・会場等
まほらいな市民大学 ・市民大学大学院	芸術・文化・歴史・国際・人権・環境・地球・体力づくりなど幅広いテーマを学ぶ。	生涯学習センター
歴史講座 「伊那の近現代史を学ぶ」	現地見学を含めて、伊那の近現代史を学ぶ講座。	生涯学習センター
近代音楽の先導者“伊澤修二”没 100 年記念事業 伊澤修二没 100 年記念講演＆ミニコンサート	講師 佐野靖氏(東京藝術大学音楽部教授)、ミニコンサート 東京藝術大学学生	生涯学習センター
明治 150 年記念講演会 伊那 市域の近現代 150 年のあゆみ	「天竜川模様替」と「伊那飛行場建設」を通して考える。	生涯学習センター
第 14 回伊那谷伝統文化公演	西春近の和太鼓チームによる太鼓パフォーマンスほか。	生涯学習センター
井月さん講座	芥川龍之介や種田山頭火が敬愛した井月。 井月の俳句だけでなく、いざざま、生きた時代など幅広く学ぶ。	生涯学習センター
親善交流都市会津若松市歴史 講演会「会津の義」	会津松平家 14 代当主松平保久さん。高遠藩主であった保科正之公と会津松平家について、会津藩の想いや会津武士の生き様など講演。	生涯学習センター
高遠石工を学ぶ	高遠石工などについて連続講座で学び、現地見学などを行う。	生涯学習センター
季節を彩る郷土料理	酒井さつきさん講師による、季節の郷土料理を作る教室。	生涯学習センター
伊那の近現代史を学ぶ	伊那の近現代史について連続講座で学び、現地見学などを行う。	生涯学習センター

表 その他(定期的に実施されている祭事・イベント等)

イベント等名称	内容	主催等
羽広の獅子舞	五穀豊穡や厄除けを願い、雌雄 2 匹の獅子舞による「舞い合わせ」が行われる。雄雌 2 匹の獅子は、仲仙寺で共に舞った後、集落を 1 日ばかりで巡る。	羽広獅子舞保存会
文化財防火デー 消防訓練	市内の国指定重要文化財や登録有形文化財、県宝の建造物などを対象とした消防訓練を実施。	伊那市教育委員会 高遠消防署
郷土芸能を語り継ぐ集い	高遠ばやし、伊那節、ざんざ節、龍勝寺山の姫小松など、伊那谷で語り継がれる民謡や芸能を保存・伝承している方々の交流・発表の会。	郷土芸能を語り継ぐ集い実行委員会
高遠城址公園さくら祭り	高遠城跡に咲くタカトオコヒガンザクラの満開時期に合わせたさくら祭り。高遠ばやしの巡行も行われる。	高遠さくら祭り 実行委員会
伊那節まつり	伊那公園の「伊那節発祥之地」石碑前で伊那節保存会員が伊那節を披露する。	伊那商工会議所
やきもち踊り	山寺の白山社八幡社合殿の春の例大祭に併せて毎年行われる無形民俗文化財。	やきもち踊り保存会
保科正之の公生誕祭	高遠で育ち、会津藩の藩祖となった保科正之の公を顕彰する行事。	伊那市観光協会
建福寺石仏ライトアップ	建福寺の石仏群のライトアップ。	高遠石工研究センター
進徳館の日	高遠藩の学問所、進徳館を記念する行事。進徳館の日記念少年剣道大会を開催。	伊那市教育委員会
ローメンの日	ローメンが蒸した麺を使うところから「む(6)し(4)」「(蒸し)と読む語呂合わせにちなんだ記念日。	伊那ローメンズクラブ
水枘検査	木曽山用水の分水量を確認するため、関係者立ち会いによる検査が行われる。小沢川水権委員会が中心となって行う検査と、上戸中条井水利組合が中心となって行う検査がそれぞれある。	小沢川水権委員会、 上戸中条井水利組合 ほか
長衛祭	南アルプスの開拓者、竹澤長衛翁の碑前に集い、遺徳をしのぶとともに、登山者の安全を祈る。記念登山も行う。	長衛祭実行委員会
芝平山絵図虫干し行事	江戸時代、山論を契機に作られた芝平山絵図を年 1 回関係者が立ち会い、広げて確認や虫干しをする行事。	芝平、御堂垣外、荒町、北原、 栗田、四日市場
サンヨリヨリ	三峰川の氾濫を治め、無病息災を祈る行事。	川手天伯社 桜井天伯社
武田信玄狼煙リレー(物見や城、浅間社城趾、高遠城跡ほか)	歴史文化を学び、地域や人とのつながりを目指して、下伊那から上伊那、諏訪、山梨へと武田信玄ゆかりの狼煙台や山城跡を狼煙リレーでつなぐイベント。	武田信玄狼煙会
西駒んボッカ	西駒山荘で使う薪などを山麓から山小屋まで運ぶイベント。	伊那市
千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	井上井月やその時代に関する報告・シンポジウム・投句の表彰 伊那谷を代表する漂泊の俳人、井上井月を偲ぶ俳句大会	井月俳句大会実行 委員会
灯籠まつり	鉾持神社の秋の例祭で、山車や高遠ばやしの巡行がある。	鉾持神社氏子
伊澤修二記念音楽祭	伊澤修二の業績を振り返りながら、市内小・中・高等学校の児童、生徒の合唱や合奏、市民による合唱、東京藝術大学シンフォニーオーケストラの演奏を楽しむ。	伊澤修二記念音楽 祭実行委員会・ 伊那市・ 伊那市教育委員会
高遠城址の秋まつり	高遠城跡のもみじの紅葉時期に合わせた秋祭り。期間中、城址公園内の高遠閣で「高遠そば」の新そばまつりも行われる。	高遠さくら祭り実行 委員会
親孝行の讃歌	孝行猿の民話にちなみ、親に対する思い出や感謝のきもちを綴った作品を公募。	伊那市 伊那市教育委員会
ちよっとおでかけ・い〜な旅	伊那市内を中心に、漂泊の俳人「井月」の足跡をたどる旅や、石仏のある風景などを訪ねる。	伊那市観光協会
「高遠石工」石造物フォトコンテスト	「高遠石工」の石造物がある風景を撮影した写真を募集するフォトコンテスト。	伊那市
石仏総選挙	「好きな石仏」と「美しい石仏」などのカテゴリーで人気投票を行う。	石仏総選挙実行委 員会
中尾歌舞伎定期公演	中尾歌舞伎春季公演。	中尾歌舞伎保存会
歴史シンポジウム	歴史文化資源に関するシンポジウムの開催。	伊那市教育委員会
たかとお食フェス〜ふるさとに学ぶ〜	小中学生を対象に、高遠や伊那の食を通してさまざまな歴史や文化にふれるイベント。	上伊那広域連合 郷土愛プロジェクト

7 アンケートによる保存・管理状況の把握

(1) 指定文化財所有者アンケート

伊那市の指定等文化財に関わる保存状況や管理状況等を把握するために、指定文化財の所有者や所有団体を対象にアンケート調査を実施しました。調査概要は以下のとおりです。また、本章における「有形の文化財」とは、文化財保護法による「有形文化財」及び「有形の民俗文化財」のことをいい、「無形の文化財」とは、同法による「無形文化財」及び「無形の民俗文化財」のことをいいます。

文化財所有者 アンケートの 調査概要

伊那市の文化財に関わる現状や課題を把握するために文化財所有者を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象

指定文化財(有形の文化財・無形の文化財・記念物)を所有している市内の区・寺社・団体・個人の計 70 対象

調査期間

平成 30 年 2 月 7 日(水)～2 月 16 日(金)

調査方法

郵送による配布・回収

回収率

回答 43
回収率 61.4%

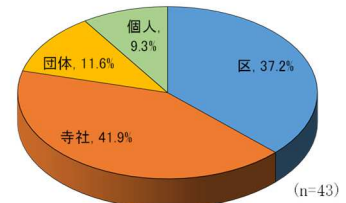
調査項目

- 属性
- 文化財について
 - ・文化財の拝観・見学について
 - ・文化財の日常点検について
 - ・文化財の定期清掃について
 - ・文化財の管理上の問題点について
 - ・活動上の問題点について(無形文化財)
 - ・文化財の今後のあり方について
 - ・指定文化財以外の資源について 等

文化財所有者アンケートから見てきた現状と問題点

【属性】

属性	回答数	構成比
区	15	34.9%
寺社	19	44.2%
団体	5	11.6%
個人	4	9.3%
合計	43	100.0%



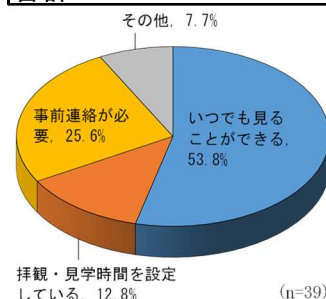
※寺社が 41.9% で最も高く、次いで区が 37.2% となっている。

※n=〇〇は、有効回答数を示す
円グラフから無回答は除く

【文化財について】

① 所有する文化財の拝観・見学について

内容	回答数	構成比 ※無回答除く
いつでも見ることができる	21	53.8%
拝観・見学時間を設定している	5	12.8%
事前連絡が必要	10	25.6%
その他	3	7.7%
無回答	4	—
合計	43	100.0%



※「いつでも見ることができる」が半数以上で、拝観・見学するにあたって「事前連絡が必要」は 25.6% であった。

<その他の内容>

- ・関係者が常駐していないので連絡して鍵をあけてもらう
- ・保存会事務局による対応
- ・高遠町総合支所より連絡

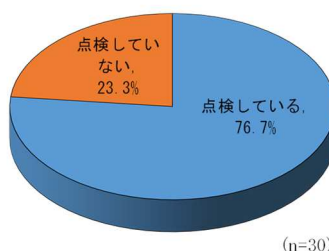
② 有形文化財・記念物を所有管理されている方のみ

※回答を得られた 43 対象のうち有形文化財・記念物を所有しているのは 37 対象

②-1 有形文化財・記念物の日常点検の有無

点検有無	回答数	構成比
点検している	23	76.7%
点検していない	7	23.3%
合計	30	100.0%

※日常的に「点検している」割合が 70% 以上を占めており、「点検していない」を大きく上回っている。



(n=30)

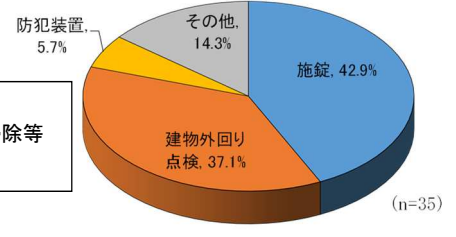
②-2 有形文化財・記念物の点検内容

※「施錠」が 42.9% と最も高い割合となっており、次いで「建物外回り点検」が 37.1% であった。

点検内容	回答数	構成比
施錠	15	42.9%
建物外回り点検	13	37.1%
防犯装置	2	5.7%
その他	5	14.3%
合計	35	100.0%

<その他の内容>

- ・木の下草取り、落葉掃除等
- ・草刈り



(n=35)

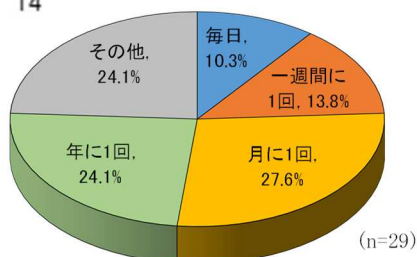
②-3 有形文化財・記念物の点検頻度

点検頻度	回答数	構成比
毎日	3	10.3%
一週間に1回	4	13.8%
月に1回	8	27.6%
年に1回	7	24.1%
その他	7	24.1%
合計	29	100.0%
無回答	14	

※「月に1回」が27.6%で最も多く、次いで「年に1回」、「その他」が24.1%であった。

<その他の内容>

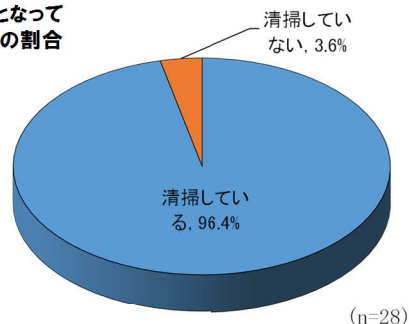
- ・年に数回
- ・墓碑等は月に1回程度、仏像、建物は毎日



②-4 有形文化財・記念物の定期清掃の有無

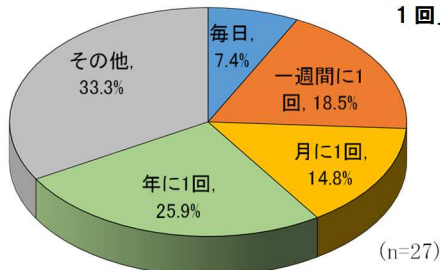
定期清掃の有無	回答数	構成比
清掃している	27	96.4%
清掃していない	1	3.6%
合計	28	100.0%
無回答	15	

※定期的に「清掃している」が96.4%となっており、ほぼ全ての割合を占めている。



②-5 有形文化財・記念物の清掃頻度

清掃頻度	回答数	構成比
毎日	2	7.4%
一週間に1回	5	18.5%
月に1回	4	14.8%
年に1回	7	25.9%
その他	9	33.3%
合計	27	100.0%
無回答	15	



※「その他」が33.3%、次いで「年に1回」が25.9%であった。

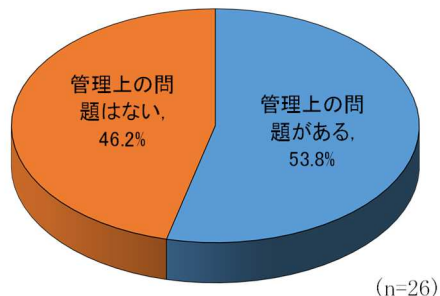
<その他の内容>

- ・年4～5回
- ・春・夏・秋(晩秋)
- ・年に2回
- ・落ちた枝は都度、枯葉は秋に10回くらい
- ・年間8回以上

②-6 有形文化財・記念物の管理上の問題点

問題点の有無	回答数	構成比
管理上の問題がある	14	53.8%
管理上の問題はない	12	46.2%
合計	26	100.0%
無回答	17	

※全体の53.8%が「管理上の問題がある」と回答している。



問題点の内容

※()内は、回答地域と属性

<人口減少・高齢化に関する問題点>

- ・高齢になり、人口減でもう危険で限界。轍上げが出来ない。(伊那地域、寺社)
- ・人手、お金、不十分で十分な管理ができない。(伊那地域、寺社)
- ・維持管理者が減少してくる。(高遠町、区)
- ・檀家少数者の為、現在も少ない檀家で管理している。(高遠町、寺社)
- ・関係者が高齢で欠席者が多く、大変である。(長谷地域、区)

<維持管理に関する問題点>

- ・看板の書き換え(現在白くなったまま)。枯れ落ちた枝処理、落葉の処理(枝は短く切ってゴミ袋に入れる)。大きな木の葉はものすごい量になる。これをごみ収集所に出すのも大変であり、ゴミ袋も足りない。(伊那地域、個人)
- ・建物の風化、腐朽が徐々に進行している。害獣(ハクビシン、鳥、コウモリなど)。(伊那地域、寺社)
- ・古木であるために、大きな枝の落下が心配である。(伊那地域、寺社)
- ・大切な文化財が完全に覆われていないので素晴らしい彫刻等汚損されている。(高遠町地域、区)
- ・建物が老朽化して修理が必要になってくる。(高遠町、区)
- ・避雷針、消火栓等が心配である。建物の基礎コンクリート部分が半分傷んでいる。防犯カメラ等の設置が未設置である。国道等に国重文の案内板が設置されていない。(高遠町地域、寺社)
- ・拝観者に高齢者が多いため、道路整備が必要。(長谷地域、区)

<費用面に関する問題点>

- ・老朽化により壁の脱落、板壁の脱落等発生するが、予算付けが困難。(伊那地域、区)
- ・予算がないため、祭事の継続が心配。(長谷地域、区)
- ・経費面で区(氏子等)だけでは無理がある。(長谷地域、区)
- ・施設管理費用に負担が増大し、区の戸数減少により益々区民に負担がかかる形になっている。(長谷地域、区)

③ 無形文化財を所有・管理されている方のみ

※回答を得られた 43 対象のうち無形文化財を所有しているのは 9 対象

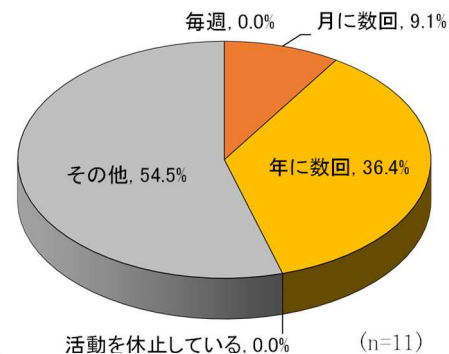
③-1 無形文化財の練習等の活動頻度

活動頻度	回答数	構成比
毎週	0	0.0%
月に数回	1	9.1%
年に数回	4	36.4%
活動を休止している	0	0.0%
その他	6	54.5%
合計	11	100.0%
無回答	32	

※「その他」が 54.5% で最も高く、次いで「年に数回」が 36.4% となっている。

＜その他の内容＞

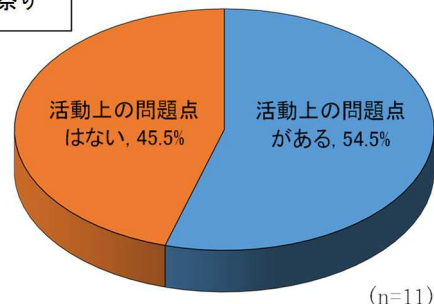
- ・ 4 月の例大祭前の数回
- ・ 年に 7 ～ 8 回の発表会の前毎、数回の練習
- ・ 年に 1 回準備
- ・ 特に練習はしない
- ・ 中尾歌舞伎公演 2 ～ 3 か月前より毎週（平成 29 年（2017 年）2 月～平成 30 年（2018 年）1 月まで活動休止）
- ・ 年に 1 回、天伯社の祭り



③-2 無形文化財の活動上の問題点

問題点の有無	回答数	構成比
活動上の問題点がある	6	54.5%
活動上の問題点はない	5	45.5%
合計	11	100.0%
無回答	32	

※全体の 54.5% が「活動上の問題点がある」と回答している。



問題点の内容

※（ ）内は、回答地域と属性

＜人口減少・高齢化に関する問題点＞

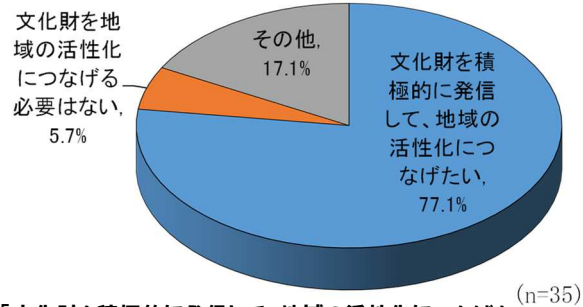
- ・ 高齢化のため、みこしをかつぐ人が足りない。（伊那地域、団体）
- ・ 高齢者もあり、新入会員の補充が難しい。また、新会員への道具（楽器）について苦慮している。（高遠町、団体）
- ・ 着付け、振り付けが年々難しくなるため（高齢者のため）、基本ビデオ作成を実施した。子ども達の人数が不安要素。（高遠町、区）
- ・ （関係者の不足により）活動休止中だったが近々活動を開催予定である。（長谷地域、団体）
- ・ 後継者不足、事務局体制が不安定。（長谷地域、団体）

＜費用面に関する問題点＞

- ・ 保存資金の不足。（伊那地域、団体）

④ 文化財の今後のあり方について

今後のあり方	回答数	構成比 ※無回答除く
文化財を積極的に発信して、地域の活性化につなげたい	27	77.1%
文化財を地域の活性化につなげる必要はない	2	5.7%
その他	6	17.1%
無回答	8	—
合計	43	100.0%



※「文化財を積極的に発信して、地域の活性化につなげたい」が 77.1% で最も高くなっており、「文化財を地域の活性化につなげる必要はない」の 5.7% を大きく上回っている。

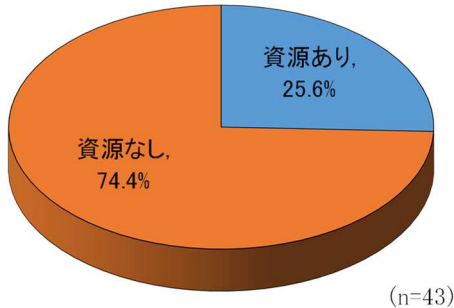
今後のあり方に関する意見

※（ ）内は、回答地域と属性

- ・ 心の拠り所として長く管理出来たら良いと思う。（伊那地域、寺社）
- ・ 永代続くように伝承していきたい。（伊那地域、区）
- ・ 文化財がある、という程度の認識を持っていただけであればよいと思う。（高遠町地域、寺社）
- ・ 文化財は公益的な共有材であるので、地域の活性化につながるように努めたい。歴史等できるだけ分かり易く、パネル展示したいと考えている。（高遠町、遠照寺）
- ・ （存続させるための）プロジェクトとして取り組んでいる。（長谷地域、寺社）

⑤ 地域・寺社等には、文化財に指定されているもの以外に、文化財になり得る資源がありますか

資源の有無	回答数	構成比
資源あり	11	25.6%
資源なし	32	74.4%
合計	43	100.0%



※指定文化財以外の資源があるのは全体の25.6%であった。

資源の内容

＜伊那地域の資源＞

- ・常輪寺の茶碗と膳碗、常輪寺古文書中 2 世肝翁義龍大和尚の書かれた常寺縁起
- ・山寺義士踊り
- ・諏訪神社氏子による「御柱祭」と「長持道中」
- ・春近所蔵の古文書類
- ・東春近 200 余年 土蔵の獅子囃子方
- ・北山史跡(北山和尚)
- ・八勇士
- ・六道の辻(六道地藏尊)

＜高遠町地域の資源＞

- ・香像聖観世音菩薩
- ・観音経絵巻物 香像聖観由來巻物
- ・宮様自筆観音経
- ・日朝堂 絵天井、前机、日朝堂 拝詣蓮歌額
- ・勝間薬師堂の枝垂れ桜
- ・龍勝寺 山姫小松
- ・庫裡(くり)・本堂
- ・古・高遠焼き
- ・狩野派の(山田東雲斎の天井絵ほか)(柳里卿の衝立)障子の腰絵
- ・経蔵
- ・樹林寺本堂内の数多くの仏像、板戸、住職の籠(驚籠)、雛人形、掛け軸、坂戸筆墨画 12 枚長尾無墨筆

⑥ 文化財に関する意見・要望など

意見・要望等の内容

※()内は、回答地域と属性

＜人口減少・高齢化に関する意見・要望等＞

- ・お囃子への参加者が少なくなってきたため、小・中学生の参加を求め、育成に努めている。(伊那地域、団体)
- ・文化財は有形無形に係わらず、伝統を継承し、将来に向けて保存していかなければなりません、時代と共に変化発展も必要である。有形文化財は対応可能な限り、集中展示の特別展が開催できればよい。無形文化財の保存継承には行政の強い支援が必要。特に後継者不足はどの保存会も深刻な課題である。(高遠町地域、団体)

＜維持管理に関する意見・要望等＞

- ・所有者名変更。宮司を宮の花八幡社に。(伊那地域、寺社)
- ・説明書きされている看板は、強風でトタンがパカパカ音がし、柱が腐りかけているように思う。(伊那地域、個人)
- ・建造物の風化(老朽化)が徐々に進んでいるが、現状では打つ手なし。(伊那地域、寺社)
- ・「いいとこ百選の看板」(狐島の神社神明社荒神者合殿)の文字が見えない。(伊那地域、寺社)
- ・文化財を守り保存する務めは、管理者としての最大の責任であると思われる。防災施設について、特に消火栓、避雷針、建物の基礎コンクリート部分は整備しなければと考えているので、ご指導ご支援をお願いしたい。国の重要文化財クラスの看板は国道沿線へ設置されているが、現在は設置されていないので看板(案内板)を出していただくと良い。(高遠町、寺社)
- ・宇津木の薬師堂、御神木が寺の屋根を潰している。木を切る事は出来ないものか。また、切るとした時費用はどのようになるのか。(長谷地域、区)
- ・「溝口のカラカサ松」、「熱田神社の御神木」は老木であり、周囲は管理しているが、樹木医に見て頂きたい。神社本殿の茅葺屋根に草木が立ち高所作業車等でなければ管理ができない。行政等の年次計画で資金面の支援が不可欠である。(長谷地域、寺社)

＜今後のあり方に関する意見・要望等＞

- ・お囃子は観光資源として活用が見込まれる芸能だと思う。それぞれの団体の理解が不可欠だが、将来に向けて議論すべき時期にあると思う。また県内外の行政の芸能への対応の調査も必要と考える。(高遠町、団体)
- ・文化財の公益性を考え、地域の活性化や観光振興に寄すべく積極的に活用していく事が大事だと思う。(高遠町地域、寺社)
- ・できるだけ分かりやすく歴史を視覚化するためにパネル展示等の研究をしているところですので、ご指導やお力添えをお願いしたい。(高遠町地域、寺社)
- ・観光協会のホームページ等にも積極的に情報を掲載していただくと有難い。(高遠町地域、寺社)
- ・個人所有の文化財(有形)は、震災などで被害を受けなかった当地では旧家などに相当所有されていると思われる。それをどのように把握し、保存・存続を行ったらよいか課題と思われる。(高遠町地域、寺社)

⑦ 文化財所有者アンケートから見てきた文化財に関する課題

課題 1

地域に潜在^{せんざい}している歴史文化資源の共有化

「文化財になり得る資源」として、仏像や古文書等の様々なものが挙げられており、地域にはまだあまり知られていない歴史文化資源がたくさんあることが分かります。これらの資源が伊那市内にどのくらいあり、どのような保存状態なのか、十分に整理できていないため、地域に潜在している貴重な歴史文化資源の把握を行い、それらの価値を認識し共有化することが求められます。

課題 2

有形文化財・記念物の維持管理体制の充実

「建物の老朽化により修理が必要だが、維持管理者が減少している」、「神社の草刈りや祭礼の際の幟^{のぼり}上げが、高齢者が多く人口も減少し限界」といった意見が出されています。

文化財がある地域の人口が減り、有形文化財・記念物所有者の多くが高齢化しつつあることから、今後は文化財の維持管理がますます困難になると思われます。そのため、文化財の維持管理に関わる人の負担を軽減し、将来に渡って維持管理できるような体制を整えることが重要です。

課題 3

無形文化財・無形民俗文化財に関わる後継者の確保

「高齢化のためみこしをかつぐ人が足りない」、「祭事の際、関係者が高齢で欠席者が多く大変である」といった活動する人員不足に関する意見や、「会員には高齢者もあり新入会員の補充が難しい」、「後継者不足、事務局体制が不安定」といった意見が出ており、無形文化財や無形民俗文化財の活動に関わる後継者の確保が必要となります。

課題 4

文化財の維持管理や活動に関わる財源の確保

「施設管理費用の負担が増大し、区の戸数減少により区民に負担がかかる形になっている」、「人手、お金が不十分で十分な管理ができない」といった文化財の補修・修繕費用に関する意見や「予算がないため祭事の継続ができるか心配」、「保存資金の不足」等、活動する上での資金不足といった問題点も出されています。

このことから、文化財の維持管理や活動に関わる費用面での支援が必要です。

課題 5

文化財を活用した地域の活性化

「文化財を積極的に発信して地域の活性化につなげたい」と回答している所有者は約 80%と高い割合であることから、文化財所有者の活用に関する意識は高いことが分かります。

このことから、地域に存在する文化財を積極的に発信し、その魅力をアピールし、文化財を活用した地域の活性化を図ることが求められます。

(2) 地域住民アンケート

伊那市民が市内の歴史文化資源をどのようにとらえているのか、またどのような関わりを持っているのか、現状を把握するため、市内で開催したイベント等（歴史シンポジウム、各公民館講座、納税申告相談）の参加者や来場者を対象にアンケート調査を実施しました。

地域住民 アンケートの 調査概要

伊那市の文化財に関わる保存・活用について、地域住民にアンケート調査を実施しました。

調査対象

- ア 第23回伊那市歴史シンポジウム参加者
- イ 各公民館講座参加者
- ウ 納税申告相談来場者ほか

調査期間

- ア 令和3年12月26日(日)
- イ 令和4年1月・3月
- ウ 令和4年2月～3月

調査方法

アンケート用紙の配布・回収

回収結果

回答数 218人

【内訳】

ア	第23回歴史シンポジウム参加者	65人	29.8%
イ	各公民館講座参加者	18人	8.3%
ウ	申告相談来場者ほか	135人	61.9%

調査項目

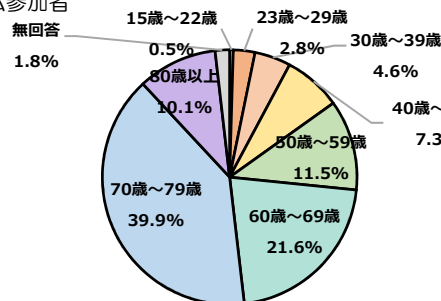
- 属性
- 文化財について
 - ・伊那市に愛着や誇りを持っているかについて
 - ・「伊那市らしい」とイメージする歴史や文化(その周辺環境)について
 - ・どのような文化財等に興味や関心があるかについて
 - ・文化財等を保存・活用する取組の重点について
 - ・文化財等に関する活動で、現在関わっていることについて
 - ・文化財等に関する活動で、今後関わることについて
 - ・文化財に関する意見 など

※アンケート回答者の年齢層が高かったため、「無職」が20.6%で最も多く、次いで「農林水産業(自営)」である。

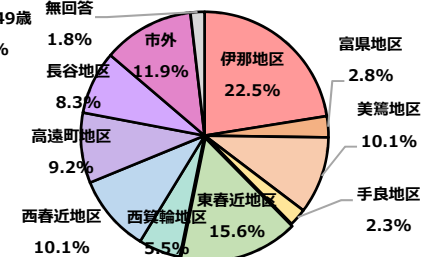
地域住民アンケートから見えてきた現状

【属性】

【年齢】	回答数	構成比
15歳～22歳	1	0.5%
23歳～29歳	6	2.8%
30歳～39歳	10	4.6%
40歳～49歳	16	7.3%
50歳～59歳	25	11.5%
60歳～69歳	47	21.6%
70歳～79歳	87	39.9%
80歳以上	22	10.1%
無回答	4	1.8%
計	218	100.0%

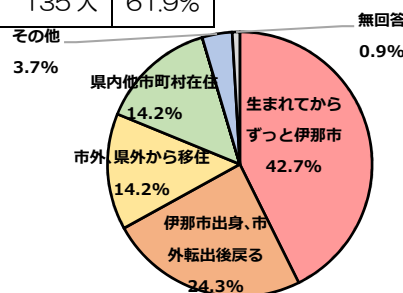


【居住地区】	回答数	構成比
伊那地区	49	22.5%
富県地区	6	2.8%
美郷地区	22	10.1%
手良地区	5	2.3%
東春近地区	34	15.6%
西箕輪地区	12	5.5%
西春近地区	22	10.1%
高遠町地区	20	9.2%
長谷地区	18	8.3%
市外	26	11.9%
無回答	4	1.8%
計	218	100.0%



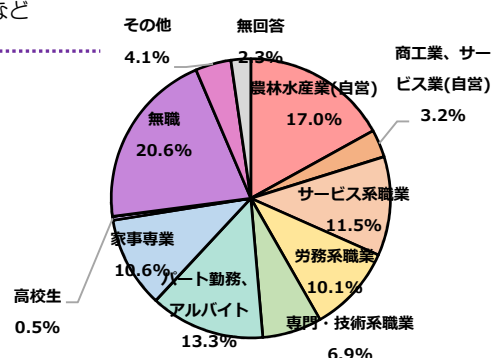
※約70%を60歳以上の年代が占める。

※歴史シンポジウムのテーマが、東春近にある老松場古墳群であったため、東春近地区の回答者が多い。市外回答者の多くは、シンポジウムに参加した長野県内の市町村教育委員会職員。



※42.7%が「生まれてからずっと伊那市に住んでいる」と回答しており、次いで「市内出身で、市外に転居した後に戻ってきた」となっている。回答者の7割近くが伊那市出身者という結果であった。

【居住期間】	回答数	構成比
生まれてからずっと伊那市	93	42.7%
伊那市出身、市外転出後戻る	53	24.3%
市外、県外から移住	31	14.2%
県内他市町村在住	31	14.2%
県外在住	0	0.0%
その他	8	3.7%
無回答	2	0.9%
計	218	100.0%

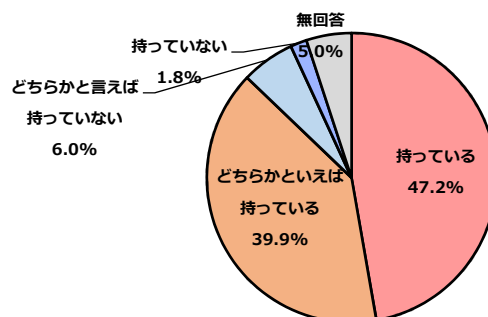


【職業】	回答数	構成比
農林水産業(自営)	37	17.0%
商工業、サービス業(自営)	7	3.2%
サービス系職業	25	11.5%
労務系職業	22	10.1%
専門・技術系職業	15	6.9%
パート勤務、アルバイト	29	13.3%
家事専業	23	10.6%
高校生	1	0.5%
学生	0	0.0%
無職	45	20.6%
その他	9	4.1%
無回答	5	2.3%
計	218	100.0%

【文化財について】

① 伊那市に愛着や誇りをもっていますか。

回答	回答数	構成比
持っている	103	47.2%
どちらかといえば持っている	87	39.9%
どちらかといえば持っていない	13	6.0%
持っていない	4	1.8%
無回答	11	5.0%
計	218	100.0%



※87%の人が、伊那市に愛着を「持っている」または「どちらかといえば持っている」と回答している。

② ①で「持っている」又は「どちらかといえば持っている」と答えた方で、愛着や誇りを持っている理由は何ですか。（複数回答可）

回答	回答数	構成比	回答率
長年住んでいるから	122	32.6%	64.2%
親類や友人が多いから	50	13.4%	26.3%
商業施設が充実しているから	7	1.9%	3.7%
働く場所があるから	18	4.8%	9.5%
子育てがしやすいから	9	2.4%	4.7%
交通の便がいいから	5	1.3%	2.6%
景色が好きだから	96	25.7%	50.5%
食べ物がおいしいから	18	4.8%	9.5%
史跡等の観光地が多いから	33	8.8%	17.4%
その他	9	2.4%	4.7%
無回答	7	1.9%	3.7%
計	374	100.0%	

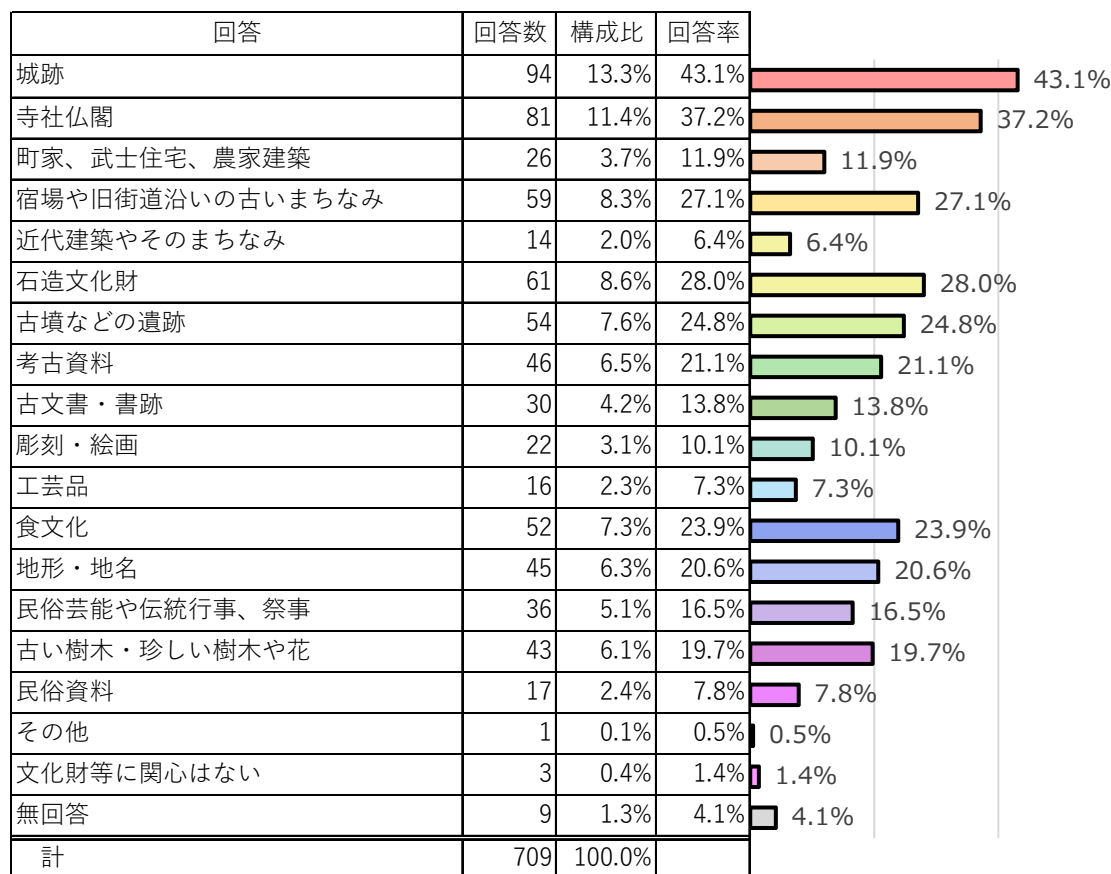
※半数を超える人が、「長年住んでいるから」、「景色が好きだから」と回答している。「史跡等の観光地が多いから」と答えた人は 17.4%であった。

③ 「伊那市らしい」とイメージする歴史や文化（その周辺環境も含む）とは何か教えてください。（複数回答可）

回答	回答数	構成比	回答率
高遠城跡	153	20.9%	70.2%
歴史的建造物	60	8.2%	27.5%
伊那中心市街地の看板建築のまちなみ	20	2.7%	9.2%
石造文化財	66	9.0%	30.3%
古墳などの遺跡	36	4.9%	16.5%
考古資料	28	3.8%	12.8%
民俗芸能や伝統行事、祭事	32	4.4%	14.7%
食文化	80	10.9%	36.7%
南アルプスや中央アルプスなどの山岳資源	130	17.7%	59.6%
天竜川や三峰川などの河川	74	10.1%	33.9%
中央構造線の路頭や周辺のジオサイト	38	5.2%	17.4%
その他	4	0.5%	1.8%
無回答	12	1.6%	5.5%
計	733	100.0%	

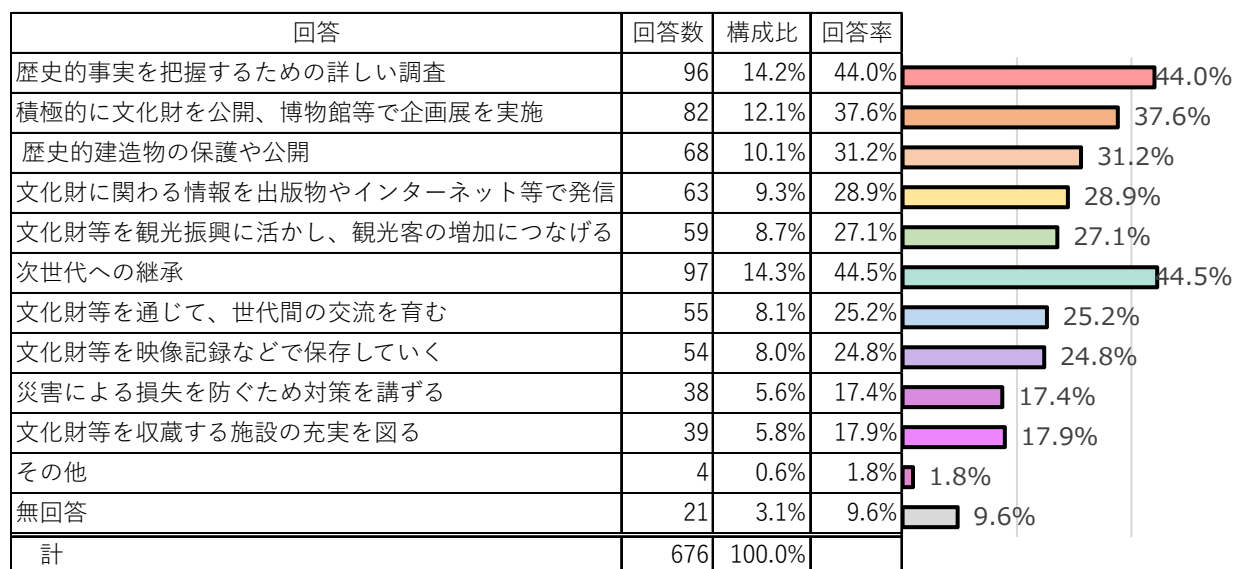
※桜の名所でもある「高遠城跡」が割を超え、次いで約6割が「南アルプスや中央アルプスなどの山岳資源」と回答。「石造文化財」、「食文化」、「天竜川や三峰川などの河川」も3割を超え、複数の項目で伊那市らしさを感じている人が多い。

④ どのような文化財に興味や関心がありますか。（複数回答可）



※「城跡」が一番多く、次いで「寺社仏閣」となった。「古いまちなみ」や「石造文化財」、「古墳などの遺跡」への関心も高い。

⑤ 文化財を保存・活用する取組の重点は、どこに置くべきだと思いますか。（複数回答可）



※「次世代への継承」、「歴史的事実を把握するための詳しい調査」、「積極的に文化財を公開・企画展の実施」を重点とが多くなっている。近年、火災による文化財の消失などがあるが、「災害による損失を防ぐための対策を講ずる」と答えた人は2割弱にとどまっている。

⑥ 文化財等に関する活動で、現在関わっていることは何ですか。（複数回答可）

回答	回答数	構成比	回答率
博物館等の展示観覧、講座や祭りなどへの参加	92	30.6%	42.2%
講座やイベント、祭りなどの企画・運営	26	8.6%	11.9%
文化財周辺の環境整備等、保全活動への参加	38	12.6%	17.4%
情報発信の協力（SNS、紙面投稿等）	9	3.0%	4.1%
文化財等の寄贈	3	1.0%	1.4%
文化財案内ガイド	7	2.3%	3.2%
昔がたり、伝承	4	1.3%	1.8%
民具等の製作指導	1	0.3%	0.5%
調査活動、整理作業等への参加	20	6.6%	9.2%
郷土芸能の指導	2	0.7%	0.9%
その他	6	2.0%	2.8%
何にも関わっていない	63	20.9%	28.9%
無回答	30	10.0%	13.8%
計	301	100.0%	

※「博物館等の展示観覧、講座や祭りなどへの参加」が圧倒的に多い結果となった。講座等には参加しやすいが、その他の活動は専門的な知識が求められることも多いため、少ないのではないかと考えられる。「何も関わっていない」と回答した人も3割近くいた。

⑦ 文化財等に関する活動で、今後関わられることは何ですか。（複数回答可）

回答	回答数	構成比	回答率
博物館等の展示観覧、講座や祭りなどへの参加	124	35.4%	56.9%
講座やイベント、祭りなどの企画・運営	30	8.6%	13.8%
文化財周辺の環境整備等、保全活動への参加	56	16.0%	25.7%
情報発信の協力（SNS、紙面投稿等）	19	5.4%	8.7%
文化財等の寄贈	2	0.6%	0.9%
文化財案内ガイド	13	3.7%	6.0%
昔がたり、伝承	6	1.7%	2.8%
民具等の製作指導	2	0.6%	0.9%
調査活動、整理作業等への参加	40	11.4%	18.3%
郷土芸能の指導	1	0.3%	0.5%
その他	1	0.3%	0.5%
関わることではない	23	6.6%	10.6%
無回答	33	9.4%	15.1%
計	350	100.0%	

※前項目の「現在関わっていること」の結果と比較し、ほぼすべての項目で、今までは関わっていないが今後関わりたい人がいることがわかる。一方で、「関わることではない」「無回答」としている人が合わせて約25%となっている。

文化財に関する意見

- ・中・高生を含む市民が、文化財の調査に参加できる機会を設けてほしい。（70歳代・東春近地区）
- ・若い人たちにも興味を持ってもらえるよう、発信方法を柔軟にしてほしい。情報を整理して、アクセスしやすくしてほしい。（30歳代・伊那地区）
- ・足元の現在の文化財の表示板の見直しが必要ではないか。（70歳代・高遠町地区）
- ・あまりにも保護体制が貧弱ではないか。（80歳以上・伊那地区）
- ・古墳の詳細な調査を継続して歴史的な評価を定めていくことが重要かと思います。（50歳代・市外）
- ・遺跡や土器などをたくさん見られるように、展示を増やしてほしい。草刈りなどお手伝いできることは行いたいので、実施することの情報を出してほしい。また、文化財が何があるのか、ホームページを整理して公開してほしい。（駐車場なども含めて）（50歳代・東春近地区）
- ・伊那市の著名な文化財読本の作成（特に人物編、伝承、建築物他）（80歳以上・長谷地区）
- ・もっと伊那市の文化財をアピールしてもいいと思います。（40歳代・伊那地区）
- ・文化財のデジタル化・アーカイブ化を進め、より広い人々が文化財を活用することができるようにすべきだと思います。また、文化財に興味をより持ってもらうために、博物館などでは、アクティブラーニングのような体験型の講座を増やし、大人も子供も楽しめるようにすると良いと思います。（20歳代・市外）
- ・地域活動への援助を明確にしてほしい。なかなか無償では参加を呼び込めない。（70歳代・西箕輪）
- ・文化財保護活動（建物・古文書等の受入れ）を行っていることを、広く市民に知ってもらうことが大切だと思います。（50歳代・美鷲地区）

※文化財の保存や後世に残すこと、情報発信について複数の方から意見をいただきました。

8 伊那市の民話・伝説・伝承

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
狐林（こりん）	伊那(竜西)	山寺
高尾町「中ノ原」の台地の東先端部に、「コリン(狐林)」と呼ばれる森がある。漢字から「きつねばやし」と言われることもある。この地には戦国時代、武士の館があった。この時の城主は伊那部氏の旗下、林式部の林次郎と伝えられている。やがて武士をやめて土着したという。伊那部氏(新左衛門重親)は春日城を本拠地とし、武田信玄の伊那攻略に反旗を翻し、弘治2年(1556年)礪(はりつけ)にされた上伊那の地侍8人の一人だと伝えられている。		
昌玄坂（しょうげんざか）	伊那(竜西)	山寺
坂の上の中村伯先の屋敷「坎水園(かんすいえん)」に通う人々のために造られた道である。昌玄は俳号を伯先と称し、「信濃に伯先あるを知れ」とまで言われ、地元の山寺にも門弟が何人もいた。白山社に扁額が残る。この昌玄坂の下に、有名な句碑が2つある。「みにしみて 大根からし 秋の風 はせを翁(芭蕉) 享和元年、伯先建立」と「三尺の 雪の上照る 月夜哉 伯先(昌玄)」である。		
艶三郎の井（つやさぶろうのい）	伊那(竜西)	荒井
天竜川の西の段丘上は昔から大変、水に苦労したところで、明治時代、神子柴艶三郎は何とかここに水を引こうと長い年月、地下水を探し出そうと努めた。試し堀りをしながらわずかも流れる地下水を探し続け、その甲斐あって幾つもの地下水を探し出すと横井戸を通じて地下水を集め、一気にわき上がる井戸を作り上げた。井戸からわき上がる豊かな水は、広い水田が開かれる基になった。		
尾花下（おばなした）	伊那(竜西)	西町
春日城址東側向かいの高台に春日城の外郭がある。この土地は今から50～60年前までは「尾花ヶ崎」という地名で、桜の名所で尾根筋に平の部分があり、春日公園で花見ができる以前は付近の花見の名所であった。尾花ヶ先は南北朝時代、宗良親王が桜花に感嘆され「散らぬ間に立ち帰るべき道ならば都のつとに花も折らまし」と詠まれたとの伝承がある。又、江戸時代後期の民俗学者菅江真澄が伊那部宿に逗留した際「尾花ヶ先は桜の名所であり県の御司が毎年訪れるところである」という一語を残している。尾花は動物の尻尾のようなススキの穂のことであり、ここの地形が尻尾のような形をしていたことからついた説と、ここの土地がススキの原であったことから付いた地名ではないかとの2つの説がある。		
義民金兵衛の伝説 (ぎみんきんべえのでんせつ)	伊那(竜西)	小沢
寛政2年(1790年)4月21日、小沢村の百姓金兵衛(唐沢)は老中松平定信に農民は重税のため難儀をしているから減税のご心配を願いたいと、駕籠訴(かごそ)をしたが、内藤徳丸ほか役人の手に引き渡されて吟味されたとの古記録がある。		
月見の松・月見石（つきみのまつ・つきみいし）	伊那(竜西)	小沢
小沢の古城の丘の一隅に松の老樹があった。高さ9m余、途中二枝に分かれ、枝の周りは4m、その枝は20mに広がった。普光庵に住んだ善勇法師はこの老松に月見の松と命名した。七右衛門知賢は嘉永4年(1851年)にこの松を絵にして京都に上がり、上覧して高松季実卿から「名にしおう 一木の松の 影にこそ 空行く月も 澄みまさるらめ」の歌をいただき、石に刻んで松のほとりに立てた。さらに知賢は神名沢から月影のある天然石を引いてきてそのそばに据え、月見石と唱えた。辞世の句として「ちり雲の かかる思いは なけれども 桂の里の 月石を見て」、桂の里はこの丘の近所の名である。この来歴ある月見の松も年を経て、大正の初め頃、落雷のために惜しくも枯れ果ててしまった。		
櫃岩（ひついわ）	伊那(竜西)	平沢
平沢区日向の傾斜地、蝮平にある奇岩で、寛文10年(1670年)の箕輪領と高遠領の境界争いで樹を置いた言い伝えのある石。形がお櫃のようなので櫃岩と呼ばれ、櫃岩下とはその岩より下の土地を呼ぶ。櫃岩は浸食により大岩の下の大岩の下の礫が残りキノコのような形となった奇岩で、急な斜面の中腹にある。今も浸食が進んでいる。		
小僧ヶ池（こぞうがいけ）	伊那(竜西)	横山
ある日、山寺の和尚さんは一人の賢そうな可愛い小僧さんを伴ってきた。小僧さんは和尚さんの教えに精進し、近くの池から水をくみ、まきを拾い、まめまめしく働き、里へお使いや巡錫もするようになり、里人達は山寺の小僧さんと言って可愛がった。ある年の月のきれいな夜、池へ水をくみに行った小僧さんは月の光で池に写った自分の姿におかあさんの面影を見て、思わずおかあさんと呼び、遠い悲しい日のことを思い浮かべた。ふと我にかえり水をくもうとした時、足をすべらせ、満々と水を湛えた播(すり)鉢状の池に落ちてしまった。小僧さんは帰ってこなかった。和尚さんも里人たちも泣き悲しんだ。その後、だれ言うことなく小僧が池と呼ばれるようになった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
子安の池の由来（こやすのいけのゆらい）	伊那(竜西)	横山
天文年間(1532 年～1555 年)更科より、民部少輔(しょうゆう)重吉が沢女に従って伊那に落ち延びた時、横山に来て夜になり帰れなくなり木地師の家に泊めてもらった。懐妊していた沢女が急に産気付いたので、重吉が明神の池の水をくんできて飲ませたところ、男の子を安産し、源太夫と名付けた。源太夫が3歳になるまでに母親は病となり亡くなった。亡骸は杉の沢の丘陵に葬り、重吉は源太夫を連れて京都に移った。15 歳になり母の菩提を訪ねて再び横山の地に来たある夜、春日明神が現われ「お前が今まで成長したのはこの明神の加護によるものである。」といい西の空に消え去った。これにより女性が懐妊した時は、底無しの柄杓(ひしゃく)12 個を神前に捧げ、子安の池の水を飲めば必ず安産する、これが古来よりの慣例となった。		
亡僧塔の伝説（ぼうそうとうのでんせつ）	伊那(竜西)	横山
伊那市西町の春日神社境内の拝殿近くの老松の中に、塔身 90 cmの花崗岩の亡像塔が立っている。その昔、西山の地(寺社平)にあって、霊前に雨乞いをするとき必ず干天に慈雨を降らせ、この塔を動かせば雨が降ると言われた。かつて西山の地(寺社平)へ護法山常圓寺を創設された徳高き高僧を敬い偲んで、後年里人達が小僧が池のほとりに小黒川の花崗岩で霊塔を建立したものだと言われている。西伊那村の農民たちは干天に悩むとき、幾度も雨乞いをし、移し奉って、長い年月のうちに春日神社境内まで移し奉られたと言われている。		
天竜川氾濫に関する狂歌 (てんりゅうがわはんらんにかんするきょうか)	伊那(竜西) 伊那(竜東)	山寺・荒井・西町・中央・狐島
「ふるぎつね 山寺下を海にして あら恐ろしや いま出て見れば」という狂歌がある。「ふるぎつね」とは古町村と狐島村の百姓たちのことである。山寺下とは戸谷川、中溝川が合流している御舞瀬村一帯の低地のことで、当時、山寺村に属していた。「あら恐ろしや」の「あら」は荒井村のことである。「いま出て」とは段丘上にある伊那部宿のことで、天竜川の満水を高見する場所、すなわち西町村である。氾濫する天竜川をはさんで、古町村、狐島村、山寺村、荒井村、西町村の5か村が、川筋や堤防づくりや洪水の原因を争うさまを巧みに呼んだ狂歌である。		
甲子塔・厄除け石（きのえとう・やくよけいし）	伊那(竜東)	日影
「きのえ様」と呼ばれ甲子の夜に集まり、大黒天(大黒様)に米や作物の収穫を祝う。「厄除けの石」、男 25 歳・42 歳、女 19 歳・33 歳の厄年に、茶碗に米・もち・お菓子・小銭を入れ、夜遅くなってからこの石に投げつけて割り、走って逃げ帰る。厄が付いて来るので決して振り返ってはいけない。田んぼの神様とも言われている。60 年ごとに建立される。		
犬房丸伝説（いぬぼうまるでんせつ）	伊那(竜東)	狐島
建久4年(1193 年)源頼朝の家臣、工藤祐経(犬房丸の父)は、曾我兄弟により父の仇討として殺された。犬房丸は捕らえられた曾我兄弟の弟を鉄扇で打ち据え、狐島に配流された。狐島に居住し、その後「なぜかずに犬房丸のなきあとも おろがみまつれこの荒神を」との一首を残し、西春近小出に移住し、この地で一生を終えた。常輪寺に墓がある。		
北山禅師の墓（ほくさんぜんじのはか）	伊那(竜東)	狐島
寛文8年(1668 年)に生まれ、元文6年(1741 年)に 73 歳で没した北山禅師は、旅の僧で、正徳・享保の頃、狐島の庚申堂に住みつき、住民と優しく接して尊敬を集めた。最後の時、生きながら穴へ入り「鉦の音が消えるまで竹の筒を通して酒を注ぎ入れてくれ」と申し、即身成仏された。戒名は北山一星大禅師と記されている。		
見通し桜（みとおしざくら）	伊那(竜東)	狐島
江戸時代から明治初期までは堤防も完備せず、天竜川は洪水のたびに川筋が変わった。そのため、現在の荒井・西町と狐島の村界もその都度分からなくなり、争いを避けるため、両岸に造られた塚や桜の木を目標に、両方の境界を復元した。その起点の一つとして狐島側に見通し桜、対岸の西町区に伯先桜があると伝えられる。		
蓮台場（れんだいば）	伊那(竜東)	狐島
戦国時代、武田氏は度々信濃へ攻めてきたので、信濃の諸豪族は城を堅固にしたり、新たな城を築いたりして備えていた。しかし、天文 14 年(1545 年)、武田晴信(後の信玄)は高遠城を攻め落とした。武田にとって、この上伊那地域は三河、京都方面へ進出するための重要な地域であったため、木曾を支配する木曾義昌に娘を嫁がせ武田の味方にした。これにより伊那の地侍は木曾義昌への遺恨を高めた。そこで信玄が川中島の戦いで主力を善光寺平へ向けている最中に伊那衆は木曾義昌を攻撃した。これを聞いた信玄は大いに怒り、上杉軍との戦いを中断して急遽、伊那を攻め、木曾義昌に反抗した8人の伊那衆、伊那部氏、殿島氏、溝口氏、黒河内氏、松島氏、宮田氏、小田切氏、上穂氏を捕らえ、全員を弘治2年(1556 年)に狐島の蓮台場で処刑し、晒(さら)し首にした。この仕打ちを悲しんだ黒河内の人々が闇夜に乗り、命がけて八勇士の首を蓮台場から黒河内へ持ち帰り、密かに埋葬して勇士の霊を弔った。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
供養ヶ塚の標木の伝説 (くようがつかのしるべきのでんせつ)	伊那(竜東)	上新田
標木は、黒木、ヒバ等の常緑樹で、夏の緑の中でも冬でも黒く見え、暑さにも寒さにも強く、よく目立つので、目印にされた。黒く目立つ供養塚の檜の大木を標木として三峰川の河原を渡る際、一歩河原に踏み入れば、柳の疎林、風に波打つ葦の原、細い小道がくねくね、石がゴロゴロ。一歩道を間違えれば平らな草原と思いきや、踏み込んだ途端に深い淵。水にもがき、やっこのことと縦横に走る葦の蔓などの間から頭だけ出ても蔓にとられ体は動かない。やっとやっと岸に這(は)い上がったも着物はびっしょり寒い風、周りには人家なし。山犬が、ここぞとばかり脹ら脛(ふくらはぎ)に食らいつく。山犬に痛めつけられた行路死人が数あったと聞く。供養塚は一里塚的なものであり、行路死人の埋葬地であったり、また、地域の人たちの恐れの間でもあり、聖地であり、念仏塔等も見られた。		
四郎半佐伝説 (しろはんさでんせつ)	伊那(竜東)	上新田
四郎半佐とは、いかなる人物か、何処(どこ)から来た人か、何代、何年くらい住んでいたか全く分からない。元禄3年(1690 年)の検地の時の記録にも、それらしき名前は見当たらず、四郎半佐は、一人の名前か、四郎と半佐の二人なのか、これも両方の言い伝えがある…。また体格は、小さな人ではなかったかと思われる。四郎半佐の馬乗り石というのが、今も残っていることから想像される。割地と言われる地域は、四郎半佐の所有地であったが、四郎半佐が突然居なくなったので(理由は不明)その土地を当時の区民にて分割したものであるとのこと。分割は、幾度かに行われた。区の古文書目録の中に「四郎半佐の土地分割について」という箇所が2か所あった。古田から南は向川原までの三峰川河川敷全部とみられ、この面積は、上新田の土地のほぼ半分に相当する。		
橋守とでえもち縄の伝説 (はしもりとでえもちなわ(だいちなわ)のでんせつ)	伊那(竜東)	上新田
昔、上新田にでえもち(だいち)縄というものがあつたと聞いていた。蚕具置き場を捜してみると、3本撚(ひね)りの太さ6～7 cm、長さ5間(約 10m)くらいのわら縄が出てきた。 古町の商店衆の要請で、春近・新山・伊那村方面の買い物客を呼び込むために古町区と上新田区が協定し、上新田区が橋守をして区費の足しにした。三峰川は度々増水し、そのたび橋は流されたが、流失しないようにでえもち縄で繋(つな)いだ。でえもち縄は、金わらでも切れて流失する時があつた。でえもち縄をなう時は、芯男。その手元3人、わらとり3人、手番6人、雑役 12 人と上村・下村で始めれば、村中総出の仕事だった。それも、昭和4年(1929 年)12 月7日、今の竜東橋が開通するまでの話である。		
河原田島について殿島村との境争い (かわらだじまについて とのじまむらとのさかいあらそい)	伊那(竜東)	下新田
高遠の殿様が鳥居氏になった時、下新田村が一村として認められたという。寛永3年(1626 年)、上新田村には河原田島という枝村があつたと記録にある。寛永 13 年(1636 年)、洪水が起き、下新田と河原田島の間に三峰川が流れるようになり、枝村の河原田島は当時の殿島村側になってしまった。その後も洪水が起こり、三峰川が北寄りに寄つた。そこで下新田村と殿島村の間で境についてしばしば争いが起きた。下新田と殿島の境は、鳥居氏の代に古川跡を見立てて、双方立ち合いで境を決めた。元禄の検地においても三峰川南に河原田島は下新田村となつていとある。この争いは4年後に双方和解し、境が決められたが、その後も三峰川は北に移り続け、河原田島住民は孤立し、不便になつたので、明治9年(1876 年)に双方の話し合いで下新田から分離して上殿島村に属することになり、示談書が交わされた。		
般若島 (はんにはやじま)	伊那(竜東)	下新田
集落の坤(こん)に当たる、下新田の南方、三峰川の下流に至る河原に、般若島と称する平地あり。往古より洪水ありというも、今に此の地の流出したるを見ず。この所以(ゆえん)を尋ねるに、今を去る事 250 余年前、寛永元年慶芳院不源と言ふ者あり、大峰山行者にしてこの地に堂宇を構へたり。然るに正保4年(1647 年)5月大洪水の時節、将に流れんとするに当り、般若経を転読して、其を免るる事を得たり。故を以て般若島と名づくと言ふ。		
十蔵坊の墓 (じゅうぞうぼうのはか)	伊那(竜東)	野底
旧市坂の上部の山林の中に小高い塚があり、石塔が建立されている。十蔵坊の墓と言われており、即身仏になつたとの話も伝えられているが、真偽は不明である。塚の直径 5.5m、高さ 1.0m、紡錘形石塔、高さ 55 cm、最大径 23 cm、蓮台の径 35 cm、高さ 10 cm。刻字は判読できず。		
とっこ地藏 (とっこじぞう)	富県	上新山
上新山と手にあるお堂に祀られた本尊の地藏菩薩座像をとっこ地藏という。由緒、伝説によると、「とっこ」をお地藏様として祀り信じたところ子どもの病気等は治り、霊験あらたかれとそれを伝え聞き参詣者も多かった時代が続いた。また御詣する人たちはお地藏様の身に付けているものを一品借りてきてそれを子どもに着せ。病気が治れば倍にしてお礼参りするということも信仰心をそそる事となつた。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
高鳥谷山のヤマドリの伝説 (たかずやさんのやまどりのでんせつ)	富 県	北 新
むかし、高鳥谷山のふもとの北林に井上掃部という人が住んでいた。掃部は新山の谷川を上って狩りに出かけたが、イノシシを追っているうちに道に迷ってしまった。そのうえ大雨に遭い、三日三晩も岩陰に閉じこめられた。ようやく雨は止んだが、家のある方向が分からず、食べ物もなくなり、途方にふていていたが、猿田彦の神様におすがりしようと思った。猿田彦は天狗のようなかっこうをしているが、道案内の神様で、掃部が熱心に猿田彦を拝むと、目の前のやぶにヤマドリが一羽舞い降りてきた。掃部は急に狩人の欲がわいてきて、弓に矢をつがえたが、ヤマドリはすぐに飛び立って向こうの木の枝に止まった。掃部が近づくとまた飛んで、掃部はまるでヤマドリにからかわれているように、山を越え、谷を下っていく。やがて見覚えのある谷川の丸木橋まで来たとき、ヤマドリの姿は消えた。掃部の家はすぐ近くだった。無事にわが家に帰った掃部は、さっそく高鳥谷山の頂に小さな祠(ほこら)を作って、猿田彦の神様を祀ったという。		
一夜の城 (いちやのじょう)	富 県	桜井・貝沼
戦国時代、高遠城の武田軍を攻めた織田軍は貝沼原に一夜の城を築き、陣を敷いた。今もその城跡が「一夜の城」として残っているが、この時、織田軍は一夜の城を築くために百姓から鍬(くわ)などの農具を借りたが、きちんと洗って返したという話が残っている。大将の織田信忠(信長の長男)は近くの高い山に登って高遠城の様子を探ったあと、高遠城の仁科五郎信盛宛に降服の手紙を書いて僧に持たせて高遠城に向かわせた。降服を進める手紙を見た信盛は「戦って武田武士の意地を見せる」といって使いの僧の両耳をそぎ落として追いつ返した。 次の日、高遠城において壮絶な戦いが行われた。		
サンヨリヨリ	富 県	桜 井
桜井区(旧天伯様)と、三峰川対岸の美簗上川手区・下川手区(旧天伯様の七タ祭り)で、毎年8月7日に行われる。2つの天伯社の由来は、約 580 年前の室町時代、応永 34 年(1427 年)藤沢片倉の天伯様が大洪水で押し流され、桜井村に流れ着いた。再び洪水で流され、対岸の川手村に落ち着いた。これを縁として桜井・川手両村で天伯様をお祀りしたのが始まり。「さんよりこより」とは洪水を起こす疫病神を叩き潰(つぶ)す神事で、その掛け声から由来している。		
天神様 (てんじんさま)	富 県	桜井・貝沼ほか
天神様は菅原道真を祭神としたもので、学問の神として今も子ども達に愛がめられている。昔は3月の学期末の休みにお祭りが行われ、子ども達は朝からお宮の庭に集まり、小学校高等科の生徒が中心になって、ショヨギなどの木で舞台をつくり読書や算術などをして奉納した。昭和初期は軍国的な時代だったので、子ども達は一日紅白に分かれての戦争ごっこに夢中で食事もおぼろげなほどであった。今では5月5日の子どもの日に小学生が天神様にお参りをし、会所に集まり、父母を呼んで歌を歌ったり寸劇を行ったりする。昔は貝沼では子どもの家に祠を運んで祭りをしたというし、また子ども達がお礼をつくって各戸に配るところもある。		
伝兵衛井筋(鞠ヶ鼻井筋) (でんべいすじ(まりがはないすじ))	富 県	桜井ほか
杉島村(現在の長谷杉島)の名主伊東伝兵衛は若い頃から数学や創作発明などが大得意で、その才能を活かして高遠藩の測量の仕事にも従事した。その仕事の中でかつて三峰川から富県に引いてきた井筋の再開発を榛原、原新田、富県の人たちが強く望んでいることを知り、私財2千両を投じて取り組むことにした。天保3年(1832 年)、工事に掛かり、幾度となく困難に出会ったが、その都度粘り強く乗り越えた。難所だった鞠ヶ鼻(約 1.1 km)も掘りぬき、1年半かかって井筋を完成させた。井筋の距離は約4里(約 9.916m)、秋になると開かれた 240 町歩(240ha)の田に稲穂が頭を垂れるようになった。人々はこの伝兵衛の偉業を讃え、この井筋を「伝兵衛井筋」あるいは「伝兵衛井」と呼ぶようになった。伝兵衛が関わり長い年月をかけて築かれた井筋は長谷や高遠や美簗にもある。伝兵衛井筋は現在も水を満々とたたえ、富県、東春近の大地を潤している。		
ほんだれ様 (ほんだれさま)	富 県	桜井ほか
もともと紙が貴重であった頃、花に見せかけた飾り物「削掛(けずりかけ)」であった。柳など木肌が柔らかで白い木を短く切り、その中程まで皮を削って正月の飾り物・幣(ぬさ)として豊作を祈ったという。その後いろいろと形を変え、現在では、ショヨギ・ミズブサ・ジシャなどの木を玄関横に置いた新しい薪(まき)束に差ししたり、玄関においた石臼に差し、枝に繭(まゆ)玉や四角に切った餅をわらみごや竹のささらにつけて稲穂として飾り、ほんだれ様といっている。またこの小さなものを神棚や鴨居にも飾る。貝沼では、松の内が過ぎると門松・しめ縄・古いだるまなどを子ども達が道祖神に持ち寄り飾りつけている。貝沼では郵便局前の道祖神の所に、どんど焼きの前に正月の飾り物が子ども達の手で集められる。これと一緒に毎年飾りつけられ、どんど焼きの後各戸に配られる。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
ミシャグウジ (みしゃぐうじ)	富 県	桜井ほか
ミシャグジ(御尺地)さま。御社宮司、ミシャグジ(御尺地)、ミシャグウジ、社宮司、シャグジ、宮司ともいう。この信仰を統括するのは、諏訪大社上社の神長官守矢氏である。敗れた先住民守矢(洩矢)一族は大祝(現人神)として建御名方・海神族をいただいたものの、神長官としてその後も実権を握り続けた。ミシャグウジはオシャグウジまたはシャグウジ、オサグウジなどといろいろな呼び方がされ、小さな祠(ほこら)、または地名となって残っている。ミシャグウジは今からおよそ 4,500 年前の縄文時代中期の頃、八ヶ岳山麓と諏訪湖の周辺に住んでいた守矢族という先住民たちが信じた神様である。ミシャグウジを生殖の神としてあがめ、男性のシンボルや女性の性器を純粋な気持ちで、ご神体として崇拝していた。今でも、ミシャグウジ様は 農耕を助けてくださる神、安産の子宝を恵んでくださる神、子どもを守ってくださる神、腰から下の病気を治してくださる神として愛されている。上伊那郡では 105 社、伊那市では貝沼、ふるさと館横の埋橋氏のミシャグジ(御尺地)様はじめ、35 か所以上になる。貝沼にはもう1つ御殿場遺跡の山側に小さな祠がある。「石神さま」と呼ばれ、現在は個人で管理されている。小さな祠の中には石棒が2体祀られている。		
真菰が池伝説 (まこもがいけでんせつ)	富 県	貝 沼
貝沼にまこもが池という池があった。この池に2羽のおし鳥が飛んできて、それを見た重久は鉄砲で雄鳥の首を撃ち切った。その後、日暮れ時になると若い女が重久の館の門まで来て歌を詠むようになった。重久は一生懸命その姿を見ようとしたが、一向にその姿を見ることができなかった。若い女が詠う歌は「桜井の 名もうらめしき 甲斐沼の まこもが池に 残るおもかげ」だった。ほどなくしてまた池に雌鳥が来たので、重久は再び鉄砲を持ち出して撃ち取った。するとその雌鳥の羽の下から、撃ち取った雄鳥の首が出てきた。重久は日暮れになると門の所で「桜井の名もうらめしき……」と詠われたのは自分のことかと悟った。そして「残るおもかげ」とはまこもが池に夫のおもかげがあるといううらみの歌か。それとも知らず撃ってしまったわが思慮の浅きことと嘆き悲しみ自分を責めた。やがて、重久は刀を放り投げ、髪を切っておし鳥の死骸に添えて屋敷内に葬り、そこにひろの木を植えると、出家、仏心の初めとして諸国への旅へと出発した。(このほかに貸椀伝説から始まる話もある。)		
おさんの座禅石 (おさんのざぜんいし)	富 県	北福地
金鳳寺の庭先に「おさんの座禅石」と呼ばれる、60～70 cm四方の石がある。那須野於三、上原於三ともいう女性で、江戸時代の中頃、桃沢かめ、河野清と共に「伊那の三女」と謳(うた)われた才媛であった。学殖深く、和歌の道に堪能だったことは、この3人によって編まれた『源氏三枕』を見ても知ることができる。おさんは宝永2年(1705 年)七久保村(現飯島町)の農、那須野家に生まれ、長じて夫を迎え一男一女をもうけたが、34 歳で死別して寡婦となった。金鳳寺に残っている「了円法尼行状記」によると、良人の死に遭って悲観にくれていた折、金鳳寺の住職に鉄丈道樹禅師という名智識のあるのを聞いて訪ね、庭前の石に跏坐すること7日7夜、遂に悟りの境に至ったという。 「野も山もひともわが身も鶏の声何が残りに聞くといふらん」 この石が座禅石で、以来おさんは道樹禅師を師と仰ぎ、しばしばその許に参じて教えを聞いたものと思われる。		
大蛇ケ入の伝説 (おじゃがいりのでんせつ)	富 県	北福地
北荒井の大蛇ケ入(おじゃがいり)溜池を含む洞周辺は、昭和 30 年代の絵図面には「大繁」と書かれていたという。「おおいげり」から「おいじげり」、「おじゃがいり」に転訛したと思われる。 むかし、山の堤に大蛇が住みついていてとうわさがあり、村人たちは恐ろしくて山に近付けなかった。ある年の秋、寄り合いで大蛇を退治することに決めた。農具を武器として、激闘の末、大蛇を退治した。大蛇の血で、堤の水は真っ赤に染まり、晴れていた空はみるみる黒い雲に覆われ、たちまち大嵐になった。やがて堤は決壊し、荒井の田や畑を一気に流した。それからは稲穂が実る季節になると、毎年嵐に見舞われるようになった。村人は、大蛇が堤の守り神だったことに気づき、祈りを捧げた。この堤の下一帯を「荒れる田甫(たんぽ)」＝「荒井田」といい、再び荒れた田んぼにならないように役員を決めて、堤を守っている。		
西光寺の黄金伝説 (さいこうじのおうごんでんせつ)	富 県	北福地
戦国の頃、北福地根本谷から中新山へ越す西光寺峠の中腹に、西光寺という小寺院があり、この寺には往古より幾千万の財宝があり、その所在は本尊の胎内に紙片に記して隠してあるという。その文句は「梨の木を三歩下りて五歩より夕日輝き朝日さす」云々と伝えている。		
ちんばさの神様の伝説 (ちんばさのかみさまのでんせつ)	富 県	北福地
むかし東山道の時代、北福地の御牧に任せている牛馬を、時折都から役人が見届けに来るならわしがあった。ある見届けの折、娘にせがまれて役人は娘を同伴することにしたが、運悪く娘が途中で足を挫(くじ)いてしまった。付き人がいろいろ手を尽くしたが、なかなか快方に向かわず、たまたま差し掛った「てまて」の村で、村人から地元の山すそに祈願先があることを耳にし、わらにもすがる思いでお祈りしたところ、無事に回復した。その事がうわさとなって広がり、地元でも「ちんばさの神様」として一躍有名になり、お参りに訪れる人が増えたという。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
根本谷白衣観音縁起 (ねぎやびやくえかんのんえんぎ)	富 県	北福地
御堂寄附簿には、「この観音様は除厄山白衣観世音菩薩という神様で、彫刻した仏師も創立の年代もつまびらかでないが、明治27年(1894年)、御堂の新改築に当たり、近郷近在の厚い信仰により絵馬の角天井を組み、当時としては驚異的な千人もの人が集まり、落慶法要を営んだ。」とある。		
鳩石 (はといし)	富 県	北福地
北福地羽場山寺(やまんでら、天台宗赤穂光前寺の末寺)の庭池には、真ん中に大きな岩があつて、その上には鳩の形をした石がある。この石を「はと石」と言い、いつでも北を向いている。ほかの方向に向きかえても、自然と北向きに戻るので、昔から中沢と高遠の間の七不思議の一つ。		
ほうげの伝説 (ほうげのでんせつ)	富 県	北福地
「ほうげ」は、「放解」、「方見」、「峠」とも書く。三津木会所の近く、市道の一番高い辺り。東春近との境。国牧(御牧)の馬を放牧する場所だからの説が有力。この近くで「三ツ木遺跡」が発見され、古墳もあつた。この「ほうげ」が東春近と富県の村境。昔むかし、富県と東春近の村境がはっきりしていないのが問題になり、次の方法で決めることに両方の村で一致した。「明日の朝、双方の村長(むらおさ)の家に朝日が射したら村長は出発し、相手の方に向けて歩き出す。双方が出会った所を村境にする。」と。その結果、出会ったのがほうげの坂の頂上で、村境が決まったそう。		
仏さまとあんころもちの伝説 (ほとけさまとあんころもちのでんせつ)	富 県	北福地
山寺に小僧と和尚さんが2人でいた。ある日、和尚さんが遠い所へおとむらいにいった留守に、近所の檀家のおばさまが、お重に入つたあんころもちを持ってきて、「仏さまにあげておくれ」といって置いて帰つた。小僧はお重の蓋(ふた)をとって見ているうちに、食べたくなつてみんな食つてしまった。「このままでおけば、和尚さんがかえってから叱られる」と思い、からのお重を仏様に供えて、こぼれた「あんこ」を仏様の口ばたに塗りつけておいた。晩方に和尚さんがかえつて、仏様に空のお重が供えてあるのを見て、小僧を呼んで「お前、もらつたあんころもちを食つちまつたな」と言うと、小僧は「食やしないよ、仏様が食べたんだ。ごらん、仏様の口ばたにあんこがついてるじゃないか」と言つた。和尚さんが「嘘をつくな。お前が食つてしまつて、あんこを仏様の口ばたへ塗つておいつら」と言うと小僧は、「嘘じゃないよ、仏様を叩(たた)けば白状するよ」といって、棒で叩くと、金仏様から「くわーん、くわーん」と鳴つた。和尚さんが「それ見ろ、仏様が、食わん、食わんと言つてるじゃねえか」と言うと、小僧は「叩いては駄目なんだ。煮ると白状するよ」といって、大きな鍋に水をいっぱい入れて、仏様も入れて、どんどん火を焚(た)いた。そのうちにお湯がわいて「くたくた、くたくた」煮えてきたそう。すると小僧が、「それごらん、仏様が食つた食つた食つたと言つてるよ」と言つた。		
味噌薬師 (みそやくし)	富 県	北福地
根羽集落にあるこの薬師堂は、今から300年ほど前の建立で、本尊は薬師如来である。この本尊は、人々の災害を救い、難病を治すほかは特に味噌薬師として名高く、遠く下伊那や松本辺りからも参拝者が来たという。万延元年(1860年)10月末不幸にも火災に遭い堂宇を全焼したが、直ちに再建に取り掛かる費用もなく信徒一同が苦しんでいた。たまたま信徒150戸の味噌の味が急に悪くなった。本尊様を安置する堂を焼けたままで過ごしてきたに違いないと気づき、薬師堂再建の議を起し、遠く松本や飯田まで篤志を集め、文久元年再建した。毎年この火災に遭つた10月19日を縁日と定め、金鳳寺住職も来て盛大な仏事を行った。毎春味噌を作る季節になると、遠近の信者が家で作つた味噌を持って祈禱を受け、その出来栄への安全を祈念し、薬師堂のお水を分けていただいたり、お守り札をもらい、自宅の味噌樽や味噌蔵に貼つて祈念したという。この「お水」をくむ井戸は寺の庭先辰巳の方向の茂みの中にあつて、手の切れるような湧水が噴出し、薬師如来の靈験と共に味噌の出来栄を安全にするに欠くことのできない靈水とされていた。		
龍の足あと (りゅうのあしあと)	富 県	北福地
金鳳寺の橋は、大きな一枚石で、幅2m、長さ3mくらいある。鳥の足あとのようなものがものが幾つかあり、竜の足あとといっている。		
春日辰之助の伝説 (かすがたつのすけのでんせつ)	美 篤	芦 沢
武田信玄に逆らい狐島で首をはねられた伊那八人衆の中の一人、春日城主の子、春日辰之助(当時3歳)は家臣倉田治部と春日城から落ち延び、川手に潜み、その後芦沢に来てこの城跡に住んだという。その後、高遠藩の鳥居氏奉行大沢六太夫が高遠防衛上重要な場所としてここに屋敷を構えた。場内の北に春日家、南に大沢家が住んでいた。この春日家は元禄検地の時の芦沢の庄屋である。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
天神山の戦いの伝説 (てんじんやまのたたかいのでんせつ)	美 篤	芦 沢
天神山夜襲ともいう。『高遠治乱記』に戦いの話が載っている。永正年中(1504年～1520年)、美篤は諏訪氏の勢力範囲だった。美篤の天神山城主だった諏訪信定は諏訪の騒乱鎮定のため兵を送っていたため、居城天神山は手薄であった。その隙(すき)をねらって高遠一撰衆の貝沼、春日両氏は天神山夜襲の計画を立てた。その事をいち早く探知した保科氏は、天神山城に残っていた諏訪信定に知らせた。信定は兵が少ないため、隙を見て天神山包囲を破り笠原山経由で諏訪へ逃げた。その後、諏訪から兵を連れて戻り、春日氏、貝沼氏を討ちその領地を保科氏に与えたという。		
般若島 (はんにやじま)	美 篤	芦 沢
狭い除(よ)けから三峰川が開けた河原に出る場所の岸辺。この場所に芦沢の真福寺は三峰川の氾濫を治めるため、お経の巻物を祈った後埋めた。そのため般若島という。各地に水害を防ぐためにお経を埋めた伝説がある。芦沢の般若島の開発は、元禄3年(1690年)砂畑6畝、耕作者12人と増し、120年後の文化7年(1810年)に砂畑4反3畝のほかに河原田・砂田計4反3畝が記入され、耕作者も45人と増加している。芦沢溝は般若島より三峰川の水を取り入れ、芦沢・南割の中河原・布袋原・散在野・夏焼等をうるおして、末は大島溝へ合流する。この面積は14町余であるとあり、美篤の河原を潤す大切な水を取り入れたところである。		
まないた畑の戦い (まないたばたのたたかい)	美 篤	芦 沢
鉾持除けの戦いともいう。芦沢と高遠との境の山の頂上付近の平らな尾根。鉾持棧道ができる前には高遠に行くためにはここを通り尾根の峠を越えた。天正13年(1585年)松本の小笠原氏が高遠城の保科氏を攻めようと迫ったとき、高遠城主保科正直は家康の命により上田城攻めに参加したため、高遠城には少数の兵しか残っていなかった。そのすきについて小笠原貞慶3,000、上杉の援軍2,000の合計5,000で高遠城を奪おうと攻めてきた。小笠原本陣を最初は六道原、その後芦沢に置いたと言われていた。(絵図では芦沢権現沢または庖神沢の左にいたように見える。)城の兵は少なかったが、留守を預かっていた保科正直の父、保科正俊は弾正と言われた勇猛果敢な武將で小笠原勢を芦沢よけの難所の尾根の上「俎板畑」付近で戦い打ち破ったと言われている。これが俎板畑の戦いと呼ばれている。		
笠原平五の伝説 (かさはらへいごのでんせつ)	美 篤	笠 原
笠原平五は、天神山に居館(天神山城とも、安多志野城とも)を構えていたと言われる。治承4年(1180年)、以仁王(もちひとおう)が挙兵し、宇治平等院で戦いとなったが、平五は平家方の武士として参戦し、大きな手柄を立てたと言われる。その後、伊那に戻った平五は信濃国で挙兵した木曾義仲と、市原で戦った。また、源頼朝は甲斐の源氏に、信濃の平氏を打つように命じた。平氏と源氏は大田切で戦った。源氏方が勝利したという。その後、平五は北信濃でも戦ったが敗れ去った。平家物語には「笠原平五は木曾義仲と戦ったが、志を遂げることができず、これも運の極みと出羽の国に落ちていった」とある。笠原の山梨ごりん林の宝篋印塔は平五の墓だと言われている。		
山なし (やまなし)	美 篤	笠 原
山なしと云ふ村あり、月見里と書いて山なしと読む、此辺のうちには東南の方山なく、いかにも月を賞翫(しょうがん)すべき地なり一日市場、辻村、月見の里皆笠原の里なり。「月なれや実山なしの名付親 万竹」「寄そわん山なき里の月丸し 里水」。今でも村祭りには風雅を好んで灯笼等に耕地名として「月見里」と書き「やまなし」と読ませている。月を賞するにはいかにも格好な所であるが「月無」の地名があるから面白い。		
阿陀志野原・六道原 (あだしのはら・ろくどうはら)	美 篤	中 県・下 県・上川手・下川手
千余年前には笠原御牧のあった場所で、広大な原野だった。中世、戦場になったこともあったというが詳細は分かっていない。原野の先の天神山が阿陀志野山と言われていたので、このように言われたのだろう。この原野は現在、六道原とも呼ばれているが、平安時代、後白河天皇が、平清盛に命じ全国6か所の辻(森)を作らせ、六道地藏尊を祀らせたという。その1つが六道の森と言われている。新しい仏が、松の新梢についているとされているので、8月6日の地藏尊の祭りに近在の新盆の家では六道の森に出かけ、松の小枝をいただき、自分の家に連れて戻る。川手の人たちがその祭りを守っている。		
濡星様・濡干様 (ぬればしさま)	美 篤	下 県・上川手
その昔、大雨が降り三峰川が大荒れになった。流れは、対岸の桜井の平岩にぶち当たり、またたく間に水流を変えて、大島の一部から川手一帯にかけて氾濫した。この洪水のとき、上流から一体の御神体が流れてきてここに留まったので干し乾かして下県と上川手の境(上川手八塚)に祀った。丁寧に干し上げたので濡星様という呼称が生まれたともいわれている。三峰川沿岸の人々にとって川との戦いは、永い間必死の問題であった、水を制御するには昔の人達は神に頼むほか方法がなかった。濡干神社も洪水除(よ)けのために応仁元年、矢塚に諏訪明神の精霊を勧進した。その後、2地区に分祀し、下県は羽場先に祀った。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
山伏塚の伝説（やまぶしづかのでんせつ）	美 篤	上川手
昔、美濃から来た玄長という山伏がこの地で殺害され、崇(た)ったのでその霊を祀った所と言われている。山伏とは山岳の神を念じ修業し山岳信仰を目標とし、神仏混合した原始宗教の様なもので、各地を渡り歩きお祓(はら)いをする修験者であるが、姿を変えた落ち武者や、脱村者であったかもしれない。この場所は古くから、神聖な場所として田の神の斎場であり常の日には近寄ってはいけない所とされた区域が、いつか恐ろしい所、崇(た)たりが有る所として伝えられてきたものであろう。現在は区画整理や道路の拡張により取り壊され、均(なら)されてしまったが、ある古老の話によると「あの場所に確かに土を丸く盛った所があったことを覚えている」という。その周辺が山伏塚と言われている。		
サンヨリコヨリ	美 篤	上川手・下川手
昔の川手村の祭事である。現在は8月7日にする。6日の六道祭の晩に宵祭をし、7日の当日は宮司、係が集まって(上川手と下川手年番交代)祝詞をあげてお祭りをし、本殿の前に安置されたお神輿(みこし)に宮司が幣束を移納する。両川手の子ども達は、五色の短冊に、天の川、天伯社、棚機様、などと書いたのを枝つきの青竹に結びつけてその飾りをついで、揚々と集まって来る。区長の合図で、子ども達は青竹の飾りをついで広場に大きく輪を作ると、その中に2人の男が股引法被で菅笠をかぶり、太鼓を持ち込んでしゃがみ、合図で太鼓を打ちながら、円陣の子ども達は元気な声を張りあげて「サンヨリコヨリ」と連続叫びつつ回る。3回回ると輪の中の男2人が激しく太鼓を乱打して、円陣の囲みを破って逃げ出す。子ども達は竹の飾りで激しく鬼男をたたく。繰り返すこと3回で終わり。青竹の飾りは全部踏み折ってしまう。これが済むと宮司、区長が先頭でお神輿、その台、五色の幟 15 本を、両川手より選出した各係が神酒を立ち飲みしながら、行列を作り三峰川に至り、行列整然と渡河する様は真に神々しい限りである。行列が川原を過ぎ桜井の丘に上って村内に休むと、氏子が迎えに出てお神輿の下を3回くぐる。これは体が丈夫になり、女は安産ができると信ずるからである。かくて桜井の天伯社において川手より渡御した人々が桜井の天伯社において同様の「サンヨリコヨリ」を繰り返し、お神酒(直会)を済ませて、行列を作って戻って来る。直会をして一同退散する。ちなみに元禄以後三峰川の氾濫は 60 回以上におよぶというが、どんな大出水のときでも神輿渡御の行列が押し流されたり、事故があったことのないのも不思議と言われている。		
愛宕山の霊験伝説 (あたごやまのれいけんのでんせつ)	美 篤	下川手
愛宕山の祭神はもともと雷神と言われるが霊験あらたかで、堂の前を馬に乗ったまま通ると必ず不吉があるとわれ、誰もこの前を通る時には馬から降りて拜んで通ったという。産婦が乳が出なかつたりすると、白い布に年齢と干支(えと)を書いて供え、お経を上げてもらおうと不思議に乳が出るようになるという。また境内にある機地蔵尊は、機を織り終わると、その織口を切り取って地蔵様にかけて、次の機も首尾よく織れるようにと祈った。		
理鏡坊の伝説（りきょうぼうのでんせつ）	美 篤	青 島
元禄 15 年(1602 年)、赤穂浪士事件の時の吉良家の家僕である。生き延びて理鏡を名乗り、死者の冥福を祈った。諸国巡礼の後、羽広仲仙寺で 20 年間修業の後、青島の円通庵観音堂で晩年を過ごし没する。理鏡坊は赤穂浪士討ち入りの時、家僕として吉良家にいて、急を知らせようと堀に上った所を赤穂浪士に尻を切りつけられ、大けがをした。後に出家し、犠牲者の冥福を祈りながら諸国巡礼をした。法名を理鏡といい、最後の 20 年間は美篤の青島で過ごした。理鏡坊はいまわの際に身分を明かし「村中で腰から下の病で悩む人がいれば、自分の墓前に参りなさい。必ず治してあげる」と言い残し、亡くなった。青島の人は残された遺品を整理し、それをもとに田を買い、観音免とし、災害や飢きんの時に使われた。		
和尚さんに化けた貉の伝説 (おしょうさんにばけたむじなのでんせつ)	手 良	中 坪
あるとき米垣外に駕籠(かご)に乗った和尚さんがやってきた。犬を嫌う和尚さんで宿泊してご飯を食べたり、お風呂に入るときは屏風を立てさせて中を見せなかったという。ある時、不思議に思った主が節穴からのぞくとそこに貉(むじな)がいて、尻尾でお湯をたたきながら風呂に入っていたという。貉の和尚さんは小柿が大好きで、重箱に入れて出してやると大喜びで食べたり、書を頼むと「南山寿云々…」と書いたという。		
門松を立てない伝承・風習 (かどまつをたてないでんしょう・ふうしゅう)	手 良	中 坪
境の城は内城ともいい、北側、東側は鐘付川によってできた断崖があり、西側は自然の急斜面、南側に二段の郭があったという。三方が断崖に守られた平山式城館で、古式な形態の城館といえる。古書によると城主一族は三河から来たという。伝承に「正月門松の陰に隠れていた盗賊に城主が殺されたので以来、城に関係する人は門松を立てなくなった」とあり、今では風習となり、固く守られているという。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
清水庵（きよみずあん）	手良	中坪
米垣外にある曹洞宗の尼僧庵。本尊は秘仏で、十一面千手観世音菩薩であるとされるが、聖観世音菩薩であるとも言われる。天正 10 年(1582 年)に織田信忠の兵火に遭い、堂宇などを烏有(うゆう)に帰したが、本尊はかろうじて助かった。菩薩みずから飛脱としたという言い伝えがある。本尊は京都清水寺、播磨国清水寺の本尊とともに同一の木から彫刻した尊像のひとつと伝えられている。この寺が創建された年代は明らかでない。伝説によると、この本尊を造った仏師が東国へ来た時、みずからこの地に寺を建てたという。『神社仏閣記』には、平城天皇大同年中、坂上田村麻呂が東国征伐の時、この寺を開いたと記してある。また寺伝によると、一夜、京都から本尊が東方に飛来し、古清水の地に止まったという。その後、尼寺となって尼庵主を置くようになった。格子天井の絵画、坂本天山の賛による文麗公の書、白鳥白駒の観世音の掛け軸、それに井上井月の書いた大きな句額はいずれも貴重なものである。		
埋蔵金伝説（まいぞうきんでんせつ）	手良	中坪
米垣外に埋蔵金の隠し場所の手掛かりが伝えられている。「朝日射さず、ミツパウツギの下に金一千両、漆十貫がある」という。		
ワランベ山の伝説 (わらんべやまのでんせつ)	手良	中坪
天保4年(1833 年)からの飢きんでは疫病もはやり、中坪村では 40 人の死者が出たとある。そこで村の人たちはその死体をワランベ山に葬った。すると以来、ワランベ山からの流水を飲むと腹を病むとされ、その沢を地獄沢と呼ぶようになったという話が伝わっている。		
東松（あぜまつ）	手良	野口
天正 10 年(1582 年)3 月高遠城主仁科五郎盛信は、織田軍の攻略によって戦死する。落城の際、盛信の妻は上州(群馬県)に逃れ 10 数年間その地で過ごしたが、慶長年間に信州に戻り、東松に住むようになった。その際、携えてきた「松」をその地に植え「東松」と呼ぶようになった。「東松」の呼称については、姫が東(上州)から持ってきて植えた松から最初は「アヅママツ」と呼び、そこから「アヅマツ」にさらに今日の呼称「アゼマツ」に転化したという。		
金色の鶏の伝説 (きんいろのとりのでんせつ)	手良	野口
野口の出口に岩があり、この岩の所へ時々金色の鶏が来るが、普段は全く鳴かない。世の中に変わりごとがある時にだけ鳴いて知らせるとされ、この鳥の鳴き声を聞いた者は金持ちになって裕福な暮らしができるという。これは古書『路原拾葉(ふきはらしゅうよう)』にも残されている。		
真菰が池の鴛鴦伝説 (まこもがいけのおしどりでんせつ)	手良	野口
東光寺本尊は薬師如来であるが、その胎内に鴛鴦(おしどり)の首が納められているという。その由来に関して次のような記述がある。 武田の有力武将であった櫻井重久は、武田家滅亡後伊那の富県に来て貝沼重久と名を改めた。天正 12 年(1584 年)の日のこと、彼が真菰が池に遊ぶ鴛鴦を弓で射たところ、雄鳥に命中し首を射切った。数日後、一人の女が重久の家の門の所に来て「櫻井の名も恨めしき貝沼の真菰が池に残る俤(おもかげ)」という歌を詠んだ。この女は度々重久の家に来るのだから、姿を見ることができなかった。重久は不思議に思って調べたがわからず、その歌の意味も理解できなかった。そして一年が過ぎた頃、かの池で今度は鴛鴦の雌鳥を射取った。ところがこの雌鳥をよく見ると、羽の下に前年射た雄鳥の首を抱えていたのである。重久はこれを見て大いに驚き、昨年来わが家を訪れた女はこの鴛鴦の雌鳥であったことに気づいた。そしてその時の歌は、自分の無情な行動に対する恨みの歌であることに気づいた。鳥類とはいえ、夫婦の情の深さに思い至らず思慮の浅かったことを重久は悔いた。すぐさま髪を切り、鴛鴦の死骸を添えて東光寺に葬るとともに諸国を廻り、天正 15 年(1587 年)に野口蟹澤の要助という者の内庵において同年2月死去した。		
長者稲荷（ちょうじゃいなり）	手良	下手良
その昔この近くに小太郎と呼ばれた人が福島村にかけて広い屋敷を構えていた。人々はここを長者屋敷と呼んだ。小太郎は文武の道を修めた人で、近郷の人々がここで武道を学んだという。また彼の屋敷に祝殿として稲荷の祠があり、開運、出世の神として参拝するものが多かった。そんなことからこの稲荷は「長者稲荷」と人々から呼ばれた。その後小太郎の行方が知れなくなり、この稲荷は下手良村の村民が管理することになったという。天文5年(1536 年)には箕輪城主藤沢頼親が参詣に訪れ、「長者稲荷大明神」の額を奉納したとも言われ、かつては社殿もあった。近年、鳥居が建てられた。この周りの石を家に置くと、ネズミが近づかないという言い伝えがある。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
平石（ひでし）	手良	下手良
堀之内から狸台に至る古道の中間辺りに、地域の人たちが「ひでし」または「ひれいし」と呼ぶ大きな平たい石がある。これは「平大石」がなまったものと言われている。道から 200m くらい入ったところに、石の大きさは長さが 2.2m、幅が 2.3m で石の表面には、大小 10 前後の浅いくぼみがある。そのくぼみは建御名方命がここで狩りをした時、足でつけた印だと言われている。そして「立寄れば 深き蔭をも 平石の 面を照らしぬ 秋の世の月」という歌を詠んだという。 平石についてはほかに、昔この地に巨人が住み、その手や足、顔、乳、へそなどを石に押しつけたから穴ができたとか、巨人が子どもを背負って西山からこの石に飛び降りたのでできたという話がある。 また、この平石のすぐ東になだらかな塚があり、萬霊塔とネズミサシの老木が立っている。この木を切ると血が出ると言われ、枝を折るだけでも罰が当たると恐れられてきた。		
狸台（まみだい）	手良	下手良
日本武尊が東征の折ここに立ち寄り、高台にあって東征軍や土地の人々と「まみえた（謁見した）」ことからこの名がつけられたとの伝説がある。		
お寺の小僧と狐の伝説 (おてらのこぞうときつねのでんせつ)	手良	ハツ手
むかし、和尚さんが、小僧と二人で山の奥の淋しいお寺にいた。ある日、和尚さんは遠くの村へおとむらいに行くことになり、小僧に、裏の山に悪い狐がといるから化かされないようにと言って出ていった。小僧は一人になって、山の悪い狐をだましてつかまようと思い、山の奥へ行き、そして狐のいそうな所へ行って、「和尚さあん、和尚さあん」と大きな声でよんだ。山の中では悪い狐が、お寺のごちそうを食べてやろうと思い、和尚さんに化けて出ていった。小僧は、狐の和尚を馬に乗せ、手も足もぎりぎりに縛って、鞍(くら)に結わえつけ、鞍を馬にしっかり結わえつけた。お寺が見える所まで来ると、もう和尚の姿でいられず、元の狐の姿にかえって、逃げようとしたが逃げられなかった。馬がお寺の庭につくと、もう帰っていた和尚が障子をあけて見て、びっくりして狐をつかまえてきたのかと言った。小僧が訳を話しているうちも、狐は鳴いてはねくるので、和尚さんもかわいそうになり、山から出て来て悪いことをしてはいけな、悪いことをすると殺して皮をはいでしまおうと言ってきかせて放してやった。それから狐は山から出てこず、いたずらをしなくなった。		
鏡石（かがみいし）	手良	ハツ手
水無山ハイキングコースの道端にある。直径1m くらいの岩で表面にくっきりと手鏡の形が現れている。鈴木左治兵衛という男が石を割ったところ岩面に鏡の形が現れたという。		
ハツ手のいぼ石（やつでのいぼいし）	手良	ハツ手
松尾神社の上にある両子入の川べりにいぼ石はある。表面にいぼ状の小粒の石がたくさんついている。いぼ石は善人が触ればいぼは石に移って取れると言われた。「いぼいぼ移れ」と唄いながらいぼ石をなぜた。中坪では山椒の木に移したという話も伝わっている。		
夫婦木の伝説（みょうとぎのでんせつ）	東春近	車屋
六軒屋の上に、花四手(俗にみやま)の二本木が根本で合わさっているのがある。これを夫婦木と呼んで縁結びの福とあがめ、相思の者が祈願すればかなうといわれ、詣(もう)でる人が多かった。伝えによると、公卿の落人が来て亡くなったのでここに埋め、墓標に二本の木を植えたところ、成長するに従って根本で合したのだと。大正年間、集落の財産整理で木に斧(おの)を入れたところ、この木を切った人は皆、妻に先立たれり、娘に死なれたり、不幸に遭ったといわれている。		
堂洞の若い僧の伝説 (どうほらのわかいそうのでんせつ)	東春近	中組
昔、西春近で疫病がはやり、いつ、天竜川を渡り殿島にやってくるか、住民は恐れおののいていた。そこへ深妙寺日仙上人の若い弟子が渡ってきて法華経を説き、病魔追放の祈願をし、人心を鎮めた。すると疫病は殿島に入らず、治まり1人の犠牲者も出なかった。人々は感謝し、若い僧のために洞にお堂を建てた。お堂は日々、盛況になり詣(もう)でる人が多くなった。しかし、ある年、雨風の強い夜、お堂に火災が起こった。若い僧は身を挺して消火に努めたが、すっかりお堂は燃えてしまった。若い僧は大変なやけどを負い、それがもとで多くの人たちが見守る中、亡くなった。嘆き悲しんだ信者たちはそこに石碑を立て、野良仕事の行き帰りに冥福を祈った。それ以降この洞を堂洞と呼ぶようになった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
二十二夜様（にじゅうにやさま）	東春近	中組
古来、月に対する信仰、祈願として旧暦7月 22 日と毎年祭りは不確定で概ね8月中、下旬に老松場で行われた。月の出に祈願を込めることが主であるため、月の出を待つ間、酒さかなを持ち寄り区民歓談の場とした。月が出ると祭りも終わりとなる。月の出を待つので「お立ち待ち」とも言われた。二十二夜の祈願の1つに安産成就の祈りがあり、身内、身寄りに妊婦のある家では二十二夜灯に献灯されたローソクを頂いて帰り「産気付いたときそのローソクを灯せば燃え尽きるまでに出産が終わる」といわれ、安産であるとの言い伝えである。そこでなるべく短いローソクを頂いて帰ることが良しとされていた。そして、翌年新しいローソクをお礼まいりに返した。		
殿島猿の伝説（とのじまざるのでんせつ）	東春近	渡場
信州伊那郡殿島の百姓が猿の親子を飼っていた。ある時、夫は野に出て、妻は洗濯をするために灰汁(あく)を焼熱灰と一緒に桶(おけ)へ入れておいたところ、小猿が桶をのぞき込み、熱湯の中へ落ちて死んでしまった。親猿は悲しんだが、夫婦はどうすることもできなかった。親猿は鍋ふたを持って来て、「ふたをしておけばよかったものを」という仕草をした。夫は哀れに思い山に帰るように言った。親猿は小猿の死骸を抱いて殿島河原へ行き、橋の中ほどから子猿を抱いて身を投げて死んでしまった。それを聞いた村人で涙を流さなかった人はいなかったという。		
護国寺の地藏様（ごこくじのじざうさま）	東春近	中殿島
東春近中殿島の護国寺にある脇立地藏様は、もと駒ヶ岳のふもとの地藏平にあった。寛文の頃、高遠の殿様はその地藏様をどうしても高遠城へ移そうと思った。そこで家来たちはその地藏様を高遠に向かって運び始めた。しかし、どうしたことが宮狭間まで運んで来たところで急に動かなくなってしまった。家来たちが力を合わせ動かそうとするが、磐石のごとく重くなってどうしても動かなくなってしまった。そこで致し方なく、殿様に願い出て近くの寺に安置することになった。現在、護国寺にある恵心僧都の御作と称せられる脇立地藏尊がその地藏様までであるといわれている。		
お蝶様の伝説（おちょうさまのでんせつ）	東春近	下殿島
洞のお蝶様で鳴く鈴虫は、他所の鈴虫に比べ、ことのほか音色が優れているという。長姫神社縁起に次のような話がある。文政6年(1823 年)頃、京都御所に仕えていた公卿御正統に、長姫さまという姫が生まれた。姫は時の人から、邪魔に思われていたため、一門の人々の計らいで、東国のある縁者の者の元へ送ることになった。姫は、おちゃふという乳母を伴い、文政 12 年(1829 年)に東国へと旅立った。中山道を下ったが、辛酸をなめつくす旅となった。ようやくたどりついたのがこの洞の里であった。姫は旅路の疲れに種々の病が併発した。おちゃふは姫の慰みにと、鈴虫を小さなかごに入れて持ってきて清く美しい鳴声を聞かせてみたが、姫はほほ笑む力まで失ってしまっていた。とうとう霜月の8日の朝方になると、息も、脈も細々しくなり、姫は7歳で朝の霜ともろともにこの世を去ってしまった。おちゃふは、姫が亡くなってから 11 日目の 11 月 19 日の明け方、24 歳で自ら命を絶った。生前、おちゃふは「私が死んだら私の形を刻んで姫に添えてほしい。そうすれば子ども衆の病気も末永く見てあげる事が出来るから。」と言っており、これを知っていた亀丸は、おちゃふの姿を描いて石に刻み、碑を建てた。これが今も残るおちゃふの碑である。2人の死後1か月経って、1人の六部がこの里を訪ねて来た。2人がここで亡くなった事を知ると、お堂の屋根下に寝て、時々2人の墓にお参りする姿が見られたが、六部は翌年の文政 13 年(1830 年)2月5日、絶食の末、死んでしまった。里人は相談し、六部を共同墓地に葬ったという。		
膳椀淵（ぜんわんぶち）	東春近	田原
昔、田原薬師堂前に大きな岩場があり、天竜川が大きな淵をなしていた。ここに大きななまずが住んでいた。お客があつて膳や椀が入用な時はこの淵にきて頼むと貸してくれたが、きちんと返さないものがあつてからは貸してくれなくなったという。膳椀淵には岩盤の大きな露頭があり、その岩肌には川の流れによってできたと思われるいく筋もの大きな条痕がある。山すそに向かっての条痕で、そのような方向に向かって天竜川が流れていた時代があつたと思うと驚く。		
村境の伝説（むらさかいのでんせつ）	東春近	原新田
昔から東春近と富県の境について争いが絶えなかった。それを心配した長老が解決案を出した。それは朝、お日様が山の上に顔を出した時、それぞれの村を出発し、行き合ったところを境にしようというものだった。約束の日、それぞれ村を出発し、2つの村の衆が行き合ったのが原新田だった。ちょっぴり境が富県村に食い込んだように見えるのは、東春近の方が少し早くお日様が顔を出したからだと村人がうわさしたという。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
大泉川の水の伝説 (おいずみがわのみずのでんせつ)	西箕輪	大泉新田
西山に源を発し、村のほぼ中央を流れる大泉川の水は、途中でいったん地下にもぐり、下流でまたわき出して天竜川に注ぐ。この不思議な大泉川にまつわる話がある。 昔々、長い日照りが続き、大泉川の水がすっかり涸(か)れ、困り果てた村人は諏訪明神と八幡社と、熊野権現にお願いした。三社の神様は何とか助けてやろうと大泉所(おいずみどころ)まで行くことにしたが、約束の日、諏訪の神様だけは姿を見せず、二社の神様は谷深く分け入り、わずかな水を集めて大泉川に流した。するとその水は大泉に近づくと川底にしみこみ、殿村で再びしみだした。大泉の人は嘆き悲しみ、神様を恨む人さえ現れた。大泉の村人は、村に水を引いてくることにして、水路を決め毎日、毎日堀り続け、とうとう村に水が来た。ところがある年、大雨で水路が跡形もなく消え、村人は領主に助力を願い出た。領主は箕輪領 26 か村の協力を約束し、再び水路が出来上がり、水が村を潤した。領主の命令で榊(ます)を作り、みんなで分け合ったが、飲水にもこと欠く人々の水争いが絶えなかった。その後のある日照りの年、諏訪明神に雨乞いの大願をするとなちまちその願いがなかった。最初に大泉所まで水集めに行かなかった諏訪明神の恵みの雨だった。そのお礼で始まった「お鹿祭り(おしまつり)」は今も盛大に行われている。		
加集奎之助と大泉新田の伝説 (かしゅうもくのすけとおおいずみしんでんのでんせつ)	西箕輪	大泉新田
江戸時代の初め、脇坂淡路守安元が飯田藩主になり箕輪領を領有すると、木下陣屋の代官に加集奎之助(かしゅうもくのすけ)を命じ、盛んに新田開発をさせるようになった。加集奎之助は、陣屋で召し使っていた大泉村の農民たちに暇を出したとき、その者たちのために場所を見立てて新田を開墾させた。開墾者 8 人は、開墾と新村づくりに尽力したが、土質が悪い上に水の確保が困難で、畑作中心にならざるを得なかった。その上、作物は鹿や猪に食い荒らされ、収穫がほとんどない状況だったので、8 人は開墾の断念を申し出した。すると開墾の苦しさを理解した加集奎之助は「諸役御赦免」の書状を出し、年貢、諸役を免除し、開墾専心を支えた。この加集奎之助の助力に大泉新田の人々は感謝し、再び開墾に励み、とうとう実り豊かな新田の村を作り上げることに成功した。大泉新田の人たちは、加集奎之助を開墾の恩人として、村の神社の熊野社に加集権現として合祀し、その恩義を今日まで伝えるとともに、時に加集奎之助の子孫を招いてその感謝を伝え続けている。		
金鑄場 (かねーば(かないば・かねえば・かねいば))	西箕輪	羽広
昔から「鉄を鑄造した場所」とか「仲仙寺の大鐘を鑄(い)た場所」といわれていた。昭和 54 年(1979 年)土地改良事業に先立ち、遺跡の発掘調査が行われ、平安時代の住居跡から鉄滓(てっさい)、吹子(ふいご)、鉄鏝(てつぞく)(鉄のやじり)が大量に出土し、製鉄の跡であることが分かった。当時は簡便な炉を使い、可鍛鑄鉄(ごく簡単に成形できる鉄)を作っていた。鐘鑄場についてはもう一説あり、「仲仙寺縁起」の「仲仙寺の大鐘」について、「江戸時代の初めの頃、村の南の林の中で大鐘を鑄たのでここを鐘鑄場という」とある。ただその大鐘は完成せず、次の年、松本で完成させたようだ。		
黒の城 (くろんじょ)	西箕輪	羽広
蔵鹿山の長洞の峰にある。永禄年中(1558 年～1569 年)武田領の時、のろし台に用いられた。「与力同心等、月番交代にてこれを守り、かつ三河(愛知県)・遠州(静岡県)・尾張(愛知県)で戦いの起こった時は、杣路峠(根羽村)の番兵、月瀬民部の発煙を待って受けついだ」(『わが郷土』)と記されている場所である。また、その松の木に鐘をつるし太鼓もたたいて雨乞いをした所だという。現在そこには天竜川管理事務所の無人観測所があり雨量を測っている。		
蔵麓山 (ぞうろくさん)	西箕輪	羽広
『仲仙寺縁起』の藤原法師の項に「鹿を愛し、この山を鹿養山(養麓山)と言う」との文言が出てくる。蔵鹿山の初期の名前か。また、「昔高遠の殿様が鹿狩りに来て持ち帰れないほどの狩りが出来(栃平という場所は鹿が非常に多くいた)、そしてその鹿を貯蔵して(その場所を殿沢という)おいたので蔵鹿の名前になった」と言われている。		
仲仙寺縁起 (ちゅうせんじえんぎ)	西箕輪	羽広
神亀元年(724 年)行基菩薩というお坊さんが羽広村を通りかかり「ここは観音様を立てるのによいところだ」と村の人たちに伝え、木を植えて立ち去った。その後、百年過ぎた頃、比叡山で修業していた円仁(慈覚大師)というお坊さんが、「信濃国の大護持山へ行行って観音様の像を彫るように」という夢を見、はるばる羽広の里を訪ねた。大師が山に登ると夕方、明るく光る木があり、その木を 7 日間、彫り続けると十一面観音が現れた。大師は大変喜び、その切れ端にお経を書いて山に埋めた。それからその山は経ヶ岳と呼ばれるようになったという。大師は神(じん)護山(ごさん)にこの仏像をお祀りし帰られた。さらに大師の弟子の藤原法師が羽広に来て観音様を本尊とした仲仙寺(初期の名前は藤宝寺)を建てた。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
羽広の獅子舞（はびろのししまい）	西箕輪	羽広
仲仙寺縁起によると、仲仙寺は天文 13 年(1544 年)武田信玄の伊那攻めの兵火にかかり焼かれてしまった。それから半世紀を過ぎた慶長 18 年(1613 年)に飯田城主小笠原秀政の命により再興された。それを喜んだ城主は、伊勢の国(現三重県)で舞われている「太々神楽(だいだいかぐら)の獅子舞」を観音堂で舞わせて天地長久を祈願した。羽広村を2つに分け南割を雄獅子、北割を雌獅子で全部の家で舞う(戸毎舞)ことを命じた。この獅子は観世音の狛犬(こまいぬ)とされているので、2頭の獅子で舞う「舞い合わせ」が正規の舞とされていて全国的にも珍しい舞だといわれている。		
でえもんじ	西箕輪	上戸
大文字(だいまんじ)ともいう。毎年小正月の 14 日早朝(現在は5時から)上戸の作業所の横、道祖神や庚申の碑が集結する地区の中心にある辻に建てられる。様々な飾り付けを取り付けた、長さおよそ 12mの太竿を青壮年の男衆の手によって建てられる。これは道祖神祭りの1つで、厄除け・魔除け・家内安全・区内安全・五穀豊穡を願うの信仰行事である。この行事がいつから始まったのか定かではないが、信仰は鎌倉時代の末期に松本地方から始まり、伊那谷では上戸が南限だという。辰野町・箕輪町には幾か所の「でえもんじ」があるが飾り付けの様式は上戸と異なっている。		
西山神社(第六天)の由来 (にしまじんじゃ(だいろくでん)のゆらい)	西箕輪	上戸・中条
創建は応永 12 年(1405 年)と縁起にある。明治6年(1872 年)天津(あまつ)神社と改称。大正5年(1916 年)諏訪大明神を合祀して再び改称して西山神社となった。祭神は面足命(おもだるのみこと)と惶根命(かしこねのみこと)で、二神が天神第6番目の神であることから西山第六天と呼ばれた。元和元年(1615 年)大坂夏の陣に小笠原秀政(おがさわらひでまさ)に従って出陣した当村の鈴木源三郎が、大坂城中に祀られた第六天神の金泥の幣帛(へいはく)を持ち帰って奉祀(ほうし)し、天津神社と呼んであがめた。神殿裏には赤ん坊の産毛を和紙に包んで軒下に納め、子どもが健やかに育つ事を祈念した。(産毛が飛ばないように石で重しをしてある。)		
お盆の振り万灯（おぼんのふりまんどう）	西箕輪	中条ほか
送り盆の時、子ども達は麦わらの束に縄を付け、それに火をつけて各家の墓の前で「ふりまんど、ふりまんど」と唱えながらぐるぐる回した。		
山の神・とうかんや（やまのかみ・とうかんや）	西箕輪	中条
戸谷川沿いに山の神橋へ続く坂道を山の神坂といった。以前はその辺りに山の神が祀られていたからで、現在は天神様のところに移されている。山の神では毎年 11 月 10 日に「十日夜(とうかんや)」といって、わらで作ったお皿にお供え物を載せ、スズ竹でこしらえた弓・矢を持って子ども達がお参りした。「とうかんやはいいいものだ。朝は～、昼は～、夜は～」という歌もあったという。		
権兵衛峠（ごんべえとうげ）	西箕輪	与地
昔、伊那と木曽との間には人だけが通う険しい峠道があった。あまりにも険しいのでなべをかついだ人が転倒し、なべが欠けてしまったので「なべかけ峠」と呼ばれた。この峠を馬が通える峠に整備し、米不足の木曽へ伊那の米を運ぼうとしたのが、木曽の檜川村の権兵衛だった。大変な苦労の末、元禄9年(1696 年)、馬が通れる峠道が完成し、木曽に米が運ばれるようになった。人々は権兵衛が開いたので権兵衛峠と呼ぶようになった。		
八坂社と獅子舞（やさかしゃとししまい）	西箕輪	与地
八坂社の祭神は、当初は素戔鳴尊(すさのおのみこと)であったが、いつの時代か天照大神も合祀された。素戔鳴尊は子ども好きであるが暴れ神で、もともとこの二神は姉弟仲がよくない。そのためか、神社の境内で遊ぶ子ども達に怪我(けが)をする者が多いということで、神殿を造営したのをきっかけに、天照大神を別の静かな場所へ移(うつ)した方がよいということになって、文化4年(1807 年)、新たに神明宮を建立した。その建立を請け負った宮大工が木曽の原与惣右エ門で、社の落成祝いの時に漆塗りの雄と雌の獅子頭を献納した。雌雄二頭による獅子舞は村人にも伝えられ、今まで続いてきた。		
与地の伊那節（よちのいなぶし）	西箕輪	与地
古くは「おんたけ」あるいは「おんたけやま」と呼ばれたこの唄が、伊那地方に唄い広められるようになったのは、元禄9年(1696 年)の木曽谷と伊那谷を結ぶ権兵衛峠の改修を契機に、峠を越えて米を木曽へ運んだいわゆる「木曽づけ」の馬おい(馬子)たちの口によってであるとい伝えられている。もともと「おんたけ」の唄は、木曽の御嶽山を間近に望む土地に生まれ育ったものであろうが、権兵衛峠を越える馬子や宿の茶屋女の口によって、いつか中山道筋の流行唄となり、「馬追い」が多く出た、峠のふもととの与地・上戸・羽広などの村々から伊那谷一帯に広がっていったと思われる。いつしか「おんたけやま」が伊那谷の唄になったことは、一般的に次のように唄い出されることでわかる。 ハアー 木曽へ木曽へと つけ出す米は (ハソリヤ) 伊那や (コリヤエ) 高遠の 伊那や高遠の お蔵米 (ソレコイアバヨ) 「おんたけやま」を古くから伝えてきた与地の伊那節の感じは、一般の伊那節よりやや低く、古調の趣を帯びていると言われる。また、その踊りはもともと一人踊りであったが、昭和2年(1927 年)与地伊那節保存会が発足して集团的な踊りになった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
獄門畑（ごくもんばた）	西箕輪	大萱
原忠左衛門に関する裁判沙汰の話。天文5年(1740年)大萱村が庚申供養と称して村の周囲の入会地に塚を築いたことに始まっているという。原忠左衛門は「入会地の切り添えなど大萱だけのことではない。実際に検地すれば各村ともにある」と憤慨し、江戸表まで出向いて訴え出ることとなった。その際、悪人共に2度だまされ、証拠書類を盗まれ、評定の日に証拠品の提出ができず、「忠左衛門、偽り申し立て不届きなり」とされ、延享元年(1744年)の評定で奉行所に於いて獄門打ち首にされた。仕置に掛けられた忠左衛門の首は、獄門畑にて3日2晩獄門に掛けられる(さらし首にされる)約束であったが、最初の晩に妻の手によって降ろされ、密かに葬られたと言い伝えられている。		
坂上田村麻呂と牛馬飼場の伝説 (さかのうえたむらまるとぎゅうばかいばのでんせつ)	西箕輪	大萱
坂上田村麻呂は東征の時この氏族騎馬にて従軍し、大きな手柄を立て、桓武天皇より褒賞を受けた。その馬が飼われていたのがこの台地である。「見ゆる限り牛馬飼場と言われる大牧場だった。牧場は後に藤原氏の領となり富貴原と称せられ多くの牛馬を都に送り…」とされる。ひょっとしたら、馬の守護として知られた羽広観音・仲仙寺に奉納されている絵馬に描かれた馬の戯れる牧場(まきば)は、いにしえの牛馬飼場かもしれない。		
犬房丸伝説（いぬぼうまるでんせつ）	西春近	小出一区
将軍源頼朝は富士のすそ野で大掛かりな巻狩りをした。曾我兄弟はこれを好機と陣内に忍び込み、父の敵、工藤祐経を討った。兄十郎は切死し、第五郎は捕まえられ、頼朝の前に引き出された。すると祐経の子の犬房丸は父が討たれた悲しみのあまり、曾我五郎の顔を扇子で打った。それを見た頼朝は「縛られている者を打つとは武士の法にももとの」と犬房丸を叱責し、伊那の地への流刑を言い渡した。犬房丸は最初、狐島、後に西春近に領地をもらい、西春近小出に移ることになった。それを聞いた狐島の村人はたいそう残念がり、嘆いた。すると犬房丸は、鎌倉から流されてきたとき背負ってきた守り神、木像の荒神様を、自分がいなくなってもこの神様を祀っていれば安心だといって「なぜかずに 犬房丸の なきあとも おろがみまつれ この荒神を」の一首とともに残していったという。西春近小出東方に移った犬房丸は小黒川から水路を引き、原野を開拓し、農業の振興に努めたので村人からたいそう親しまれた。		
妻ノ神（さいのかみ）	西春近	小出一区ほか
上村集落のほぼ真ん中を南北に横断する旧春日街道沿いにこの地名がある。妻ノ神は道祖神と同じ路傍神の一つで塞神、幸神、才神燈も同類。正月の松飾を焼く行事を「セイノカミ」といい、小学生の分担行事だった。「セイノカミの神様はいじのむさい神さまで…」などとはやし立てながらおもちゃを焼いて食べた。現在はほとんど焼きの名称で行われている。		
菖蒲澤の伝説（しょうぶざわのでんせつ）	西春近	小出二区 山本
菖蒲沢にきれいでおいしい水がわいている。飲めば美人になる。「高遠城下にないような おなごあるぞ小出の菖蒲澤に」と歌われた。江戸時代鷹狩を御林地籍で行った折、直会において井戸の集辺で歌われたという。		
姫宮様（ひめみやさま）	西春近	小出二区 山本
広く伊那一円の女性の参詣するお宮である。昭和年代当初までは春の祭典に列をなして境内に集まった。曾我兄弟の第五郎の恋人虎御前があだ討ちをはげまし後に尼になり、兄弟の霊を慰めたという伝説により、女の願いをかなえ成就したという。個人の宮となっているが、現在は昭和26年(1951年)の宗教法人法により諏訪神社の別院(別社)となっている。		
伯耆守の里の伝説 (ほうきのかみのさとのでんせつ)	西春近	小出二区 小屋敷
伯耆原(ほうきはら)あるいは、簀原(ほうきはら)との小字が小屋敷にある。ここには武田信玄が晴信と呼ばれていた幼少のころ、守役をしていた伯耆守(ほうきのかみ)が戦火を逃れてこの地にたどりついて開墾したという話が残っている。		
光善坊（こうぜんぼう）	西春近	小出三区
犬田切川上流に光善坊といわれる自然の洞窟があり、人が入り込める大きさと長さは不明である。この穴は駒ヶ根の光前寺まで続いているといわれる。		
忍び小屋の伝説（しのびごやのでんせつ）	西春近	小出三区
西春近細ヶ谷の権現山麓に女忍者お江(おごう)が住んでいた。天正10年(1582年)3月2日、仁科信盛(武田信玄の五男)が守る高遠城が落城した際、翌日お江は重傷の佐平次(高遠城の足軽、猿飛佐助の父)を救出し、権現山の忍び小屋に運んだ。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
青木清水の伝説（あおきしみずのでんせつ）	西春近	小出島
平安の末、源氏と平氏の争いがあり、都の治安が乱れた。それを嫌った藤原朝臣（ふじわらあそん）の若君は、信濃の地に逃れた。若君は唐木に立ち寄り、この地に湧く清水を飲んだ。そのおいしいこと、ことのほか気に入り、青木清水と名付けてここに留まることにした。やがて、都の騒乱も鎮まり都に帰ったが、青木清水の味が忘れられない。家来を信濃まで水くみに行かせた。しかし家来は近江まで来て、その辺の水をくみ、都に帰り、若君に差し出した。すると一口飲んで「我をあざむくや。これ、信濃の青木清水にあらず」と言い、ついに亡くなってしまった。それより、青木清水は名水と仰がれ、信濃に入る領主は必ずここに立ち寄って賞味したという。		
虚空蔵菩薩祭(こくぞう様) (こくぞうぼさつさい(こくぞうさま))	西春近	赤木
こくぞう様は知恵と慈悲の広大無辺なる菩薩様といわれ、赤木の守り本尊となっている。こくぞう様のお祭り(9月)は、入り口を開き外側に諏訪上社のお許しをいただいた紋章「穀(かじ)の葉4足」を染め抜いた社幕を張り、祭りちょうちん一対を下げる。内部は最上段のこくぞう様の厨子を御開帳する。お参りの作法は諏訪の原山神社の故事にちなみ、すすきの白い穂を進ぜる。お参りに来た人々に般若湯を1献差し上げる。		
米高岩（こめだかいわ）	高遠町	西高遠
天女橋の下に三峰川に突き出た大岩があるが、この岩を「米高岩」と呼ぶ。三峰川の水がこの岩に当たって流れる年は、米の値段が高くなると言われたことが地名の由来。		
袋町とカサヌギの伝説 (ふくろまちとかさぬぎのでんせつ)	高遠町	西高遠
江戸時代の高遠城下町の町方十町の一町であり、城の防御上、「袋小路」となっていたため、袋町と名付けられたと考えられる。明治の地字帳でもそのままの名称である。元禄 10 年(1697 年)の高遠城下町絵図にもはっきりと描かれており、鉾持町方向に通り抜けは出来なかった。また、現在の袋町の角から霜町(下モ町)に出る小路は元禄 10 年の高遠城下町絵図では「建福寺大門通」と表示されており、江戸後期の絵図面では「カサヌギドウ」と表示されている。この小路は、建福寺の参道と推測され、戦国時代には建福寺の門前から鉾持神社の鳥居前にかけて、「カサヌギの里」という所があった。現在は「カサヌギ地蔵」の石仏が鉾持神社の中段右の一番井(嘉永元年に藩により築造された藤沢川から取り入れて美鶯笠原の六道堤までの通水路)の土手下にある。言い伝えによると、笠を取らずにここを通ると災いが生じるとのことで、笠を取るようになったとのことである。		
自分坂（じぶんざか）	高遠町	東高遠
殿坂から大手門に登る坂道(追手坂)を一曲りするとところに若宮へ下る坂道がある。この坂は昔、若宮を含む周辺藩士が登城の近道として、自分たちが作った道であることから、殿坂に対し自分坂といわれている。三番組の治部の宮にも残る治部の役職名との関連も考えられる。		
殿坂（どのさか）	高遠町	東高遠
土ノ坂(どのさか)・出坂(でさか)ともいう。高遠城址への西方からの登り口にあたる。殿(との)は高い段丘を意味することから、殿坂は段丘へ登る坂道と考えられる。また、藩主である殿様が通行する坂道から名付けられたともいわれる。殿坂を「どの坂」と発音するのはなまり言葉と思われる。近世の記録には、出坂、土ノ坂の表記も見られる。御家中 16 町のうち殿坂町を含み、殿坂の両側には近世以来、屋敷町が形成されてきた。明治期より殿坂は町内名としても使用されている。位置は不明だが、根小屋(ねごや、ねこや)の地名が残っているとされ、根小屋は山の上に城のある城下町を示すとされる。		
疣石（いばいし）	高遠町	長藤 的場
新館橋のたもとにイボ石がある。大きな石にくぼみがあり、これは源義経に追いつこうとした弁慶が飛んだ足跡であるとの言い伝えがあり、くぼみにたまった水はイボ取りに効くと言われている。		
硯岩（すすりいわ）	高遠町	長藤 的場
香福寺薬師堂の東北に硯岩という岩がある。『長野県町村誌』に「香福寺地中太子堂の脇にあり。岩の大きさ高4間余、横3間半、絶頂に凹ありて常に水絶ゆることなし。里俗呼びて硯石という。童子手習の水に用いて奇特ありと言いつつ」と記されている。		
石見堂（いしみどう）	高遠町	長藤 弥勒
石見堂は、高遠城主が参勤交代の際に休息する場所であった。江戸時代、ここにはお堂があり、奥州から1人の山伏が移り住んだ。ある時、この山伏が小金を持っているとうわさが立ち、それを聞いた山賊が山伏を殺して金を奪い、千両箱を藤沢川の淵に捨てた。国元の母は風の便りにこれを聞き、2匹の犬をお供に石見堂を訪ね高遠へ来たが、御堂垣外で病になり死んでしまった。連れてきた犬も死んで石となり、1匹は御堂垣外、1匹は中条で犬石となった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
こがね沢の伝説（こがねさわのでんせつ）	高遠町	長藤 弥勒
弥勒村の中心にこがね沢という所あり。往古、乱国の時、金を埋め置きたるを其後掘出せしより名付く。またこの山の続き鏡立という所あり、山の尾崎に岩二つあって月の出づる頃、雅景なりとぞ。		
郷土久保（きょうどくぼ）	高遠町	長藤 野笹
平家の武士の落人がかくれた場所だという。人里離れたところで、一見して人が住んでいないと思われるようなところである。湧水があり、久保と言っても山の中腹の 300 坪くらいの平で平地となっている。		
千両淵（せんりょうぶち）	高遠町	長藤 野笹
「石御堂坂上に蘭塔があり、いにしへ奥州より修行の山伏来り、金持居たり。よって板山辺の百姓寄合ひ打殺して金を取る。その後国の母この事を聞き尋ね来て台村にて死す。また飼ひおく犬2匹来て是も死す。二つの石となって今道の辺りに犬石とてあり。」六部が所持した千両包みを崖の上から投げ落としたので、藤沢川のその淵のことを千両淵とよんでいる。今、蘭塔は集落のお宮にあり、犬石は今でも藤澤の台にあるという。		
道円原（どうえんはら）	高遠町	長藤 塩供
道円原。なだらかな西に傾斜している扇状地で、山崎家祖先の清和源氏の流れをくむ「道限」が住んでいた。道限は足の白い馬に乗り、押出山から芦ヶ洞の山道を登って浅間様（塩供の西村山の中腹にあるほこら）にお参りに行ったと伝えられている。		
瓜屋（うりや）	高遠町	長藤 中条
その昔、諏訪黒佐衛門の三男が参勤交代の出迎えの折、あくびをしてしまい、「無礼者」ととがめられ、茅野の穴山に流された。持参金を使い果たし、杖突峠を越えて中条にたどり着き、居を構えた。きゅうりでも多く栽培したのか、その地を瓜屋と呼んだ。		
大中屋（おおなかや）	高遠町	長藤 栗田
永禄3年(1560 年)頃、安曇仁科郷北原村に浪人していた砲術の名人が、仁科五郎盛信に仕官して北原兵庫と改名した。次代の光照は高遠城の戦いで戦死し、その子光章は浪人となり、藤沢の渡沢山麓に蟄居（ちつきよ）した。さらにその子、光得が寛永2年(1620 年)に台村南垣外に移り、そこを殿垣外と名付け名主となって台村を統括した。その子光宗の時、元禄3年(1690 年)に松代の真田家による検地が行われ、栗田村となった。北原氏は以後内藤氏の給人となって幕末まで仕えた。屋号を大中屋と称し、御堂垣外から四日市場までの入会権を有した。		
栗木田城（くりきだじょう）	高遠町	長藤 栗田
鎌倉時代の『武家評林』という書に、「源氏方の栗田英繁が伊那谷にあり、栗の木田集落の東に城を築き、平氏方の大将笠原平五頼直と対峙していた。まだ平氏の力が強かった時代で、栗田英繁は城と共に滅んだ」とある。また、文明 14 年(1482 年)、保科貞親と高遠継宗の間で戦が行われ、保科氏が千野氏と藤沢氏を味方につけ、藤沢城（栗木田）を乗っ取ったとされる。上社の大祝継満は郡領家の政満と相反し、また、高遠継宗も代官保科貞親と不仲になった。千野入道法秀は高遠へ行き調停したが不調となり、保科氏に同心して帰った。その年の7月、千野法秀は保科貞親とともに高遠継宗を攻めた。まず、箕輪に入り藤沢信有の軍と合流して月末に笠原で高遠方の三枝、笠原氏を破った。この時の神長官、守矢政實は 17 歳で従軍して戦功を挙げた。8月7日に貞親は栗木田の藤沢城を乗っ取り入城した。栗木田とは栗田のことである。		
殿垣外（とのがいと）	高遠町	長藤 殿垣外
垣外とは周辺の土地という意味であるので、殿垣外は殿様の近くの土地ということになる。殿とは一体誰であったのであろうか。文献には保科正俊が隠居した時に居住していたとあり、殿とは保科家としている。		
足軽のいなご取りの伝説 （あしがるのいなごとりのでんせつ）	高遠町	三義 山室
いつの時代かわからぬが、ある日藩の足軽が、城の近くで武士がいなご取りをしては気が引けるのか、山を越えて、宮原くんだりの5反5畝の田んぼまで来ていなごを取った。なれぬ手つきで思うように取れず、その格好があまりおかしいので、村の子どもに冷やかされ、真赤になって怒ったということが、今も言い伝えられている。当時としては、いなごは貴重な栄養源であった。今もその地に「五反五畝」という地名が残っている。これは、三義の山の中でも、広い田んぼがあるという土地の人々の自慢のための地名でもあるらしい。山室甚句に今もそのことが残っていて、唄われている。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
栗島様（あわしまさま）	高遠町	三義 山室
三義の、上原の上の呑竜様の石仏群の中に、栗島大神の文字碑が2基ある。淡島信仰は、和歌山市の加太、加太浦の淡島神社の祭神に対する信仰で、祭神について伝説が伝えられている。この神さまは住吉神社の妃神で、白帯下(こしけ)の病のためにここに流されたという。そのため婦人の下病・安産祈願・縁結びなどにご利益があるとされている。江戸時代には、淡島願人という乞食坊主が、神の姿絵を入れた箱を背負って村々を回ってその功德縁起を説き「紀州名草の郡、加太淡島さまへ代僧代参り」などと言って、紅紫とりどりの小ぎれを結びつけたものを持って歩いた。この布きれをつけて歩いているので、ボロボロの衣服を身につけていると「栗島様のようだ」などと親に言われた。		
馬の落し物の伝説 (うまのおとしものでんせつ)	高遠町	三義 山室
昔、あるお寺に和尚さんとお小僧さんがいた。それからお上人様が、「お経にたのまれて近所へ行く。」つつちゅって、そのお小僧さんがお供おしたわけだ。そうしたところが、橋を渡る時に向う見たら天女魚がいて、「和尚様、あそこお魚が歩いてる。」とお小僧さんが言ったら、「ばかやろう。見たもの聞いたものお、そんなにめた言うもんじゃねえわ。」って和尚様に怒られた。そいでまた行ったら和尚様の頭巾が風で落ちちゃったって、小僧さんはさっき怒らえたもんで拾わずにいたら、「落ちたもなあ拾わにやだめじゃねえか。後ろから来たら拾って来い。」って和尚さんにまた怒られた。そいでまた行ったら馬が馬くそひったって。そしたら、小僧さんがその馬くそ拾ってったって。和尚様は「どうしてそんなものお拾って来た。」つつちゅたら、小僧さんは「落ちたものなあ拾って来いしつつたで拾って来た。」つつちゅったって。		
団子髻の伝説（だんごむこのでんせつ）	高遠町	三義 山室
昔、とても覚えの悪いむこ様がおってない。どっかい小間使えに行ったら、そこで団子お出えてくれたって。ほしたらとつてもうめえもんで、家い帰っておつかあ(嫁)に作えてもらわっと思って、「団子、団子、団子」って口で復習していきながらその家お出る時に敷居を「どっこいしょ」ってまてえだらへえ忘れて、「どっこいしょどっこいしょ」つつちゅって、おつかあに、「どっこいしょ作えてくりよ」つつちゅったって。		
呑竜さま（どんりゅうさま）	高遠町	三義 山室
三義の原の上方の山林の中に、ひっそりと建つ 45 個ほどの石仏群があり、その中に呑竜さまをたくさん見ることができる。呑竜大上人と刻まれたものが1個、呑竜上人が6個、呑竜王が 11 個と合計 18 個の呑竜さまが祀られている。病弱な子が丈夫に育つようにとの親の願いから、呑竜さまへあげる、といつて群馬県太田市にある呑竜さまへ詣でる信仰がある。呑竜さまとは江戸初期の浄土宗の僧で、悪竜をのむ夢を見て名を呑竜と改めた。貧困のため行われていた間引きの惨状に対して、寺の禄米を施して小さな命を救った。また捨て子を養育したりしたので「子育て呑竜」の名がある。この信仰によって子どもは坊さんの弟子とみなされるので、女の子でも7歳ぐらゐまで髪を伸ばさず男の子のように坊主頭になっていた。こういう子ども達は呑竜坊主とか呑竜っ子と呼ばれていた。		
宮原の大岩（みやはらのおおいわ）	高遠町	三義 山室
山室宮原に、高さ 10 丈ばかりの大岩があり、中腹に1つの大穴があつて大岩穴観音とよんでいる。岩穴は竜宮浄土への通路なりと伝えている。昔、客人を招くに当って膳碗器物をこの大岩の老嫗(おうな)に借りていた。ある時、その碗を破損したのを告げずに返したことがあつた。以後老嫗は貸すことをしなかったという。ここを朱碗朱膳の貸しどころと言い伝えている。文明5年(1473年)身延 11 代日朝尊者が、七面山において七霊地を得んと欲し、そのうちすでに六地を発見していたが、なお、残りの一霊地を探し求めていた。日朝尊者は、同年6月、荊口の東方約1里の山頂に出、高座に適した岩を発見し、これに上つて従者に法を説いた。それ故、この岩を朝師高座の名を以て後世に伝うという。日朝尊者は、それより山室の郷に入って教化を施し、ことごとく改宗せしめたという。わらじをはき、岩に腰かけたる山越の尊像は、今もなお遠照寺に存置している。同岩は海拔 6,025 尺の高地にある。		
山室のざんざ節（やまむろのざんざぶし）	高遠町	三義 山室
「ざんざざんざと 馬追いかけて コラ ザンザ 馬の通らぬ 道はない イヨサマ スイショデ キハザンザ ヨーイ ソコジャナイ」と長谷の杉島で唄われている「ざんざ節」には、山室に古くから次のような話が伝えられている。慶長の頃、山室には田畑が少ないので、多くの人が石工になり、他国に働きに出かけた。加藤清正が熊本城や名古屋城を築城した時、山室からも大勢の人が石積工事に参加し、九州肥後の熊本城を築城した時、“ざんざ節”の唄と踊りを覚えて帰ってきた。そして日朝様のお祭や、盆等に盛んに唄ったり踊ったりした。ところが、その年は凶作で米が取れず、村の古老達は、若い者が熊本から変な唄や踊りを持ち帰って流行させたから凶作になったのだと言い、ざんざ節を唄わせないようにしてしまった。これを長谷杉島の人が覚え、杉島で唄われるようになったという。イヨサマ スイショデのイヨサマは熊本のヒゴサマのことで、踊は現在の杉島と違い、九州から持ち帰ったものはすぐ踊れるような簡単なものだったよう。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
山室甚句と野良唄（やまむろじんくとのらうた）	高遠町	三義 山室
音階が比較的古い姿を残している。「山の中でも 山室名所 五反五畝歩の 田がござる」「五反五畝歩に 実りし米を 高遠城主のごようの米」と唄う。また美しい野良唄があり、「若い時また二度あるなればさわざもののだといわれりやせぬ」と唄われる。		
夫婦岩（めおといわ）	高遠町	三義 山室・荊口
両区の境に夫婦岩がある。弘化3年(1846 年)、高遠藩では城主の命令で、城内の池に水を入れることになった。藩としては、表向きは、城内の池の水ということになってはいたが、実際は東高遠のかんがい用水、その他が目的であった。山室川からの引水は、なかなかの大工事であり、それぞれの区間を区切って、工事が行われた。工事でも大分はかどり、もう少しというところで、荊口地区に巨岩があって、工事は完全に止まってしまった。城主をはじめ、工事関係者は、はたと困惑してしまった。ところが、ある晩のこと、このことで心痛んでいる城主の夢枕に、荊口中屋の薬師如来が現われ「大岩を二つにせよ、難なく割れるであろう。」とのお告げがあった。さっそく、工事の人々が、大岩の真中を割ると、薬師如来のお告げどおり、思ったよりはやく巨岩を二つに割ることができた。そのため、山室川の水が、高遠城の中や、東高遠の水田にうるおいを与えたわけである。このときの大岩は、大小二つになり、ちょうど夫婦のようにみえたので「めおと岩」と名づけてほこらをまつり、後世に伝えた。		
弘妙寺の経石（ぐみょうじのきょういし）	高遠町	三義 荊口
甲斐国の笛吹川は鮎がよく取れたが、文永6年(1269 年)、石和を中心に上下3里にわたって「鮎漁御厨(みくりや)」に指定され、禁漁区になってしまった。いつも密漁をしていた獵師たちは、役人に目をつけられ危うくなった事を知り、皆が助かるために右兵衛をいけにえにし、皆の罪を被せようと右兵衛の謀殺を計画した。そうとは知らない右兵衛は、その夜も月の落ちるのを待って密漁に出かけた。右兵衛を 20 数人の人影がとりかこみ、皆にねじふせられ、笛吹川の深瀬に素まきにされて沈められてしまった。それから後、笛吹川には夜にもなると、右兵衛の亡霊が出るようになった。ある日、そこを通りかかった日蓮上人は、「されば拙僧が法力をもって済わたして仕わそう。」と言い河原の小石を拾い集め、きれいに洗って一字一石に法華經を書いて、河の中に投げ込み、右兵衛の供養をした。それからというものの亡霊は出なくなった。その経石の一つが荊口の弘妙寺にある。弘妙寺の住職の日迎が、石和の近くの寺に転住して行った時に、この経石を手に入れ弘妙寺に寄進したそう。		
半対の玉の伝説（はんづいのたまのでんせつ）	高遠町	三義 荊口
荊口から右へ山道を登ると、今は人が住んでいない半対という集落がある。ここには昔から不思議な玉があり、その玉にまつわる話が伝わっている。いつの頃か、高遠城が落城し、城主の娘の春日姫が追っ手から逃れて、この半対まで逃げてきた。そして一軒の家へたどりつき、「この玉は珍しい玉で、この玉の動き方でいろいろな事を占うことが出来る不思議な玉です。この玉を差し上げますから、私をかくまってください。」と頼んだ。その家では姫をかわいそうに思い、その玉をもらって姫をかくまってやった。しかし、姫をかくまっている者は罰せられるというおふれを聞き、姫には知られないように届け出てしまった。追っ手は直ちに姫を捕えて殺してしまった。姫に悪いことをしたと思ったその家では、祠を作り姫を祀った。その不思議な黒い色の玉は、お腹の中の子どもの男女を見分けたと言い、妊婦のお腹の上につると、男の子だと動かず、女の子だと丸く円を描いて動いたそう。また、戦争中は出兵者の生死を占う事ができ、兵士の名前を書き、その上に玉をつると、死んでいるときは動かず、生きていとぐるぐると円を描いたという。しかし、この玉はいつの頃か無くなってしまい、祠だけが今でも祀られている。		
御所平（ごしょだいら）	高遠町	三義 芝平
鎌倉の北条氏が、戦いに敗れた時、諏訪盛高は北条氏の懇請をうけ、北条高時の子、亀寿丸(後の北条時行)をひそかに鎌倉から脱出させて諏訪にかくまった。しかし諏訪では危険であったので、芝平の御所平の山中に家建て、隠密に保護育てていた。素朴で親切な村人たちは、ひそかに悲運の時行を山に見舞い、食糧などを届けるのであった。後、時行が成長し、後醍醐天王の皇子宗良親王を奉じ、正平の頃(1346 年～)親王を御所平に迎えた事もあった。		
法華道（ほっけみち）	高遠町	三義 芝平
諏訪郡木ノ間村(現在の富士見町)の若宮から西方池の十の沢を登り、入笠山の北麓の御所平峠を越え芝平を経て、山室川の谷へ下る道筋を俗に法華道とよぶ。諏訪と高遠を結ぶ古い交通路の一つで、日蓮宗が甲斐から諏訪に入り、この道を通して山室の谷に布教されてきたと伝えられているところから付けられた。		
ゴンドノ古屋敷（ごんどのふるやしき）	高遠町	藤澤 北原
今は、一般に「ごんどう」と言われ「権殿」「かくれくぼ」の地名が残る。北条時行の隠れ屋敷といわれる。時行は鎌倉幕府 14 代執権北条高時の次男で、幼名は亀寿丸、長じて相模次郎時行となった。建武2年(1335 年)諏訪頼重は時行を擁して一時鎌倉を奪還したが、京都から駆けつけた足利尊氏に敗れて退散した。その後、尊氏は後醍醐天皇と対立し、延元元年・建武3年(1336 年)に室町幕府を開く。暦応3年(1340 年)に大徳王寺城の戦いがあり、時行は宗良親王(後醍醐天皇の第8皇子)を奉じて大祝諏訪頼継と共に4か月 にわたって小笠原軍と戦ったが敗れる。この大徳王寺城がどこなのか、諏訪大社の神長官『守矢貞実手記』にのみ記載があり、諸説ある中で候補地の一つが「ゴンドノ古屋敷」といわれている。正平7・文和元年(1352 年)、宗良親王を奉じて武蔵の国に戦ったが足利尊氏に捕えられ切られた。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
こだま岩・鸚鵡岩（こだまいわ・おうむいわ）	高遠町	藤澤 北原
峰の林道から少し下った所に大きな岩があり絵図にも「小玉」と描かれている。この岩の少し下には馬頭観音があり昔は街道が通っていた。「児玉岩。本村の南北原にあり。形状鳥に似たり怪疑の妙岩なり。近傍にて高声を発するとき山と言うは山と答え、川と問えば川と答える。…よって古くから鸚鵡岩とも言う」として信濃の民話に取り上げられている。 昔、高遠に弟子を大勢抱えた石工がいた。藤沢川ぞいの硬い石でお地藏様や観音様を造ったり、お城の積石から石塔まで手広く仕事をして、甲斐や尾張の国までその名が響いていた。さて、ここの弟子に源助という者がいたが、10年の年期をつとめたのに、腕はいっこうにあがらず、それでも根がまじめで素直な愛きょう者なので、皆からは好かれ、ここの一人娘のお糸さんも、源助に想いをよせるようになっていった。しばらくして、やはりお払い箱になってしまった源助は、杖突街道を生まれた村へとぼとぼ帰っていった。後を追っていったお糸さんは、北原村の辺でようやく追いつき、源助にすがりついて、オイオイ泣いた。と、その時どこから鳥の鳴くように澄んだ声で…「早く腕のいい職人になってよ、早くなってよ」お糸さんの言葉が、おうむ返しになってきたではないか。「なってみせるとも、俺あ高遠一の石工になってみせるぞ」と澄んだ声が返ってきたのだそう。「俺あ高遠一の石工だぞ—石工だぞ—」と叫ぶと、おうむ岩も毎日同じことを言い返してくれるので、日増しに腕に自信がついて、ほんとに源助は高遠一の石工になることができたそう。そこで、親方の許しもでて2人はめでたく結ばれ、末長く仕事に励み、今もほほえましい野の石仏たちを、この辺一帯に幾つも遺しているのだそう。		
貴船神社（きぶねじんじゃ）	高遠町	藤澤 荒町
神社の棟札に「信州伊那郡の高遠城の東にある藤沢郷の荒町縣に一社が有る。すなわち西の都を鎮護する貴船の神が降り立ったところである。（中略）聞き伝えによると、前の国主、保科正之公が再び来て、修理の手を加え、新造営をしてくれた。それで回復してそれ以来、年が変わり、それ以後、雨がさして洗い風が擦り付けたので豊殿は廃屋のようになってしまった。ああ誰の耳目にも感慨深い、これは誰の悲しみか。ここに時のめぐりあわせか天和3年癸亥(1683年)の秋の初め、昔のとおり修復することにした。」とある。		
腰懸原大神宮（こしかけはらだいじんぐう）	高遠町	藤澤 御堂垣外
3世紀の後半、大和政権（現在の奈良）の大王の配下に、大泊瀬幼武（オオハツセワカタケル）という武に優れた強者がいた。大王の命により、奥州（東北）征伐に大和の都より、東山道（岐阜）を通り、秋葉街道と金沢街道の合流点、現在のお宮のある所で腰を降して休んだので腰懸原の名がついたと思われる。なお、通説のヤマトタケルノミコトという名は、歴史の書物のひもを解いてもでてこない。		
蛇山（じゃやま）	高遠町	藤澤 御堂垣外
周りの山と同じ山であるが、この山だけ「ジャ山」とも呼ぶ。この山に住んでいた雌と雄の2匹の犬が、ふもとの川に住む大蛇に追われ、雌犬は、中央公民館の下で石にされた。現在も田と田の間に大きな石がある。またこの付近を犬石と呼ぶ。雄の犬は、長藤中条の高遠北小学校の北登校坂の登り口にあり、大きな石の上にある石塔が乗っている石がそうである。この石は現在の国道の所にあったが、国道造成のため、ここに移された。なお、犬を追った大蛇も石となり、ふもとの藤沢川の河底に蛇石として残っている。		
水無し（みずなし）	高遠町	藤澤 片倉
弘法大師（空海）が守屋山に来た時、観音様付近で東を眺めながら一休みしていたところ、のどが乾いたので、百姓をしていた人に「水を飲みたいがどこにあるか。」と尋ねた。「この前は水無しと言って飲める水はない。」と百姓から言われた弘法大師様は、杖で祈りをして何年か後には出るだろうと云って立ち去った。その後、水無地籍上の方から湧水がわき出ている。		
守屋山（もりやさん）	高遠町	藤澤 片倉
守屋山のふもとにある諏訪大社上社は、天水をさずけ、風を鎮める農耕の神、さらに狩りの神とされている。拝殿だけで本殿がない諏訪式の社殿であり、背後の社が神体山である。その森を擁する守屋山は神の山と言ってよい。		
お膳岩・大岩・布引岩 （おぜんいわ・おおいわ・ぬのひきいわ）	高遠町	河南 勝間
勝間の集落に入り白山神社（奥宮）に向かう道端に、大きな岩がある。白い筋が上から下にかけてあり、遠方から見ると布を引いた様に見えることから布引岩とも言われる。この岩は昔からお膳岩、または膳出し岩とも言われる。人寄りなどでお膳やお椀が必要な時に、この岩の前で「10人前入用ですのでお願いします。」とお祈りすると、翌朝にはその10人分だけのお膳やお椀が岩の前に並んでいて、里人は重宝していた。ところが不心得者がいて借りたお膳を1つ返さなかった。それからは誰がお願いしても貸してくれなくなった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
隠れ久保（かくれくぼ）	高遠町	河南 勝間
龍勝寺の本堂より南東 300m 下で、龍勝寺川は2つに分かれる。上流に向かって右側を本線、左側を中の沢という。中の沢の尾根を「秋葉つる根」といい、この沢に「隠れ久保」がある。天正 10 年(1582 年)に、織田信忠が高遠城を攻める時、勝間堀地籍に本陣を築いたので、勝間の百姓は一旦龍勝寺の山奥に隠れた。それからこの久保を「隠れ久保」と呼ぶようになった。ほかの一説には、昔、空海(弘法大師)がこの地を訪れ、百谷あったら真言宗の総本山にしようとした。勝間の百姓は大変だと、蓑(みの)を持ち寄り一番小さい久保を隠した。弘法大師は 99 しかなかったのでお帰りになった。龍勝寺の詠歌に「九十九谷をたどり来て菩薩のつきを見るぞうれしき」とある。		
青牛道士の伝説 (せいぎゅうどうしのでんせつ)	高遠町	河南 勝間
昔、仙境(三ツ界南の方白類(はくたい)より戸倉の峰まで)に1人の老人が、小さな庵を結んで住んでいた。苦しみも何も知らない赤子のようなあどけない顔をしていたという。老人が友人にしていたものは、1匹の大きな青牛と、2匹の賢い犬。2匹の犬が町に下り買い物をしてきた。老人は、どこかへ行くときには、大きな青牛の背にまたがって、ゆらりゆらりと出かけた。長い髪を後ろに垂らし、その上に角頭巾をかぶって、山の上での静かな平和な毎日の生活をしていた。幾年か過ぎ去ったある日、町に下った犬が帰ってこなかった。老人の顔に深い深い悲しみが刻まれた。それから後、老人は牛にまたがって、自分から里に下るようになった。人々は「青牛道士」と呼ぶようになった。それから幾年か歳月が流れ去り、この地から姿を消した。戸倉山にはその庵や井戸の跡らしき所もある。		
花もり様・花森様・花守様（はなもりさま）	高遠町	河南 勝間
諏訪はなは諏訪勝右衛門頼清の妻で、天正 10 年(1582 年)3月2日高遠城が落城した時、夫が討ち死にしたと聞かや、紺糸の腰巻に、長い黒髪を束ね、2尺(約 60 cm)ばかりの太刀を持ち、討って出て、敵2、3人をなぎ倒した後、人手にかかるまいと、短刀を抜き持って自害し、敵味方の心胆を寒からしめた女傑。はなは女であるがゆえに、ほかの武将と同等に扱ってもらえず、別の地に葬られた。中村元起が二郎山に葬るまで約 280 年別の地に眠っていた。ここを花守様という。		
姫小松の伝説（ひめこまつのでんせつ）	高遠町	河南 勝間
龍勝寺の裏山は姫小松の自生地になっていた。いつの頃か分からないが美しく若い僧が住んでいた。若い娘たちは、僧の白くほっそりとした面立ちに、誰もが魅せられてしまった。何とかお会いできないものかと、手紙を送る若後家さんもあり、それは大変だった。しかし、若い僧は端然として仏道に精進するのみだった。そこで誰となく、若い僧を姫小松にたとえて歌った唄が「龍勝寺山の姫小松」という里謡。「龍勝寺山の姫小松 思えども 高くてお手が届かぬ ドッコイカマヤセヌ ドッコイカマヤセヌ」		
若宮原（わかみやらはら）	高遠町	河南 勝間
天正 10 年(1582 年)3月2日落城後、信盛公の遺骸を板町村と勝間村と相争て、各我地に埋葬せんとす。勝間村早く駆け付け、願い出てその言葉順なればとてその意に任せりという。遂に勝間山に葬る事と定まれり。板町の者ども遺骸を奉し涕泣(ていきゅう)して川原まで陪従(ばいじゅう)せしという。一旦若宮にて火葬にし今の五郎山に葬りしなり。(板町落葉)勝間村の人々は屍(しかばね)を火葬にした地籍を「若宮原」と呼んでいる。		
桜の馬場（さくらのばば）	高遠町	河南 小原
高遠城下の旧小原村の入口に、桜の馬場があった。小原段丘の東端にあって眼下に高遠の街並みが見え、三峰川を隔てた東に高く高遠城跡が望まれる。この馬場はほぼ南北に長く、幅 20m、長さ 300m ばかりであった。この馬場は小原城主小原氏が開設し、その後高遠城主の武田氏、保科氏、鳥居氏、内藤氏が使用した馬場であった。この付近には馬場の名をつけた地名が沢山残っている。嘉永3年(1850 年)の彩色古地図によれば、馬場の南方入口には番小屋があり、東に接して道路もあり神明社に通じている。江戸中期後内藤氏が藩主となってからは、藩士の場出訓練も盛んに行われ、したがって馬場を大切に、管理も厳しくした。この馬場の両側には大きい桜の並木があった。明治廃藩の時、この馬場も村に払い下げられ、桜並木もことごとく伐採されてしまった。この時、古い大木の下にあった若木を高遠城の入口や本丸の中に移植した。		
ヨキトギ・斧研（よきとぎ・おのとぎ）	高遠町	河南 小原
小字ヨキトギの場所に橋がある。その橋が斧研橋。この橋について「杣(そま)と落武者」という話が残っている。「昔ここで杣が斧を研いでいると追われてきた落武者に救いを求められた。そこで作りかけた樋(とい)(一説に牛馬の飼育樋＝水船)にかくまい、その上で斧を研ぎ続けているところへ追っ手が来て問われたが「その様な人は知らぬ、来なかった」ときっぱり言ったので追っ手は帰り、落武者は助けられた。武士はここに住みつき、紀州熊野社(平家の守り神)を迎え、御神体には斧を選んだ。これが今の熊野社の始まりで、明治の頃は太刀一振、具足一領、斧一丁が納められていた。熊野社前の神木「大桧」はこの落武者が植えたものと伝えられ、大沢村の始祖もまた彼の数人の部下であったといわれている。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
馬放し場（うまはなしば）	高遠町	河南 下山田
神社八幡宮本殿より東方 300m の所にある道路を中心として3間4方の約9坪を柵で囲み中央は開いている。高遠藩の城主鳥居家と内藤家が参拝に参上された時、このところまで馬に乗って来て馬から降り、このところに馬を繋ぎ歩いて八幡宮へ行き、祈願をしたとのこと。この場所は城主の帰るまでの馬を繋いでおいた所。		
清水坂と観音様（しみずざかとかんのんさま）	高遠町	河南 下山田
美簀芦沢の人達が、南の山添いを見ると毎夜燈が見える。誰言うことなく不思議となり、月夜の晩わざわざこの光を探ねて来てみたら、この清水坂の観音様であった。帰ってみたら腹痛の我が子が治っていた。以後芦沢の人達は、霊験に感銘、お願いには子どもの頭の痛い時、腹の痛い時、願い事に願掛け信心し、今日に及んでいる。		
丸山（まるやま）	高遠町	河南 下山田
天正 10 年(1582 年)織田の大軍が高遠城攻略の時、この地を大軍が通り、戦勝祈願に兜(かぶと)を埋めたとされる。兜の形をした坊主山が丸山である。		
山田の古城（やまだのふるじょう）	高遠町	河南 下山田
当地の豪族だった山田氏は、北西の地へ館を造り住んでいた。応永の頃、山田左衛門尉は、子の新左衛門と共に山上に要害の山田城を築き、6代山田弥彦まで居城とした。北垣外の城は「古(ふる)城」と称し、新佐衛門の孫である与市親久が、父の新臓の遺言でこの古城で住み、享徳3年(1454 年)に 51 歳で亡くなった。古今この地に耕雲寺あり。いつの頃か村の南高台に移り、石塔も片付いた。		
よきとき	高遠町	河南 下山田
文治2年(1186 年)4月、気品のある武士が1人高遠の南、大沢の方へ落ち逃れていった。山道にさしかかると、橋のたもとに1人の杣(そま)が太木を切り倒して水舟を彫っていた。落武者は「私は京都からの落武者で平三位惟盛(これもり)と申す者、一の谷の戦いに敗れて源氏のためにここまで落ち延びてきた。すぐに後から追っ手が参ります。どうか私を助けて下さい。」これを聞いた杣は、彫りかけていた水舟をひっくり返し、何知らぬ顔で斧を研いでいた。間もなく追っ手の武士たちが現れたが、「知らぬ。来なかった。」ときっぱり言い、杣の言葉を信じ引き返していった。この時からこの橋を「よきとき橋」と言うようになった。その後惟盛は大沢の奥に住み、今でも古屋敷という地名が残っている。		
しよき	高遠町	河南 上山田 引持
高尾山のふもとに少し低くなった場所を、明治時代までは「しよき」、現在は「床木」と呼んでいる。昔、検地を行った時に、殿様がここに殿様のいすを置いて座ったことから、この名前がつけられたとも言われている。そのように考えると、この場所が殿様の座るいすの形(床几)に似ているようにも見える不思議な場所である。		
山の神様（やまのかみさま）	高遠町	河南 上山田 引持ほか
一の口溜池と大清水に通じる道の手前、山の南側斜面の麓近くに、山の神様の祠がある。農民の間では、春になると山の神が、山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るという信仰がある。すなわち、1つの神に山の神と田の神という2つの霊格を見ていることになる。日本では死者は山中の常世に行って祖霊となり子孫を見守るという信仰があり、農民にとっての山の神の実体は祖霊であるという説が有力である。正月にやってくる年神も山の神と同一視される。ほかに、山は農耕に欠かせない水の源であるということや、豊穡をもたらす神が遠くからやってくるという来訪神(客神・まれびとがみ)の信仰との関連もあるとされている。		
比丘の長者・駒形の森伝説 (びくのちょうじゃ・こまがたのもりでんせつ)	長谷	非持山
非持山の比丘畑に、比丘の長者と呼ばれる人が住んでいた。美の手久保や洞口の辺りは、みなこの比丘の長者の牧場で、鹿毛や葦毛などのたくさんの馬が、肥えて太り、群れをつくって駆け歩くのを、長者は毎日丸山の屋敷から眺めて喜んでいた。その頃、信濃には御牧が 16 か所もあり、信濃の馬は望月の駒といって、全国一馬を産する国であったので、牧場のない村はなかった。比丘の長者も広い牧場に、たくさんの馬を飼って諸国へ売り出し、足の早いすぐれた馬として歓迎されていた。けれどもどうしても売らなかった名馬が「ワル」といって、葦毛の背の高い、丸々太った駒で、長者はいつもこのワルに乗っていた。ワルはどこに居ても長者の声を聞きつけて走ってきたといわれ、長者がいつもワルを呼んだ所に、今日もわる田という地名が残っている。馬の中には、山に迷い込んで行方不明になるようなものもあるので、牧場の囲いに深い堀割を作って、馬が迷い出ないようにし、垣根を作って狼が来られないようにした。牧場内に小高いお宮を建てて、駒形大権現をお祀りしたとされ、これが残っている駒形のお宮である。駒形の森には、樹齢 300 年を超えるような松の木が、何本も生えていたが、戦時中に供出させられて、今は森もなくなってしまった。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
江島の囲み屋敷跡（えしまのかこみやしきあと）	長谷	非持
正徳4年(1714年)幕府大奥の大年寄絵島が、遠流の罪で高遠藩に御囲いの身となった。入野谷非持の火打平(ひょうじだい)らの囲み屋敷で、日頃日蓮宗を信仰し、山室の遠照寺に参詣し、住職の話を聞くのが唯一の楽しみであったといわれている。絵島が死んだ時、絵島の分骨が遠照寺に葬られた。遠照寺釈迦堂の左手前に、高遠蓮華寺と同じような墓が建てられている。以前はこの墓の下に絵島の歯が入れられていると言われていたが、今はセメントで固められて見るができない。		
円坐松（えんざまつ）	長谷	非持
非持の集落から東北の1km程隔てた山の上に、横に枝が張り、ちょうど座布団を敷いたようになっている形の変った松が10数本一か所にかたまって生えている。この一群の松を村人たちは昔から「円坐松」と呼んで村の名物にしていた。昔は年に1度、この松にどこからか天狗さまがやって来て、松の上に座って休んだのだという。そして、村人たちはこの松に手を触れることはもちろん、近づくこともいけないと恐れていた。松の傍には、摩利支天さまなどが祀っており、毎年お祭りをした。明治初め、その付近一帯が山火事で焼けたことがあったが、この松の一群だけは焼けないでそっくり残ったという。高遠藩儒臣中村元恒先生 題 円坐松 老幹龍鱗秀 千枝鶴翼開 看来円坐色 可以作仙台。伊那節で「美和の名所は 鹿の子の瀧と 非持の柵の木 円坐松」と村の3つの名物として歌っている。		
検校塚（けんぎょうづか）	長谷	非持
非持の柵の木の少し先の県道の左側の田んぼの奥に、非持の検校の塚と言われた五輪塔があった。今は五輪塔ではなく、丸くなった石を三つ重ねたような形になっている。昔、瘧(おこり)というマラリアのような病気にかかるときに、この五輪の塔を縄でしばって「この病気を治してください、治してくださったらこの縄をときますから」とお願いすると、病気が治ったという。平安の昔、伊那の依田豊平が、京都の大番役(諸国から出て宮中の警護をする役)にあたり、一条天皇自慢の鷹を、鳥を獲るように飼いならして差し上げ、豊平の望みで、非持の土地の検校となり住んでいた。非持では柵の木の南の方に住んでいたとか、明神の地に住んでいたとかははっきりしていない。この検校塚は、検校豊平の墓だという。非持の検校豊平の話は、鎌倉時代の橋成季書『古今著門集』に掲載されている。		
穀淵（こくぶち）	長谷	非持
常盤橋(三峰川)の上に大きな岩が2つほど座っていて付近に淵がある。その淵がときによって川の下に移動する。馬を引きながら、あるいは荷物を背負いながら、この淵を見ていく人が、「あ、また淵が上へ移った。米の値が出るぞ。」と言う。すると必ず米の値が上がってくるという。		
十膳淵（じゅうぜんぶち）	長谷	非持
村で客寄りなどする時、淵の精に必要な数だけの膳を頼んでおけば、翌日必ず立派な膳がきちんとそろえてあった。借主はそのお膳を大切に使用して、また元通りに返却するようにしていた。ところがある人が10膳を頼み、1つを手元に置いて9つだけしか返さなかった。以後は誰が行っても再び貸してくれなかったという。		
正随寺の秋葉さま（しょうずいじのあきわさま）	長谷	非持
中非持の秋葉さまと別に、安居山正随寺の境内に祀られた秋葉さまがある。正随寺十世の住職徹宗和尚が、弘化2年(1845年)12月16日朝、大雪で、いつものように夜のまだ明けきらぬ鐘楼でおつとめの鐘をついていたら、鐘楼前の松の大木の枝の上に、光まばゆい一寸ばかりのものが目にうつり、よくよく見ると、秋葉さまの御尊像であった。早速境内にお祀りした。十六世越山信遊和尚さんのときから、この秋葉さまを村のお宮としてお祀りするようになった。12月16日正随寺本堂でお祭りをする。秋葉さまは本来火伏せの神さまだが、非持の村ではお祭り後、賭博をする慣習があった。賭博で賽子(さいころ)を伏せることが、火伏せに通じることから行われたと伝えられる。		
大明神（だいましょうじん）	長谷	非持
大明神は秋葉街道と高遠町勝間の集落から下って来る道とが交差する地点であり、三峰川に山室川が合流する地点でもある。もとは、山室川に架かる橋と、三峰川に架かる吊橋の2つの木の橋があった。ここは駒ヶ岳登山口の1合目で、大正の初め頃までは、ここに鳥居が建てられていたという。大明神の坂の登り口左手の岩山の突端には、大小多数の山に関係のある神さまや馬頭観世音が、無数建ち並んでいたが、最近の道路拡張のために、石碑の数も以前より極度に減ってしまっている。最近まで馬引きや運送引きの格好な休憩の場であった。昔、凶作の時などの百姓一揆は、ここが藩との最初の接触点であった。藩から役人が出向いて来て、慰撫鎮圧(いぶちんあつ)に努めたが、一揆は集団的な力で、それを押しのけ、高遠の町へと向かって行ったという。また、浦村から村の宝の蜀紅(しゅこう)の錦の袈裟を盗んで来た盗人が、ここで盗品の包みを広げて見て、その錦の立派さに驚き、恐れを感じて、早速、龍勝寺に寄進したという話もある。この大明神は、ここを通る人々が一息入れて休むのに都合のよい場所となっていたようである。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
栃の木の伝説（とちのきのでんせつ）	長谷	非持
火打平から県道をのぼり、美和ダムの堰堤(えんてい)あたりまでくと正面に見える大きな木が非持の栃の木である。今から1000年くらい前の一条天皇の御代、伊那の依田豊平が大番役という宮中警護の役につき京都にのぼったとき、一条天皇に鷹飼(たかがい)の特技をお見せして、ご褒美に非持の土地をいただき、非持の検校で土地を治め住んでいた。検校豊平は、この栃の木の南の方に住み、この栃の木は庭木であった。中非持には以前、この栃の大木に匹敵するくらいの大きさの榎(えのき)の大木があり、その榎のそばに耕さないで残された6坪ほどのオシンメと呼ばれた土地があったということだか、今はなく、知っている人もいない。非持の諏訪神社はこの栃の木と榎の木とのちょうど中間に建てられたという。大正15年、長野県天然記念物に指定され、戦後、昭和37年7月12日再指定した。目通りの周13m、主幹は相当な空間になっている。枝張り東西35m、南北30mで、樹下面積は実に1000㎡に及ぶとあった。昭和54年10月1日の台風16号で下部から風倒した。		
中非持の秋葉さまの森 (なかひじのあきわさまのもり)	長谷	非持
中非持に秋葉様を祀った森がある。火伏せの神さま、火を鎮める火災予防の神さまである。秋葉さまの森の木は、昔から、切ると村内に火事が起こるから、切ってはならぬと言い伝えられていた。ある時、村の人たちがこの森の木を3本切ってしまい、後で気づき、慌てて秋葉さまに鳥居を1基建ておわびをしたが、明治19年(1886年)3月23日、中非持の大火となった。		
非持城址（ひじじょうし）	長谷	非持
三峰川と山室川の合流点、大明神の坂を登りつめたところの火打平の台地が、非持城跡だと言われている。「荒田の城(あらたのじょう)」とも言われ、東西南北ともに20間の城で、享禄・天文の頃、非持三郎が築城し、居城したと伝えられる。非持三郎は、天文18年(1549年)武田信玄が高遠城を攻撃した時、青柳峠で防戦中戦死した。その子非持越後守は武田氏に従い、仁科盛信の家来となり、天正10年(1582年)、織田軍が高遠城を侵攻したときに、盛信とともに高遠城に籠城し、殿坂で戦死した。その墓は、仁科盛信を葬った五郎山にある。		
貉岩穴の伝説（むじないわあなのでんせつ）	長谷	非持
非持の県道をはさみ、栃の木と反対側の山の手の柿沢に、貉岩という大きな岩がある。この岩の下に、大きな洞穴が1つ開いていて、貉(むじな)が住んでいるといわれ、貉岩穴と呼ばれていた。村の人たちがお膳やお椀の必要があったときに、夕暮れになる前までに、この貉岩の洞穴に向って10椀10膳をお貸しあれとお願いをしておくと、次の日の朝には、その穴の口に10椀10膳がそろえて出されていた。あるとき、膳椀を借りた人が、その1つを壊して、壊れたままにしてお返ししたら、それから後、どんなに頼んでも二度と貸してくれなくなったという。入野谷地方では、貉も狸も同じ。		
膳棚（ぜんだな）	長谷	溝口
下ノ城の崖下を流れる三峰川に大きな淵があり、河童(かっぱ)が住んでいた。お膳が足りない時は河童に頼んでおくと、次の日頼んだ数だけそろえてあったという。そこでその場所を膳棚というようになったという。		
桑田の伝説（くわたのでんせつ）	長谷	溝口
日本武尊(やまとたけるのみこと)が東の神々を鎮め、甲斐を経て山を越えて、河原に出た時、尊を大蛇が襲った。尊は腰の剣を抜いて大蛇と激しく戦い、それを退けた。武尊はこの大蛇の頭を携えて溝口の里に来ると大きな桑の木の下にお宮を作り、大蛇の頭を埋めた。その場所は今、桑田と言われている。		
桑田薬師（くわたくし）	長谷	溝口
桑田薬師は、疫病治療の仏様として信仰を集めていた。お堂には、大正初期まで僧侶がいて祈禱したり、霊験あらたかなお札を授けたりしていた。庭のしだれ桜は古木で、一時は県の天然記念物として、指定されたことのある名木である。その桑田のお薬師堂様に次のような話が伝わっている。桑田の薬師様前の道は、今は脇道になってしまっているが、昔は人通りの多い道だった。そのお薬師堂様の前を馬に乗ったまま通ると、落馬するか、その日のうちにけがをした。それで人々は皆、お薬師様の前を通る時は、必ず馬から降りて、礼拝をして通るようになった。それからは落馬やけがをする人が無くなったという。		
小僧泣かせ（こぞうなかせ）	長谷	溝口
鹿嶺の峰つづきのところに小僧泣かせというところがある。昔、小僧が東山へ登り、夕刻になるのも忘れて草を刈っていた。里はもう陽が遅くまで射していた。陽が没して、さて帰ろうとしたときはもうあたりは真暗で、家へ帰ることもできず、山の峰に泣いていたから、こう呼ぶようになったという。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
こはくび	長谷	溝口
古和首・小和首・恐首。美和湖左岸の岩石段丘上にある。一説には、京都の落人が住みついていたという話もある。屋漏りを怖がる首の化け物。ある雨の日に、家族の住む家の屋根裏に首だけの化け物が出た。この化け物は昔からこの辺に住み着き、住人に悪さを繰り返していた。いつものように家族に悪さをしようとしたその時、この家の主が「化け物怖いが、屋漏り（やもり、雨漏り）の方がもっと怖いぞ。雨が降り続いて困ったなあ」ということを家族と話していた。これを聞いた化け物が「なに、この家には俺よりももっと怖いものがあるのか。」と驚き、その後はこの家族に悪さをすることが無くなった。これは地区に伝わる昔話で、一時「こはくび」を「恐首」と表記していた時期もあったようだが、あまりにも生々しいので、今は一般的に「古いという字を用いた古和首」や、「小さいという字を用いた小和首」と表記される。		
蛇骨様・龍神社（じゃこつさま・おかみじんじゃ）	長谷	溝口
熱田神社の本殿は境内のケヤキを1本切って全てができたといわれる。そのケヤキを切った時、空洞から大蛇の白骨が出てきたという。村人は熱田神社の霊験を感じ、小さな社を建てた。それが地元の人が蛇骨様という龍（おかみ）神社である。		
泣き坂（なきざか）	長谷	溝口
昔、上ノ城を中心に合戦が行われた時、敗れた一族郎党は泣き泣き御殿山を目指したという。このことから御殿山に上る坂を「泣き坂」というようになったという。「泣き坂」にはもう1つ伝説がある。それは昔々、その御殿山にりっぱなお殿様が住んでおり、きれいなお姫様がいた。ある日、お姫様が里に下がってお城へ帰る時、坂が急で赤土のためすべて転んで、きれいな着物をよごしてしまった。登ろうとするとまたすべり、とうとうお姫様は泣き出してしまった。それからは誰言うことなく、この坂を「泣き坂」と言った。今でもこの坂道は赤土のためよくすべる。		
溝口村・非持村の梵天岩(境岩) (みぞぐちむら・ひじむらのぼんてんいわ(さかいいわ))	長谷	溝口
大犬沢を境とした溝口と非持は昔から境界争いをしてきた。元禄3年(1690 年)の検地でも境が明確にならなかったもので、争いが続いた。明治になり、協議を重ね梵天岩を境の目印とし、岩に「村界 南ハ長谷村ノ内溝口 北ハ河合村ノ内非持」と彫った。今も梵天岩にその文字が残る。		
聶さまの伝説（むこさまのでんせつ）	長谷	溝口
昔、姉さんは西山へ嫁に入り、妹は東山に嫁入った。ある年の正月に、東山のむこさまと西山のむこさまが年始に来た。夜中に西山のむこさまは外へ出たら、蔵の前でござそしているものがあり、弓に矢をつがえて射て、家の中に入って寝てしまった。あくる朝、泥棒が射殺されていたので、西山のむこさまは人殺をして叱られるかと思っていると、東山のむこさまは何も知らずに自分だと言った。ところが、その泥棒はお尋ねものの泥棒で、御代官様によびだされて褒美をたくさんもらった。その次の晩に東山のむこ様は夜中にうんこが出たくなかったが、外へ出るのが嫌だったので、内縁にうんこをして寝てしまった。あくる朝、男衆が雨戸を明けると縁側にうんこがたくさんしてあった。すると西山のむこさまが、今度は自分の手柄にしようと思い自分だと大声に笑った。西山のむこさまはさんざばかにされて、東山のむこさまのうんこの掃除をさせられ、とうとう追い出されてしまった。		
宗良親王と御山（むねよしんのうとみやま）	長谷	溝口
後醍醐天皇の皇子、宗良親王の陵墓と尊崇されている御山は、常福寺の北方にあり、前方後円墳の築山である。そこには老杉が茂り、その間に数 100 年を経たかと思われる大木の朽株が多数見られる。築山の頂上近くに鳥居の礎石とみられる大石が左右に2個あり、その石に柱の基部のあった所であろうか、深さ3cmくらいのくぼみがある。その奥に円形の塔があり、苔むした塔面に16 弁の菊花紋章と、その下に「尊澄法親王」左下に「元中乙丑年十月一日尹良」と刻んであるのが判読できる。この石塔は明治の中頃発見され、文字も読解し得ぬまま、常福寺の墓地に安置されていたが、昭和6年(1931 年)5月、文字の読解ができ、宗良親王の墓地であると判定された。大正末期まで近隣の人々は、木立の茂った神秘的な御山に、ただ何となく怖さを感じ、山に上ると罰が当たるといって近づく人も少なかった。		
赤河原（あかがわら）	長谷	黒河内
日本武尊(やまとたけるのみこと)が東の神々を鎮めた後、甲斐の国(山梨県)を経て、険しい山を越えて長谷に来た時のこと、山を越えて河原に出た時、尊を大蛇が襲った。尊は腰の剣を抜き大蛇と激しく戦い、それを退けると大蛇が流したおびたしい血が河原の石を一面に染めた。その河原は今でも赤い石が広がり、赤河原と呼ばれている。南アルプスの戸台口から戸台川を8 kmさかのぼった場所である。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
鹿の子滝（かのこだき）	長谷	黒河内
黒河内の平集落を通ると、川向うの岩の上から白い布をかけたような、美しい滝が見える。村の人はこの滝のことを、「鹿の子滝」とよぶ。今から 600 年ほど前、関東から中部にかけて、宗良親王がおいでになって、宮方の勢力回復につとめられた。この頃、下伊那の大河原城に前からの忠臣で香坂高宗という人がいた。ここは、東に赤石の高峰をひかえ、西は小洪川の溪流に臨み、伊那の平地から離れた天陰の地であったので、親王をこの城へお迎えすることになった。高宗は諏訪まで出迎えにいき、諏訪から杖突峠をこえ伊那へお入りになった。時に興国4年(1343 年)、秋の半ばを過ぎた頃で、黄色に色づいたナラやクヌギの林の中には、カエデやヌルデなどが眼も覚めるばかりに真紅に色づき、足元にささやく枯葉の音も哀れを告げているようであった。高遠から三峰川の溪流に沿った曲りくねった道を黒河内まで来た時、足が疲れたので、山際の木の下で休みになった。三峰川の対岸には、8、9丈の白い布をさらしたような滝が、とうとうと音を立てて落ちていて、全山紅葉の中にただ1本の白線は、ちょうど一幅の絵のように思われた。その時、対岸の滝の下に5、6頭の鹿が木の間にぐれに木の根や岩を伝わって、声高く鳴きながらえさを探していた。一行は、しばらくの間この絶景に見とれていたが、鹿の鳴く声が三峰川の瀬音や、岩を打つ滝の音、梢にそよぐ風の音と入りまじって、落ち人を同情しての音のように聞こえて、秋の寂しさを感じずにはいられなかった。		
青牛道士の伝説 (せいぎゅうどうしのでんせつ)	長谷	黒河内
長谷の美和の西に三ツ界と呼ばれる峰がある。これは、勝間山の頂であるが、河南、富県、美和の旧三村の境に当たるので、こう呼ばれている。この三ツ界の東にある白なぎの辺りから、戸倉山の峰までの一帯を仙境という。昔、この仙境に一人の老人が小さな庵を結んで住んでいた。苦しみも何も知らない赤子のような、あどけない顔をしていたという。老人が友人としていたのは、1匹の大きな青牛と2匹の賢い犬であった。町に用がある時は2匹の犬が下りて行き入用の物を、ちゃんと買ってくるのであった。老人がどこかへ行く時には、きまってその大きな青牛の背に、またがってでかけた。ある日のこと、いつものように町に下がった犬が夜になっても帰って来なかった。老人は犬の賢さを信じていたが、とうとう、翌朝になっても帰らなかった。それから後、老人は青牛にまたがって、自分で里へ下りるようになった。人々は、いつとなしに、老人を「青牛道士」と呼ぶようになった。		
大蛇の伝説（だいじゃのでんせつ）	長谷	黒河内
黒河内のバス停から、大揚寺へ登る坂を門気坂という。この坂の名前は、寺の3代前の和尚を門気和尚といい、自らこの名前をつけたものである。この坂を登りきった所に、昔、長者が住んでいた。今でもこの地を長者屋敷と呼んでいる。長者に1人の美しい娘があり、あまりの美しさに村の若い者のあこがれの的になっていた。ところが毎晩この娘を訪ねる美青年があった。それが、何者であるかはだれ1人として知らなかった。そのうち、その青年は戸倉山の池に住んでいる大蛇が化身したのだというわさが伝わってきた。このうわさが、長者屋敷に住む娘の耳に入り、娘はこの事が本当か確かめようと考えた。蛇は非常に金物を嫌うということを聞いたので、次の夜、男の油断しているすきに、着物のすそに針をさして帰した。その次の夜、男は来ないで、天地をとどろくほどの雷鳴と、大暴風雨にかわった。たちまちのうちに三峰川は大洪水と化した。翌朝、戸倉山の池に棲んでいた大蛇のしかばねが激流に流されていく姿を見たという。これが、長者屋敷を、毎夜訪れた美青年であったという。		
八人塚（はちにんづか）	長谷	黒河内
津郷の北方、谷1つへだてて良(うしとら)の古城趾がある。ここは義純の弟、黒河内隼人正信の居城であったという。この城趾の東隣りに八人塚があり、次のような言い伝えがある。弘治2年(1556 年)、良城が武田信玄の軍に攻められて落城し、正信は捕らわれの身となったが、信玄に従わなかったので、溝口上城主溝口民部少輔正慶と部下の将士、併せて8人が伊那市狐島で斬首された。八人塚は、この首を里人たちがひそかに持ち帰って葬った所であるという。		
般若淵（はんにゃぶち）	長谷	黒河内
昔はこの淵の下方にある猿橋を渡り、淵の側を通して市野瀬から鹿塩にぬける道を市道と呼んでいた。夜ここを通行すると、何物かに化かされ道を見失ってしまう。村人はこれを三バネ狐の仕業だと言った。今でもそこを三バネ狐という。また川に泳ぎに行った子どもは、何者かにシリノコを引き抜かれてしまう。カッパの仕業だと言った。夜になると何者かが里を荒し回る。全てあの淵に住む者の仕業に相違ないと、般若経を馬一頭とこの淵に沈めて法要すると、はたして奇怪な者は現われなくなったという。		
木魂岩（こだまいわ）	長谷	中尾
中尾集落を南に外れて市ノ瀬方面へ向かう秋葉街道の道下に木魂岩とか児玉太郎とか呼んでいる大きな岩がある。この大きな岩の前で、大きな声で、山と言えば、岩は山と答え、川と言えば川と答える。あるとき、面白い人がいて、昔のことを聞いたら、岩は聞いた通りにしか答えなかった。そんなことから、村の人たちはこの岩を木魂岩とよぶようになったという。もう1つ別の話。この大きな岩には岩屋があり、児玉太郎という人が住んでいた。村の人が何か借りたい物があったときに、前日にこの岩屋の前で借りたい物を大声で言って頼んでおくと、翌日には岩屋の前にそっくりそろえて置いてあった。あるとき物を借りた人が、借りた物が立派で珍しい物だったので、少しごまかして数少なく返したら、それきり二度と貸してくれなかったという。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
尼堤の伝説（あまつづみのでんせつ）	長谷	中尾
中尾の東の奥山に、昔から尼堤と呼ばれる古い堤があり、薄気味の悪いところだった。昔、「ます屋」という1軒の旧家があり、太吉という働き者の息子がいて、毎日きこりの仕事をして働いていた。ある日、太吉はこの堤のほとりで斧を研いでいると、娘が洗濯をしていて、半月あまりも続いた。ある日、その娘が太吉に向かって、堤に浮かんでいるあの大きな櫓(ぼた)に乗って、2人で水遊びをしたいと言った。太吉は、魔物でも出そうなこの深い堤が怖かったので断ると、娘は残念そうに帰った。それから数日後、太吉が林の中できこりをしていると、荷物を背負った1人の娘が、金剛杖の鈴を鳴らしながら坂道を登ってきた。その娘は、この山奥の鷹見岩まで行く道を教えてほしいと言い、太吉は教えてやった。そこまで案内してくれと頼みこんで来たが断った。娘はがっかりして、その前にそこの堤で、清めの水ごりをするといい、背中の荷をおろし、堤に浮かんでいる櫓に乗ると、たちまち堤を一回りし、二回り目に、太吉の前に来た時、堤の中へ落ちこんでしまった。娘は水の中でもがきながら叫んでいたが、先ごろこの堤で毎日洗濯をしていた娘とそっくりだった。太吉は、怖くなり慌てて家に逃げ帰り、夕飯もそこそこに、床の中にもぐりこんだ。翌朝、太吉は床の中で、血だらけになって肝をぬかれて、死んでいた。これを見た村の人たちは口々に、太吉は尼堤の魔物に殺されたのだと言った。		
神明社（しんめいしゃ）	長谷	中尾
伊那里のうち、市野瀬も杉島も浦も、産土(うぶすな)さまは、みな諏訪社が祀ってあるが、中尾だけは神明社を祀っている。文治元年(1185年)6月、伊勢の神明宮より鎮守に移し、勧請(かんじょう)したとある。祭神は大日霊女貴命(おおひるめむちのみこと)、もと庄屋西村家の神さまで、お伊勢さまとも呼んでいた。西村家の先祖は、伊予(愛媛県)松山の城主藤原高房で、松山の落城後しばらく伊勢(三重県)の鳥羽村の西に居てここに移り、西村姓を名乗ったという。松山の落城が6月20日であったため、6月を無事に過ごせるようにと、お伊勢さまのお祭りを6月1日にしていたが、今は10月10日に改められている。		
孝行猿の民話（こうこうざるのみんわ）	長谷	市野瀬
昔、勘助という人が、夏は山に行って杣人(そまびと)となり、冬は鉄砲をもって獺をして生活していた。それは秋も深まった旧暦の10月10日のことであった。勘助は、火縄銃を肩に三峰川の谷間深く分け入り歩き回ったが、その日は獲物がなかったので帰りかけると、大きな木の枝に1匹の猿がいねむりをしているのを見つけた。気も進まなかったが、たった1発で打ちとり、肩にかついで家路を急いだ。後の山路で、悲しげな猿の鳴き声が聞こえたが、あまり気にとめずに家に帰って、いろりの火棚にそれをつるし、夕飯もそこそこに寝てしまった。 夜中にふと目が覚め、隣の部屋のふすまに近寄ってみると、いろりの火が燃えている脇で、1匹の子猿が四つんばいになり、さらにもう1匹がその上に乗ってやはり四つんばいになってやぐらを組んでいた。じっと見ていると、たき火で手を暖めていた子猿が、2匹の子猿のやぐらを登って行って、死んだ親猿の傷口を暖めているのである。どうかして親を生きかえらせようと、かわるがわる夜じゅう苦労していたのだと知ると、勘助は思わず大きなため息をついて、そばに寝ている子どもの与曾松をふりかえった。何にも知らない与曾松がすやすや眠っているのを見ると、ころろと大きな涙が頬を伝わり、とめどもなく流れてきた。子猿たちは夜がしらじらと明けそめた頃、どこともなく去って行ってしまった。 勘助は重ねて罪を犯したような気がして、親猿をかついで適当な墓地を探しに出かけた。日当たりのよい丘があつてそこに一本の松が生えていた。勘助はここが一番よい所だと、その松の根元にねんごろに葬った。後にそこに石の祠を建てて、せめてもの心づくしとした。		
分杭峠（ぶんぐいとうげ）	長谷	市野瀬
分杭はその字の示す通り、境界を示す杭。元禄3年(1690年)の高遠藩総検地の時、藩と幕府領の境界争いを避けるため、105本の分杭柱を建てさせた。その後、柱が腐ったため藩は石柱を建てる願いを幕府に出したが、最初の届けと藩主の字が違うと許可が得られなかった。その時、すでに藩の命令で石柱は完成していたので、藩は腐った分杭柱の下に埋めさせた。その後、再び掘り出されて今は大鹿村との境に建てられている。		
夫鳥の伝説（おっとどりのでんせつ）	長谷	杉島
昔、若い夫婦者が、山いボヤ集めい行って、ちょういつとしたことで、おつかあ、夫を見失なっちゃったって。そして探しているうちに鳥んなって、「オットンデコイト」って鳴いてったんだって。		
ざんざ節（ざんざぶし）	長谷	杉島
ざんざ節は、杉島で歌われた馬子唄で、「ざんざざんざと馬追いかけて秋はおいでよ米つけに」「秋は来たかよ入野谷馬の炭の中荷に桔梗の花」「三峰の川瀬のあの水車誰を待つやらくるくと」などと歌う。		

民話・伝説・伝承	地 域	地 区
平家落人の伝説（へいけおちうどのでんせつ）	長谷	浦
「浦」集落は平家の落人集落と言われている。平清盛の子重盛は、小松内大臣左近衛大将となって小松殿と呼ばれていたから、以後、平家が壇の浦で源氏のために滅ぼされてしまっても、逃げ延びた落人はこの「小松」を称して、全国の山奥に身をひそめた。浦の小松の子孫たちは、自分たちは、平家の子孫たちに違いないという。浦に入って来たのは重盛の子維盛だという言い伝えもあるし、維盛の子孫小松佐衛門左重清だという説もある。また、重盛 19 世の孫小松左京太夫重森という話もある。昔から先祖祭が現存して、陰暦の2月4日には各戸から赤旗をもって先祖の墓に集まる。		
風穴（ふうけつ）	長谷	浦
浦村の風穴といひ伝ふる所あり。前浦奥浦の間山の尾先に松柏茂りたる森の内に、屈曲の岩重なりたる中に穴ありて常に風を生ず。此岩を動かし或は穴を見んとすれば、必ず大風吹きて荒れる。よって里の民、制して寄ることを禁ず。此岩の上に風穴大明神といふほこらあり。この穴の口へ鼻紙を置けば今も吹き上るとぞ。		
巫子淵（みこぶち）	長谷	浦
昔、平維盛が紀州より落ち延びて、浦に住居を構えて住みついた時、本妻と白拍子（巫子）、2人の妻を伴ってきた。浦は狭い土地なので、2人の妻が同居して生活をしていくことは難しく、白拍子（巫子）は、自分が身を引くのが維盛様のために一番良いことだと悲しい決心をした。それでどこか良い場所はないかと三峰川をさかのぼり、この淵にたどりついた。こここそ本当に良い場所だとして、手を合わせ念仏をとえながら淵に身を投げた。後に維盛がこの事を聞いて涙を流してあわれんだ。巫子が残っていた鈴を祀ってその霊を慰めたといわれる。		

※本編第3章の各地域の主な歴史文化資源の中に掲載されているもののみを一覧表にまとめました。

本表は、各地区の『古い地名調査報告書』と、各地域の『歴史・地名ものがたり』を元に一部抜粋・一部改変したものです。

伊那市文化財保存活用地域計画
資料編

令和6年(2024年)7月19日認定

編集・発行 伊那市教育委員会

〒396-8617 長野県伊那市下新田 3050 番地
電 話 : 0265-78-4111(代)
email : sgs@inacity.jp
